



文部科学省「地(知)の拠点整備事業」=大学COC事業(平成25~29年度)
長岡大学COC事業=長岡地域<創造人材>養成プログラム

平成26年度報告書



第2回悠久山・東山フォーラム



創造人材シンポジウム



まちの駅全国大会



企業HP改善調査



女性のための起業セミナー



ながおかパル街



高齢者買物同行



Eボート試乗会



「十分杯」:インターンシップ新潟フォーラムで発表

平成25~29年度 文部科学省「地(知)の拠点整備事業」採択



長岡地域<創造人材>養成プログラム

長岡市等と連携して地域課題の解決を担う専門的能力を身につけた学生・社会人=<創造人材>を養成!



地域志向の
教育 研究 社会貢献を
推進し、**地域のための大学**
をめざします!



平成27年3月

長岡大学

文部科学省「地（知）の拠点整備事業」＝大学COC事業（平成25～29年度）



はじめにー長岡大学COC事業の平成26年度報告書刊行にあたってー

長岡大学長／長岡大学地（知）の拠点整備事業推進本部長 内藤 敏樹

長岡大学の取組み＝長岡地域＜創造人材＞養成プログラムが、平成25年度文部科学省「地（知）の拠点整備事業＝大学COC事業」に採択されました（平成25～29年度の5年間）。本報告書は、平成26年度の事業をとりまとめたものであります。

この大学COC事業は、大学が自治体等と連携し、全学的に地域を志向した教育・研究・社会貢献を進めて、地域コミュニティの中核的存在（課題解決に資する人材・情報・技術の集積拠点）となり、地域コミュニティの再生・活性化の核＝拠点となる大学へと、自ら改革することを支援する事業です。つまり、「地域のための大学」づくりを促進し、大学の機能別分化を進めようとする政策（文部科学省）を反映した事業です。

本学の長岡地域＜創造人材＞養成プログラムは、長岡市と連携し、長岡地域の地域課題と向き合い、地域課題解決・価値創造を担う専門的能力を身につけた学生・社会人＝＜創造人材＞の養成を通して、この3つの地域課題（産業活性化、社会課題解決及び地域・コミュニティ活性化の3つ）に応えようとするものです。この事業を通して、「地域で役に立ち、頼りになる大学」を目指します。

★＜創造人材 Creative Talents＞とは、科学者、技術者、経営者、諸専門家、音楽家、芸術家などいわゆる専門的職業従事者（国勢調査）を指します。近年の研究で、＜創造人材＞が経済社会の発展、競争力の源泉になっていることが明らかにされています。本プログラムでは、長岡大学の経済経営系大学という性格から、課題解決・価値創造を担うマネジメント系専門人材、起業家、政策づくり専門人材、地域活性化・まちづくり専門人材、ボランティア・リーダーなどを指す人材と考えております。

さて、本学申請の「長岡地域＜創造人材＞養成プログラム」は、平成25年8月2日に、平成25年度文部科学省の大学COC（center of community）事業に採択されました。採択状況は厳しいものでした。平成25年度の大学の全国の総申請数（単独・共同計）は289件、採択51件、採択率は17.6%でした。うち、私立大学は総申請数180件、採択15件、採択率8.3%でした。平成26年度は、全国がそれぞれ、198件、24件、12.1%、私立大学はそれぞれ、138件、16件、11.6%でした。新潟県内大学では、平成25年が申請6件（全大学数は17）、採択は1件、平成26年度は申請7件、採択0件で、県内大学では長岡大学が唯一の採択大学となりました。

本学は、採択後、地域連携研究センターを設立し、プログラムの全学的な推進体制を形成し、平成26年度からは推進本部を立ち上げ、P（Plan）－D（Do）－C（Check）－A（Action）のサイクルをまわして、事業を推進してきました。

平成27年度は、本プログラム3年度目に入りますが、本事業は国の地方創生事業の一環に位置づけられ、「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業」として進めることとなります。本学も、まさに、地方創生に資するCOC事業として、全力で取り組みますので、ご協力ご支援をお願い申し上げます。

平成27年3月

長岡大学COC事業＝長岡地域＜創造人材＞養成プログラム
平成26年度報告書

・ ・ ・ 目 次 ・ ・ ・

はじめにー長岡大学COC事業の平成26年度報告書刊行にあたってー

長岡大学長／長岡大学地（知）の拠点整備事業推進本部長 内藤 敏樹

I	長岡大学の「地（知）の拠点整備事業」＝COC事業の概要	
1	「地（知）の拠点整備事業」（平成25年度採択）の概要	1
2	長岡大学の目的・目標を踏まえた「地域志向」	1
3	対象地域と地域課題	2
4	長岡大学「長岡地域＜創造人材＞養成プログラム」の全体の枠組み	3
II	事業推進体制と平成26年度経過報告	
1	平成26年度助成（補助金）	5
2	推進体制	5
3	平成26年度経過報告	7
III	＜教育＞における事業展開	
1	諸専門能力の養成ー教育①ー	12
2	地域志向・学修科目ー教育②ー	21
3	現場感覚・知識の養成ー教育③ー	22
4	社会人基礎力の養成（地域活性化プログラム）ー教育④ー	29
5	ボランティア・スキルの養成ー教育⑤ー	47
6	社会人基礎力の養成（インターンシップ）ー教育⑥ー	51
7	学生起業人材の養成ー教育⑦ー	55
8	学生満足度調査等の実施ー教育⑧ー	63
IV	＜研究＞における事業展開	
9	研究成果の地域への還元（創造人材調査研究）ー研究①ー	74
10	地域との共同研究（地域志向教育研究）ー研究②ー	83
11	研究成果の地域への還元（平成27年度準備）ー研究③ー	87
V	＜社会貢献＞における事業展開	
12	高齢化・人口減社会における地域活性化の推進ー社会貢献①ー	90
13	市民向け公開講座・セミナーの開催ー社会貢献②ー	100
14	企業人向けセミナーの開催ー社会貢献③ー	108
15	起業人材養成セミナーの開催ー社会貢献④ー	115
VI	推進体制の整備	
16	推進体制の整備ー全体①ー	123
17	推進協議会・地域課題調整部会の開催ー全体②ー	128
18	本事業の広報の充実ー全体③ー	129

I 長岡大学の「地（知）の拠点整備事業」＝COC事業の概要

1 「地（知）の拠点整備事業」（平成25年度採択）の概要

長岡大学が平成25年度に採択された「地（知）の拠点整備事業」の概要は、次の通りである。

大学名	長岡大学
事業名	長岡地域＜創造人材＞養成プログラム
申請者	内藤敏樹 学長
連携する自治体	長岡市
企業等各種団体・機関	長岡商工会議所、日本政策金融公庫長岡支店、一般社団法人全国信用組合中央協会、公益社団法人中越防災安全推進機構、株式会社北越銀行、NPO法人長岡産業活性化協会NAZE、NPO法人市民協働ネットワーク長岡
学部等	経済経営学部
申請経費	平成25～29年度（5年間、年補助上限5,800万円）
事業概要（400字以内）	<p>本プログラムは、長岡地域の地域課題（産業活性化、社会課題解決及び地域・コミュニティ活性化）に向き合い、課題解決・価値創造を担う専門的能力を身につけた学生・社会人＝＜創造人材＞の養成を通して、この地域課題に答えようとするものである。</p> <p>教育面では、①諸専門的能力の養成、②地域学修科目の拡大、③地域学修科目による社会人基礎力等の養成、④学生起業人材の養成、を行う。</p> <p>研究面では、主な地域課題の研究（創造人材・人口減少・ボランティア活動・産業競争力研究等）に加え、地域志向教育研究にも注力し、成果の地域還元を図る。</p> <p>社会貢献面では、①地域活性化の推進、②市民講座・企業人セミナーの開催、③地域起業人材の養成、に取り組む。</p> <p>以上の事業の推進を通して、「＜創造人材＞養成で地域に貢献する大学」（地域で役に立ち、頼りになる大学）へと本学を改革する。そのため、カリキュラムの改革、地域連携の強化、推進体制の確立に努める。【398字】</p>

2 長岡大学の目的・目標を踏まえた「地域志向」

(1) 長岡大学の「地域志向」の位置づけ

本学の「地域志向」は、次の2つの＜建学の精神＞に位置づけられている。

＊幅広い職業人としての人づくりと実学実践教育の推進

＊地域社会に貢献し得る人材の育成

より具体的には、次の理念・目標に表現される。

☆経済経営系の大学として、地域産業の人材ニーズに応えた実践的な能力を身につけた若者人材をおくりだし、地域経済の発展に貢献する。

☆大学の知的資産の活用により、市民・企業人向け講座により学習機会を提供するとともに、地域課題研究成果の還元や地域活性化に積極的に取り組む。

この基本的観点が、教育、研究、社会貢献に貫かれている。「地域志向」の内容は次の通りである。

(2) 教育・研究・社会貢献の「地域志向」

★教育面・・・本学の教育（産学融合教育プログラム）は、大きく、専門教育（資格対応型専門教育プログラム）とキャリア教育（ビジネス展開能力開発・産学連携キャリア開発教育プログラム＝社会人基礎力養成）から構成されている。平成 18～21 年度に選定された 2 つの文部科学省・現代 G P 教育プログラム（「産学融合型専門人材開発プログラム」および「学生による地域活性化提案プログラム」）は、主として、後者のプログラムであり、地域志向の教育（地域の企業との連携により、企業講師、現場・企業体験、地域課題解決授業等）を導入し、成果をあげた（こうした実践的能力形成により、就職内定率は向上、平成 25 年 3 月卒業生の就職内定率は 99.0%）。

今回は、これまでの成果の上にたち、地域課題解決をより明確に意識したく地域連携型キャリア教育として発展させ、将来の地域社会の発展を担う＜創造人材＞（課題解決型・価値創造型専門人材）の育成をめざす。

★研究面・・・地域課題解決（主として新潟・長岡地域）に関する本学教員の調査・研究は、国（科学研究費等）や自治体（受託調査研究等）等の研究資金を確保して展開されてきた（教員個人、地域研究センター等）。個々の教員の県内地域課題の調査研究（産業等）成果の地域への還元は、情報発信等（公開シンポジウム、研究年報等）の形で毎年行っている。同時に、地域課題解決型の受託調査研究（国の M O T 人材育成教育、新潟県の起業家教育等競争的資金）が、新たな社会貢献事業（社会人学び直しイノベーション人材養成講座、地域若者起業家塾）の開始につながり、継続し、企業の専門人材育成に役立っている。

今回は、この成果の上に立ち、長岡市等との問題意識の協議を経て地域課題解決研究テーマを設定する＜地域課題対応型連携研究＞を展開し、その成果を教育と地域社会に還元する。とくに、創造人材育成や人口減少への対応、産業競争力強化など、地域の発展に不可欠な課題解決テーマに取り組む。

★社会貢献面・・・本学独自の社会貢献組織（地域研究センター、生涯学習センター）により、地域の課題・ニーズに対応した自主研究、受託研究、人材育成講座及び情報発信（公開シンポジウム、講演会、研究年報等）を継続的に行い、高い評価を得てきた（大学の地域貢献度ランキング調査で全国上位にランクされる）。

今回は、まず、地域研究センターと生涯学習センターを再編・一本化した「地域連携研究センター」を設立し、社会貢献事業の推進組織面での強化、拡大を図る。その上で、上記の＜連携研究＞による地域還元の推進のほか、市民、企業人の＜創造人材＞育成に注力するとともに、本学総体での、様々な地域活性化の活動領域への積極的参加をめざすことで、＜地域活性化と人材育成＞を推進する。

3 対象地域と地域課題

当プログラムの対象地域は、新潟県長岡市である。長岡市は、平成 17～22 年の間に 11 市町村の合併により誕生した（長岡市、中之島町、越路町、三島町、山古志村、小国町、和島村、寺泊町、栃尾市、与板町、川口町の 11 市町村）。

本学の人的資源（経済経営系学部の人材）やこの間の地域活性化の取り組み実績を踏まえ、今回の申請による解決を図ろうとする長岡地域の課題を整理すると、次の通りである。

★まず第1の課題として、産業の活性化による地域経済の発展をあげなくてはならない。経済のグローバル化に伴う国内外の企業・産業大競争における生き残りをめざして、長岡地域の企業・産業の競争力の向上により、地域の就業機会を維持・拡大し、産業空洞化を回避しなければならない。同時に、創業・起業活性化による新産業を育成し、産業の新陳代謝による地域経済の発展を図る必要がある。その鍵は、価値を生む人材育成にあり、そこに焦点を絞って、産官学の連携で強力に推進する必要がある。

★第2は、市民協働による社会課題の解決である。少子高齢化や環境問題等に伴う市民生活上の社会諸課題の改善・解決である。高齢社会の進展に伴う健康（スポーツ等）、医療、福祉（介護制度等）の問題、地域社会活性化をリードする教育・文化（祭り、イベント等）、国際交流の促進、さらに深化する環境問題（3R、環境教育、環境経営、自然環境等）など、多様な市民生活上の課題解決への取り組みが求められている。行政の施策と連携した市民協働（ボランティア活動等）の広がりによる対応が不可欠であり、そうした課題解決を担う人材の育成が重要になる。

★第3に、地域・コミュニティの活性化をあげなくてはならない。少子高齢化の進行等による地域・コミュニティの人口減少（過疎化）傾向が拡大し、活力の劣化が見られる。合併による広域化も加わって、長岡市内の各地域・コミュニティの活性化は、喫緊の大きな課題となっている。各地の地域資源（歴史・文化・産業等）の発掘や地域間交流の活発化等による＜脱衰退・新しい活性化＞が、里山地域から中山間地域まで、求められている。市民協働活動の充実・拡大とボランティア人材の養成により、地域・コミュニティの活性化を推進する必要がある。

4 長岡大学「長岡地域＜創造人材＞養成プログラム」の全体の枠組み

本学の「長岡地域＜創造人材＞養成プログラム」の全体の概要は、図表1-4-1に示す通りである。

(1) 地域課題と創造人材

地域課題は、産業活性化、社会課題解決及び地域・コミュニティ活性化の3つに設定している。本プログラムは、こうした地域課題と向き合い、地域課題解決・価値創造を担う専門的能力を身につけた学生・社会人＝＜創造人材＞の養成を通して、この3つの地域課題に応えようとするものである。

★＜創造人材 Creative Talents＞とは、科学者、技術者、経営者、諸専門家、音楽家、芸術家などいわゆる専門的職業従事者（国勢調査）を指す。近年の研究（R. フロリダ等）で、＜創造人材＞が経済社会の発展、競争力の源泉になっていることが明らかにされた。本申請では、本学の経済経営系大学という性格から、課題解決・価値創造を担うマネジメント系専門人材、起業家、政策づくり専門人材、地域活性化・まちづくり専門人材、ボランティア・リーダーなどを指すものとする。

(2) 教育面（地域連携型キャリア教育）

3つの地域課題に対応できる教育として、①諸専門的能力の養成、②地域学修科目の拡大、③地域学修科目（キャリア教育）における社会人基礎力（社会人として通用する能力）等の養成、

の3つを行う。①は上級の情報や専門資格取得による専門人材育成、②は19科目から33科目に拡大、③は、ボランティア活動への参加（社会貢献）を通じたボランティア・スキルの養成、課題解決提案（社会貢献）を通じた社会人基礎力の養成などを行う。産業活性化の課題にたいしては、④学生起業人材の養成を行う。これにより、起業家予備人材の輩出と地域の学生の起業家精神の涵養をめざす。

教育面では、専門能力、ボランティア・スキル、社会人基礎力を身につけた学生と学生起業家の養成をめざす。

（3）研究面（地域課題対応型連携研究）

研究面では、①地域への研究成果の還元、②地域との共同研究、に取り組む。①は、3つの地域課題解明・解決に関する、創造人材・人口減少・ボランティア活動等の3つの共同研究、及び、産業活性化に資する産業競争力研究、にそれぞれ取り組み、その成果の地域還元（公開シンポジウム等）を行う。②は、本学教員の地域志向型教育研究による共同研究であり、これも活発化し、地域課題解決に資する。

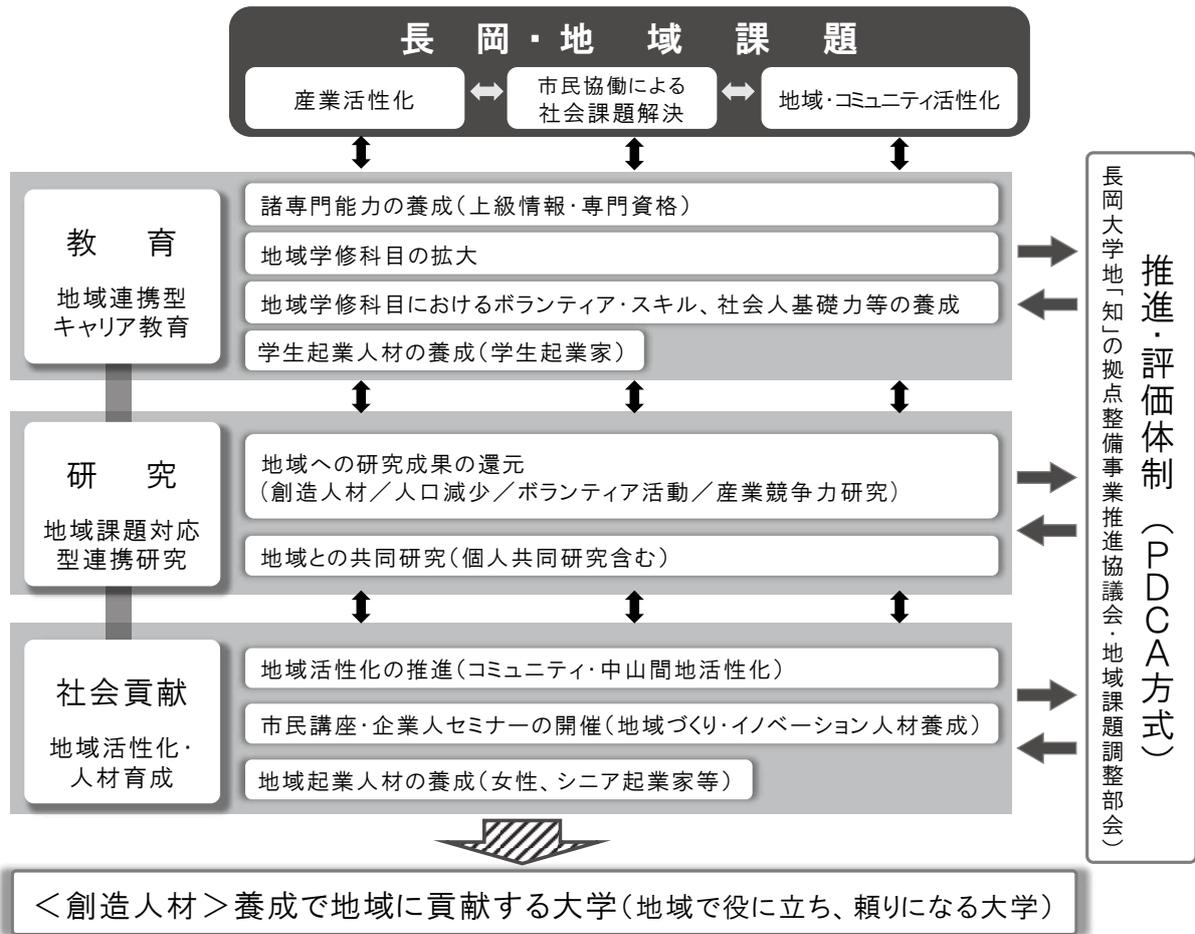
（4）社会貢献（地域活性化と人材育成）

社会貢献面では、①地域活性化の推進、②市民公開講座・企業人セミナーの開催、③地域起業人材の養成、の3つの事業に取り組む。①は3地域課題に対応して、教育面の学生の地域活性化・ボランティア活動と連携するとともに、本学立地地区（悠久山地区）の活性化等から他の地域活性化に拡大して、取り組む。②は、市民公開講座で課題解決をめざした地域づくり人材・ボランティア養成、企業人セミナーでイノベーション人材を養成し、企業価値創造・企業競争力強化に取り組む。③は女性・シニア含む起業家育成による創業・起業、ソーシャルビジネス起こしを促進し、新産業育成に資する。

（5）大学改革の方向

以上の事業の着実な推進を通して、「＜創造人材＞養成で地域に貢献する大学」（地域で役に立ち、頼りになる大学）へと改革する。「地域に役立つ大学」は、長岡の伝統である＜米百俵の精神＞の現代における継承・実現でもある。そのため、カリキュラムの見直し・改革（地域学修科目、とくにボランティア科目、地域活性化科目、起業家塾の拡大・充実）の推進、地域連携（長岡市等）の強化、さらに、地域志向事業全般の推進・評価体制（地域連携研究センター設立等とPDCAの徹底）の確立を図る。

図表 1-4-1 長岡地域<創造人材>養成プログラム 全体図



II 事業推進体制と平成26年度経過報告

1 平成26年度助成(補助金)

平成26年度の文部科学省からの助成(補助金)は、47,542千円である。なお、平成25年度の助成(補助金)は、32,231千円であった。

2 推進体制

(1) 事業担当部門の再編

- ・1次事業担当・・・COC事業は17事業(教育7、研究3、社会貢献7)からなるが、この事業の直接の推進担当は、教員+事務の2名が担う。
- ・事業担当事務組織・・・この1次担当を支援する事務組織は、教育事業は教務学生課+地域連携室、研究は総務課+地域連携室、社会貢献は地域連携室とした。
- ・地域連携研究センター・・・地域連携研究センターはCOC事業以外の事業も担うので、COC事業については、研究分野を調査研究部会、市民公開講座分野を市民講座部会、社会貢献分野を地域連携部会で担うように変更した。当センターの事務は地域連携室が担う。

- ・推進本部・・・前年までの地域連携研究センター運営委員会に替わって、地（知）の拠点整備事業推進本部を設置し、OC事業全体企画・推進・点検（PDCAサイクル）を担う全学組織とした。推進本部の事務は地域連携室が担う。
- ・COC関連広報機能は、広報会議（教員＋事務担当者）を立ち上げ、学務・総務課と連携して地域連携室が担う。

（2）地域連携研究センター

- ・同センター所長・学長（内藤敏樹）、総括マネージャー・副学長（原田誠司）が兼務する。
- ・地域連携研究センター運営委員会・・・次の陣容で構成する。月1回開催。運営委員長－原田、市民講座担当運営委員－牧野、西俣、調査研究担当運営委員－村山、広田、地域連携担当－米山、村山、コーディネーター－南雲、脇田、地域連携室長－品川、地域連携室－山田（書記）。事務は地域連携室担当。
- ・各部会・・・調査研究部会：部会長・村山、副部会長・広田、部会員・牧野、西俣、原田、近藤（書記）。市民講座部会：部会長・牧野、副部会長・西俣、部会員・児嶋、橋長、品川、近藤（書記）。地域連携部会：部会長・米山、副部会長・村山、部会員・南雲、脇田、品川、山田、恩田（書記）。情報共有のため、必ず、議事要旨をセンター運営委員およびCOC推進事務局員に送信する。

（3）COC事業推進本部

- ・地（知）の拠点整備事業推進本部会議・・・次の委員で構成し、月1回進捗状況をチェックする。
- ＊本部委員（各事業責任者）は次の通り。推進本部長・内藤敏樹（学長）、推進副本部長・原田誠司（副学長）、推進本部委員・高橋治道（教務委員長）、中村大輔（教務委員／資格／FD）、西俣先子（教務委員／資格／FD）、松本和明（学生委員長）、広田秀樹（学生委員／満足度調査）、牧野智一（学生委員／市民講座）、米山宗久（学生委員／地域活性化）、山川智子（学生委員／資格）、鯉江康正（入学委員長／地域活性化プログラム）、村山光博（入学委員／広報）、小松俊樹（就職委員／学生起業人材／企業人セミナー）、今瀬政司（ボランティア体験等）、関義夫（自己点検）、児嶋俊郎（図書館）、南雲 渉（コーディネーター）、脇田妙子（コーディネーター）、品川十英（事務局長／地域連携室長）、井比 亨（教務学生課長）、三浦康弘（総務課長）、山田満智子（書記）、以上22名。
- ・運営事務局会議・・・次のメンバーで、毎週火曜日に会議をもち、その結果を事務局会議通信として、全教職員に発信し、情報共有を図る。
原田誠司（副本部長）、米山宗久（地域連携部会長・准教授）、品川十英（事務局長・地域連携室長）、井比亨（教務学生課長）、三浦康弘（総務課長）、山田満智子（書記）。

（4）推進協議会

- ・長岡市を始めとする地域連携機関との連携により、長岡大学COC事業の企画・展開・点検（PDCA）を推進する場として、「長岡大学地（知）の拠点整備事業推進協議会」を設置する。年1～2回開催。メンバーは次の通り。
会長／議長 内藤敏樹 長岡大学学長／教授
<連携機関等委員（敬称略）>
中村英樹 長岡市市長政策室政策企画課長

竹田秀雄 長岡市商工部工業振興課長
 長谷川和明 長岡商工会議所営業推進部長
 伊藤定史 日本政策金融公庫長岡支店長
 遠藤公一 株式会社北越銀行コンサルティング営業部長
 安藤明彦 NPO法人長岡産業活性化協会NAZE事務局長
 羽賀友信 NPO法人市民協働ネットワーク長岡
 山口壽道 公益社団法人中越防災安全推進機構業務執行理事
 佐藤 勝 公益財団法人山の暮らし再生機構専務理事兼事務局長
 <大学側委員>

*上記の推進本部委員が大学側協議会委員を務める

・地域課題調整部会

地域連携機関との連携を密にし、協同で事業推進を図るため、月1回、月末の月曜日に調整部会を開催する。メンバーは、次の通りである。

鈴木武明 長岡市市長政策室政策企画課主任
 植村 裕 長岡市商工部工業振興課工業振興係長
 渡邊 聡 長岡商工会議所営業推進部産業課工業係長
 原田誠司、米山宗久（長岡大学側メンバー）

3 平成26年度経過報告

<平成26（2014）年>

実施日	事業内容
4月8日（火）	平成26年度地域連携研究センター第1回市民講座部会
4月16日（水）	平成26年度地域連携研究センター第1回運営委員会（3部会設置）
4月22日（火）	平成26年度第1回推進本部（平成26年度推進体制）
4月28日（月）	平成26年度第1回地域課題調整部会
5月20日（火）	平成26年度第2回推進本部（平成25年度COC実績報告書、COCアンケート結果、平成26年度事業計画、主なスケジュール）
	平成26年度地域連携研究センター第2回市民講座部会
5月22日（木）	平成26年度地域連携研究センター第2回運営委員会（センター研究委員公募）
5月26日（月）	平成26年度第2回地域課題調整部会
5月27日（火）	平成26年度地域連携研究センター第1回調査研究部会
5月28日（水）	平成25年度大学改革推進等実績報告書提出
6月11日（水）	平成26年度地域連携研究センター第1回地域連携部会
6月15日（日）	新潟日報朝刊に長岡大学COC事業の広告を掲載
6月17日（火）	平成26年度第3回推進本部（平成26年度COC事業推進協議会、事業計画、主なスケジュール）

実施日	事業内容
6月17日（火）	平成26年度地域連携研究センター第3回市民講座部会
6月18日（水）	平成26年度地（知）の拠点整備事業交付申請書提出
6月18日（水）	平成26年度第1回地（知）の拠点整備事業推進協議会開催
6月19日（木）	平成26年度地域連携研究センター第3回運営委員会（受託調査報告）
6月24日（火）	平成26年度地域連携研究センター第2回調査研究部会
6月26日（水）	ブックレット40号「長岡大学資格取得のすすめ」発行、配布
6月30日（月）	平成26年度第3回地域課題調整部会
7月1日（火）	女性のための起業セミナー（～7/29（火）：5回）
	創業支援メンター制度開始
7月9日（水）	平成26年度地域連携研究センター第2回地域連携部会
7月15日（火）	平成26年度第4回推進本部（平成26年度事業進捗状況、主な事業年間スケジュール）
	平成26年度地域連携研究センター第4回市民講座部会
7月16日（水）	起業家塾セミナー
7月16日（水）	平成26年度地域連携研究センター第4回運営委員会（研究年報の募集）
7月22日（火）	創造人材アンケート調査実施
	平成26年度地域連携研究センター第3回調査研究部会
7月28日（月）	平成26年度第4回地域課題調整部会
7月30日（水）	悠久山・東山マップ作成現地調査（7月30、31日）
7月30日（水）	職員全体SD研修会「大学の理念・方針・現状」
7月31日（木）	FD/SD研修：金沢工業大学にて、組織運営等ヒアリング、施設等の視察
	ブックレット41号「高齢者の買物支援」発行、配布
8月18日（月）	夏季集中・学生起業家塾開講（8月21日まで4日間）
8月27日（水）	夏季集中FD/SD研究会“AL教育手法” 講師：上智大学経済学部教授川西諭氏
8月28日（木）	平成26年度地域連携研究センター第3回地域連携部会
9月1日（月）	平成26年度第5回地域課題調整部会
9月2日（火）	平成26年度地域連携研究センター第4回調査研究部会
	平成26年度地域連携研究センター第5回市民講座部会
9月9日（火）	平成26年度第5回推進本部（平成26年度事業進捗、当面する事業）

実施日	事業内容
9月10日(水)	平成26年度地域連携研究センター第5回運営委員会(受託調査について)
9月13日(土) ～9月14日(日)	学生参画型FDに参加「全日本授業評価アンケート決定戦!～形だけのアンケートから機能するアンケートへ～」
9月24日(月)	平成26年度地域連携研究センター第4回地域連携部会
9月25日(火)	市民公開講座「初級簿記実践講座」(～11/13(木)15回)
9月26日(金)	悠久山・東山マップ作成委員会
9月29日(月)	平成26年度第6回地域課題調整部会
10月7日(火)	イノベーション人材養成講座第I期:商品企画講座開講(～11/25(火):8回)
	平成26年度地域連携研究センター第5回調査研究部会
10月8日(火)	イノベーション人材養成講座第I期:人材活用講座開講(～11/26(水):8回)
10月9日(木)	市民公開講座「N0.1の国、アメリカが教えてくれるもの」開講(～10/30(木):4回)
10月14日(火)	平成26年度地域連携研究センター第6回市民講座部会
10月19日(日)	第12回SDフォーラムに参加「変化の時代に求められる自律的人材」
10月21日(火)	平成26年度第6回推進本部(平成26年度事業進捗、目標達成割合、予算進捗等、当面する事業)
10月22日(水)	平成26年度地域連携研究センター第6回運営委員会(地域連携研究、ものづくりフェア、センターシンポジウム)
10月23日(木)	平成26年度地域連携研究センター第5回地域連携部会
10月25日(土)	悠久山・東山マップ作成ワークショップ
10月27日(月)	平成26年度第7回地域課題調整部会
11月5日(水)	FD/SD研究会「インターンシップ等について」 講師:新潟大学農学部教授箕口秀夫氏、コーディネーター古俣清勝氏
11月6日(木)	市民公開講座「映画で見る中国現代史」開講(～11/20(木):3回)
11月9日(日)	創業・新ものづくり講演会
11月11日(火)	市民公開講座「地域交通と中越地方100年のあゆみ」開講(～12/2(火):4回)
	平成26年度地域連携研究センター第6回調査研究部会
11月13日(木)	平成26年度第1回人口問題研究会
	平成26年度地域連携研究センター第6回地域連携部会
11月17日(月)	地域連携研究第1号(通巻24号)発行
11月18日(火)	平成26年度第7回推進本部(平成26年度前期事業進捗、後期事業計画、平成27年度に向けた意向調査、当面する事業)
	平成26年度地域連携研究センター第7回市民講座部会

実施日	事業内容
11月21日（金）	2014 地域連携研究センターシンポジウム
11月25日（火）	平成26年度地域連携研究センター第7回運営委員会（受託調査報告）
11月26日（水）	F D研究会「公的研究費に関するコンプライアンスについて」
12月1日（月）	イノベーション人材養成講座第Ⅱ期：ものづくりマネジメント講座開講（～2/16（月）：8回）
12月2日（火）	イノベーション人材養成講座第Ⅱ期：管理会計講座開講（～2/3（火）：8回）
12月6日（土）	平成26年度学生による地域活性化プログラム成果発表会
12月9日（火）	平成26年度地域連携研究センター第7回調査研究部会
12月10日（木）	平成26年度地域連携研究センター第7回地域連携部会
12月13日（土）	地域交流会
12月14日（日）	高知工科大学主催2014公開講座「地域活性化システム論」において長岡大学COC事業の概要を説明（副学長 原田誠司）
12月16日（火）	平成26年度第8回推進本部（平成26年度予算進捗、平成27年度に向けた意向調査、当面する事業）
12月16日（火）	創業セミナー（～2/10（火）：8回）、創業支援メンター制度開始
	平成26年度地域連携研究センター第8回市民講座部会
12月17日（水）	平成26年度地域連携研究センター第8回運営委員会（地域貢献度ランキング）
12月22日（月）	平成26年度第8回地域課題調整部会
12月24日（水）	平成26年度第2回人口問題研究会

<平成27（2015）年>

1月5日（月）	学生満足度調査実施（約2週間）
1月6日（火）	平成26年度地域連携研究センター第8回調査研究部会
1月14日（水）	平成26年度地域連携研究センター第8回地域連携部会
1月20日（火）	平成26年度地域連携研究センター第9回運営委員会（謝金規程等について）
1月20日（火）	平成26年度第9回推進本部（平成26年度予算進捗、平成26年度COC事業報告平成27年度調書・補助金等、平成27年度地方創生事業、当面する事業）
1月26日（月）	平成26年度第9回地域課題調整部会
1月27日（火）	平成26年度地域連携研究センター第9回市民講座部会
1月28日（水）	“高等教育コンソーシアムにいがた”において「COCの概要と大学と地域に与える効果について」講演（副学長 原田誠司）
2月3日（火）	平成26年度地域連携研究センター第9回調査研究部会
2月4日（水）	平成26年度第3回人口問題研究会

実施日	事業内容
2月4日(水)	市民公開講座「メンタルヘルス・マネジメント」(～3/11(水):5回)
2月7日(土)	創業・起業セミナー「人材オーブ塾」講師:(株)ユビキタスエンターテイメント代表取締役社長兼CEO清水亮氏
2月12日(木)	平成26年度第1回・第2回創造人材研究会
2月14日(土)	平成26年度第3回創造人材研究会
2月17日(火)	平成26年度地域連携研究センター第10回運営委員会(悠久山・東山フォーラム)
2月17日(火)	平成26年度第10回推進本部(平成26年度予算進捗、平成26年度COC事業報告書、平成27年度調書、平成27年度COCプラス等、平成27年度地方創生関係事業)
2月18日(水)	平成26年度地域連携研究センター第9回地域連携部会
2月21日(土)	平成26年度第4回創造人材研究会
2月23日(月)	平成26年度第10回地域課題調整部会
2月25日(水)	平成26年度地域志向調査研究成果発表会
2月27日(金)	SD研修会「留学生の日本国内での就職事情」講師:南国際行政書士事務所南直人氏
2月27日(金) ～2月28日(土)	文部科学省「地(知)の拠点整備事業」COC全国ネットワーク化事業“地(知)の拠点整備から地方創生へ”シンポジウムに参加
2月28日(土) ～3月1日(日)	大学コンソーシアム京都主催2014年度第20回FDフォーラムに参加
3月3日(火)	平成26年度地域連携研究センター第10回市民講座部会
3月4日(水)	平成26年度第4回人口問題研究会
	平成26年度地域連携研究センター第10回調査研究部会
	インターンシップ新潟フォーラムで地域活性化プログラム参加学生が発表
3月7日(土)	第2回悠久山・東山フォーラム「悠久山・東山マップの完成報告」
3月17日(火)	平成26年度第11回推進本部
	FD/SD研修:松本大学にて、地域連携・地域貢献、組織体制・運営等についてのヒアリング、地域連携施設の視察
3月18日(水)	平成26年度地域連携研究センター第10回地域連携部会
3月23日(月)	平成26年度第11回地域課題調整部会
3月25日(水)	平成26年度本事業活動報告書発行
3月27日(金)	長岡市工業振興課による「ものづくり支援施策説明会」で説明

Ⅲ <教育>における事業展開

0 <教育>の取組み

地域課題に対応できる<教育>の取組みの柱は、①諸専門的能力の養成（上級の情報・専門資格取得による専門人材育成）、②地域志向科目の拡大（19科目から33科目への拡大）、③地域志向科目における社会人基礎力等の養成（ボランティア・スキルの養成、課題解決提案やインターンシップを通じた社会人基礎力の養成）、さらに、④学生起業人材の養成（産業活性化対応）の4本である。教育面の取組みでは、専門能力、ボランティア・スキル、社会人基礎力を身につけた学生と学生起業家の養成をめざす。

1 諸専門能力の養成—教育①—

（1）方針（申請時）

- ・資格対応専門教育プログラムにおいては、学卒生に求められる上級情報処理能力（ITパスポート、Excel/Word 1・2級等）と専門能力（日商簿記1・2級、販売士1・2級等）の取得を、正規授業に加えて、対策講座の充実により推進する。学生TAも十分に活用する。

（2）目標（申請時）

- ・平成25年度→情報資格取得者各学年20%、専門資格取得者各学年10%。
- ・平成29年度→同情報資格の取得目標—卒業生数の60%
→同専門資格の取得目標—卒業生数の40%

（3）平成25年度実績と評価

（上級資格受験結果）

- ・上級専門資格：受験総数37名、合格者数18名、取得割合5.3%（合格者÷在学生数）
- ・上級情報資格：受験総数78名、合格者数43名、取得割合12.8%（合格者÷在学生数）

（資格直前対策講座実施結果）

- ・講座受講総数57名、検定受験割合：36名（63%）、検定合格者割合：21名（58.3%）

（評価）

- ・上級専門資格5.3%、上級情報資格12.8%であり、平成25年度目標値（20%・10%）に達しなかった。未達成要因としては、資格取得幹旋が不十分であり、学習サポート体制の未整備が挙げられる。
- ・資格直前対策講座実施結果については、受講者の検定合格者割合が58.3%となり、一定の講座の成果が見て取れるが、受講者総数の伸び悩みが課題となった。その原因としては、学内周知が不十分であったこと、講座開始時間が18:00以降の遅い時間帯であったことが考えられる。

（4）平成26年度方針・目標・予算

【方針】

- ・諸専門能力の養成・・・上級の情報（Excel/Word 1・2級、PowerPoint 上級、ITパスポートの6資格）および専門能力（日商簿記1・2級、販売士1・2級、経済学検定、経営学検定、福祉住環境コーディネーター2級、eco検定、医療事務、消費生活相談員の10資格）

の資格取得のための対策講座を各試験の直前講座として開催する。各資格対策講座1回（10時間）。

【目標】

平成29年度目標（卒業生上級情報資格取得60%、同専門資格取得40%）を視野に入れ、平成26年度目標を下記のとおり設定する。

- ・4年生（卒業生） 上級情報資格保有者40%、同専門資格保有者15%
- ・3年生 上級情報資格保有者30%、同専門資格保有者15%
- ・2年生 上級情報資格保有者20%、同専門資格保有者10%
- ・1年生 上級情報資格保有者15%、同専門資格保有者5%

（5）平成26年度計画

平成25年度評価を踏まえて、次の通り、平成26年度の事業展開方針を定める。

- ・資格取得支援センターにおいて資格受験を斡旋し、各種任意の勉強会・文化系サークルとの連携を図りながら、学習する雰囲気づくりを推進する。
- ・授業以外（各種任意の勉強会・文化系サークルなど）でのターゲットを絞った受講斡旋（個別の受講奨励など）や講座開講時間帯を調整し、受講生増を図る。

具体的な実施企画は下記のとおり。

- ・会計研究会、販売士研究会との連携学習企画（簿記検定特別講義・質問会の実施など）
- ・学友会との連携学習企画（販売士3級勉強会、ITパスポート勉強会）
- ・対策講座受講斡旋において、会計研究会、販売士研究会への受講を促す。

図表3-1-1 平成26年度直前対策講座の実施スケジュール（計画）

講座名	担当講師	開講日程
経済学検定B+対策講座（マクロ経済学編）	牧野 智一	平成26年10月中旬～12月上旬
経済学検定B+対策講座（ミクロ経済学編）	牧野 智一	平成26年10月中旬～12月上旬
経営学検定中級対策講座	松本 和明	平成26年11月上旬～11月下旬
販売士検定1級対策講座	小松 俊樹	平成27年1月上旬～2月上旬
販売士検定2級対策講座	小松 俊樹	平成26年9月上旬～10月上旬
日商簿記検定1級対策講座	中村 大輔	平成26年10月中旬～11月上旬
日商簿記検定2級対策講座	中村 大輔	平成26年11月上旬～11月下旬
ITパスポート対策講座	吉川 宏之	平成26年10月上旬～10月下旬
Word文書処理技能認定試験1級対策講座	高梨 俊彦	平成27年1月下旬～2月上旬
Word文書処理技能認定試験2級対策講座	村山 光博	平成26年6月下旬～7月中旬
Excel表計算処理技能検定試験1級対策講座	村山 光博	平成27年1月下旬～2月上旬
Excel表計算処理技能検定試験2級対策講座	村山 光博	平成26年11月上旬～11月中旬
PowerPointプレゼン技能認定試験上級対策講座	高梨 俊彦	平成26年7月中旬～7月下旬
福祉住環境コーディネーター2級対策講座	米山 宗久	平成26年11月上旬～11月中旬
eco検定試験対策講座	西俣 先子	平成26年10月下旬～12月上旬

(6) 展開

a 資格取得支援センターの活動概要

平成26年4月に「資格取得支援センター」を開設し、資格取得のための学修サポートを開始した。当センターの概要は次表の通りである。

図表3-1-2 資格取得支援センター基本情報

施設名称	資格取得支援センター（呼称：長岡大学COS）
開設	平成26年4月1日
目標	本学の目的「学生に〈充実感・達成感・満足感〉を！ビジネス展開能力と人間力を鍛える」のもと、資格取得支援において、学生が「社会に出てから仕事の幅を広げることができる」「資格の学習過程で実社会の一部を学ぶことができる」「資格取得を通して自分に自信をもつことができる」ことを目標として事業を推進してゆく。
業務概要	<ul style="list-style-type: none">● 資格学習に係る相談・情報提供● 資格試験直前対策講座の企画・運用● 資格試験申込に係る業務● 当該事業に係る情報管理システムの企画・運用
設置場所	本学1号館3F
開室時間	平日8:30～17:00
その他	インターンシップおよびボランティアのコーディネーターを在籍させ、これら取り組みと連携しながら、学修だけでなく対外的に活動できる、コミュニケーション力を有した学生の養成に力を入れる。

当センターの利用状況は、図表3-1-3に示すとおりであるが、4月から3月までの学生の利用者数が1,500名（延べ）を越え、当初想定した以上の利用があった。学修について疑問等が生じた時に、空き時間に気軽に相談できることは、学生の学習意欲の向上と維持にあたり、重要なサービスであると確信した。

第2に、1～2年生の利用が比較的多かった点が注目される。実質的な利用者は各学年10～20%の学生が主であるとみられるが、当センターの存在が、早期に学修に取り掛かる雰囲気づくりに繋がっているとみられる。

第3に、相談内容であるが、資格に関する相談が約40%、日々の授業や学生生活または自分の将来について等の相談が約60%である。特に資格に関する相談については、将来の就職など、幅広い視点で相談を受ける場面が多く、資格学修に特化した相談内容は少ない。その意味では、資格取得相談だけでなく、学業・学生生活相談が多くなっている。相談内容の整理・ファイリングをより効率的に行い、教務・学生関係担当との連携が今後重要になると思われる。

第4に、相談時間であるが、概ね30～60分である。しかし、開設初年度は学生利用を促すためにオープンな雰囲気づくりを心がけ、友人と共に訪れて、誰でも話に参加できるディスカッションスタイルで運用したために、正確な相談時間は測れていない。今後は、本学学生の複数ニーズにより柔軟かつ具体的に対応するために、相談形態を検討し、学生の利便性を高める方式を検討する必要がある。

図表 3-1-3 平成 26 年度資格取得支援センター利用状況 (H27. 3. 17 時点)

単位：人	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
1年生	4	14	48	22	10	33	74	60	48	54	33	1	401
2年生	4	30	83	64	20	38	61	115	65	56	30	6	572
3年生	4	29	88	57	11	13	55	43	38	26	0	7	371
4年生	0	12	20	16	6	10	40	20	14	32	0	0	154
月合計	12	85	239	143	47	94	230	238	165	168	63	14	1498

※延べ人数

b 支援センターの諸活動

b-1 資格学習に係る相談・情報提供、資格試験申込等

1) 資格試験申込受付体制の整備

従来どおり資格試験の団体申込業務を遂行すると共に、以下のとおり従来は個別申込としていた資格試験の団体申込ができるよう、体制整備を行った。

- ・ドットコムマスター ・EC実践能力検定 ・eco 検定 (平成 27 年度から受付可)
- ・福祉住環境コーディネーター (平成 27 年度から受付可)
- ・ITパスポート (平成 27 年度から受付可)

2) 資格ブックレット・リーフレットの発行

資格試験に関する情報発信として、ブックレットおよびリーフレットの発行を行った。

- ◆『資格取得のすすめ』(長岡大学ブックレット Vol. 40)・・・平成 26 年 6 月刊。資格・検定試験の案内、長岡大学の資格制度等の紹介、奨励資格の紹介等。
- ◆資格案内リーフレット・・・平成 26 年年 7 月刊。資格試験と就職内定の関係、企業で求められる力の紹介等 ※株式会社ミロク情報サービス様のご協力を頂いた。

3) 資格試験ガイダンス

販売士検定およびドットコムマスターについて、検定試験のガイダンスを実施した。資格概要、資格取得のメリット、学習方法、質疑応答が主たる内容。受講学生は少数。

- ◆販売士ガイダンス (講師：本学教授 小松俊樹)・・・平成 26 年 7 月 15 日 (火) 16:10～、聴講者：2 名。
- ◆ドットコムマスターガイダンス (講師：NTTコムチェオ(株) 伊藤英仁氏)・・・平成 26 年 7 月 15 日 (火) 16:10～、聴講者：2 名。

4) 地方公務員試験に関する情報共有

平成 26 年度長岡市役所合格者 2 名から、市役所等を志望する学生に対して合格体験を語ってもらう機会を設けた。

- ◆平成 26 年度市役所試験合格体験発表会・・・平成 26 年 2 月 18 日 (水) 13:00～、参加者：11 名。

b-2 資格試験直前対策講座の企画・運用等

1) 資格試験直前対策講座の企画・実施

平成26年度直前対策講座の企画とりまとめ、および講座受講の斡旋を行った。詳細は、後掲の図表3-1-4を参照されたい。

2) 特別講座の実施

直前対策講座以外に、日商簿記検定、福祉住環境コーディネーター、医療事務管理士試験について、担当教員主導のもと、意欲ある学生に対して対策講座を実施した。

- ◆日商簿記検定2級特別講座（講師：本学特任准教授 関根正行）・・・試験日：6月8日（日）、講座日程：5月10日9：00～、24日16：00～、受講者：1名 合格者：1名。
- ◆福祉住環境コーディネーター3級特別講座（講師：本学准教授 米山宗久）・・・試験日：7月6日（日）、講座日程：6月23日、24日16：20～、30日14：40～、7月1日・2日16：20～、受講者：1名 合格者：1名
- ◆医療事務管理士試験特別講座（講師：本学准教授 山川智子）・・・試験日：3月28日（土）、講座日程：3月10日11：00～、15：00～、12日9：30～11：30、13日10：00～14：00、19日13：00～17：00、20日10：00～17：00、24日10：00～16：00、26日10：00～18：00、27日10：00～17：00、受講者：1名。

3) 勉強会の実施

資格取得支援センター内において、2資格の勉強会を実施した。センター担当者がコーディネートをを行い、参加学生が担当範囲の解答・解説を発表しあう形式で、“学生による相互学修”を展開した。

- ◆販売士勉強会・・・試験日：7月12日、期間：5月16日～ 毎週金曜日9：00～12：10、参加者：4名、合格者：2名。
- ◆ITパスポート勉強会・・・試験日：7月26日。期間：5月19日～ 毎週月曜日16：20～17：50、参加者：4名、合格者：2名。

b-3 当該事業に係る情報管理システムの企画・運用

学生の資格取得情報の共有を図るため、データベース構築を行う予定であったが、学内の各種取り組みとの整合性を考慮して今年度は保留とし、従来どおり各部門および委員会への報告を行ってきた。今後は、本学のアカデミックアドバイザー制度等との連携も考慮しつつ、情報共有方法について検討を進めて行きたい。

b-4 その他

- ◆キャリア開発授業におけるアンケートの実施・・・10月21日キャリア開発Ⅰおよび10月23日キャリア開発Ⅱにおいて、資格試験アンケート（受験資格の目標設定）を実施し、回答内容からアドバイス対象学生を抽出のうえ、各ゼミ担当教員に情報を展開した。
- ◆企業見学バスツアーの企画・実施・・・就職活動とリンクした学修アドバイスを行って行くため、就職支援室と連携し、企業見学バスツアーを企画した。
- ◆学生参加型イベントの企画・実施・・・「COS de とく」（学生意見のヒアリング会）の企画・実施ーグループワーク形式で意見交換会実施。日程：10月29日（水）・30日（木）14：40～16：10。参加者：29日：9名、30日：10名。

c 平成 26 年度資格直前対策講座実施状況

平成 26 年度の資格直前対策講座の実施状況は、図表 3-1-4 の通りである。

図表 3-1-4 平成 26 年度資格直前対策講座実施一覧

No	対策講座	実施日	結果データ
1	Word 文書処理技能認定試験 2 級直前対策講座 (村山光博)	H26.6.26 (木) H26.7.1 (火) 7.3 (木) 7.8 (火) 18:00-20:00	受講者：4 名 上級資格受験者：2 名 合格者：1 名 (合格率 50%)
2	PowerPoint プレゼン技能認定試験上級直前対策講座 (高梨俊彦)	H26.7.14 (月) 7.17 (木) 7.21 (月) 7.24 (木) 7.28 (月) 18:00-20:00	受講者：3 名 上級資格受験者：3 名 合格者：3 名 (合格率 100%)
3	日商簿記検定 1 級直前対策講座 (中村大輔)	H26.8.19 (火) 9:00-13:00、8.21 (木) 8.22 (金) 9:00-12:00	受講者：2 名 上級資格受験者：0 名 合格者：1 名 (合格率一)
4	販売検定 2 級直前対策講座 (小松俊樹)	H26.9.13 (土) 9.20 (土) 10:00-16:00	受講者：1 名 上級資格受験者：1 名 合格者：1 名 (合格率 100%)
5	消費生活アドバイザー試験直前対策講座 (橋長真紀子)	H26.9.18 (木) 9.19 (金) 9:00-13:00	受講者：1 名 上級資格受験者：1 名 合格者：0 名 (合格率 0%)
6	公務員試験社会科学対策講座 (馬場昭夫)	H26.10.1 (水) 10.8 (水) 10.15 (水) 10.22 (水) 10.29 (水) 11.5 (水) 11.12 (水) 11.19 (水) 11.26 (水) 12.3 (水) 12.10 (水) 12.17 (水) 12.24 (水) H27.1.7 (水) 1.14 (水) 10:40-12:10	受講者：6 名 (途中参加含む) 上級資格受験者：名 合格者：1 名 (合格率一)
7	日商簿記 2 級・3 級検定試験対策ステップアップ特別講座 (関根正行)	H26.10.13 (月) 10.17 (金) 10.20 (月) 10.23 (木) 10.29 (水) 10.30 (木) 11.3 (月) 11.7 (金) 11.11 (火) 8:30-10:30、11.15 (土) 9:00-15:00	受講者：4 名 (途中参加含む) 上級資格受験者：0 名 合格者：0 名 (合格率 0%)
8	経済学検定直前対策講座マイクロ編 (牧野智一)	H26.11.3 (月) 11.10 (月) 11.17 (月) 11.24 (月) 12.1 (月) 13:00-15:00	受講者：1 名 上級資格受験者：1 名 合格者：0 名 (合格率 0%)
9	経済学検定直前対策講座マクロ編 (牧野智一)	H26.11.6 (木) 11.13 (木) 11.20 (木) 11.27 (木) 12.4 (木) 13:00-15:00	受講者：0 名につき、閉講
10	Excel 表計算処理技能認定試験 2 級直前対策講座 (村山光博)	受講者 0 名につき、閉講	
11	経営学検定試験中級直前対策講座 (松本和明)	受講者 0 名につき、閉講	
12	eco 検定試験直前対策講座 (西俣先子)	H26.11.18 (火) 11.25 (火) 12.2 (火) 12.9 (火) 17:00-19:00	受講者：3 名 (途中参加含む) 上級資格受験者：3 名 合格者：2 名 (合格率 66.6%)
13	福祉住環境コーディネーター検定試験 2 級直前対策講座 (米山宗久)	H26.11.11 (火) 11.13 (木) 11.18 (火) 11.20 (木) 18:00-20:00、11.22 (土) 10:00-12:00	受講者：2 名 上級資格受験者：2 名 合格者：0 名 (合格率 0%)
14	医療事務管理士直前対策講座 (山川智子)	H26.12.16 (火) 12.25 (木) H27.1.6 (火) 1.13 (火) 1.20 (火) 17:00-19:00	受講者：5 名 上級資格受験者：1 名 合格者：1 名 (合格率一)
15	Word 文書処理技能認定試験 1 級直前対策講座 (高梨俊彦)	受講者 0 名につき、閉講	
16	Excel 表計算処理技能認定試験 1 級直前対策講座 (村山光博)	H27.2.7 (土) 10:00-16:00	受講者：1 名 上級資格受験者：1 名 合格者：1 名 (合格率 100%)
17	日商簿記検定 2 級直前対策講座 (中村大輔)	H27.2.13 (金) 2.16 (月) 2.20 (金) 10:00-20:00、 2.21 (土) 10:00-15:00	受講者：6 名 (2 級志望 2 名) 上級資格受験者：2 名 合格者：0 名 (合格率 0%)
18	IT パスポート試験直前対策講座 (吉川宏之)	受講者 0 名につき、閉講	

図表 3-1-4 を総括すると、18 講座開講計画を立てたが 4 講座が開講しなかった (受講者ゼロのため) であった。受講者総数は 38 名だが、上級資格受験者は 17 名 (受験率 44.7%) で、合格者は 8 名 (合格率 47.1%) にとどまった。受講者が少なく、受験率、合格率ともに 50% という数字は、極めて深刻である。抜本的な対策が必要である。

d 分析・評価

平成 26 年度の資格受験結果は図表 3-1-5～7 のとおりとなった。

まず第1に、平成26年度の資格試験受験結果を総数ベースで見ると（図表3-1-5）、IT全体では受験者132名、合格者65名、合格率約50%（49.2%）であった。専門資格は、108受験して合格は30名で、合格率は30%弱（27.8%）で、IT資格より低レベルであった。IT資格受験はまあまあだが、専門資格受験者の拡大は大きな課題である。

第2に、初級資格受験状況を見ると（図表3-1-7）、1年生の受験実績が圧倒的に大きいことがわかる。初級IT資格では、1年生の受験者が45名、合格率70%弱（66.7%）で、上級生を圧倒している。また、初級専門資格でも、1年生は受験者31名、合格者9名で上級生を上回っている（合格率は30%弱）。1年生で、IT、専門資格とも受験・合格することが重要である。

第3に、直前講座等での上級資格合格者の拡大をめざすという当事業の観点からみると、図表3-1-6によれば、講座受講者の方が合格率はほぼ高い傾向はみられる。上級資格は、受験者数から見ても、2・3年生が中心で、4年生になると受験者はごく少数になる（就職活動のため）。2・3年生のIT資格合格率は、直前講座受講者の方が高く、上級専門資格でも2年生は同様に高い。しかし、上級専門資格の講座受講3年生の合格率はゼロであった。直前講座の一定の効果は確認できるが、2・3年生の上級資格、とくに専門資格の受験者を拡大することが極めて大きな課題であることを見て取ることができる。

第4に、上記の上級資格直前対策講座の受講者が少ないことを述べたが、1年生の初級資格取得者数・率ともに多く、高いのであるから、2年生において上級資格に挑戦する方を様々検討し、最適な方を具体化する必要がある。受講者が少ないのは、前年度に引き続き、開講時間帯（18:00以降開講）が学生のアルバイト時間と重複していることが1つの大きな要因であると思われるが、その他の課題への対応策を明確にする必要がある。

（7）まとめ—成果と課題—

まず、資格取得支援センターを立ち上げたことにより、学生、なかでも1～2年生（低学年）が学業や学生生活で様々な問題・課題をかかえていることが判明し、資格取得にとどまらない学生生活への対応の必要性が明確になったこと。資格以外の諸課題への対応は、今後検討し、具体化する必要がある。

第2に、資格取得については、1年生＝初級資格、2～3年生＝上級資格取得を明確にして、授業と対策講座の関連等の仕組みを具体的に確立すること。例えば、1年生授業での初級資格対応（動機付け、成績評価との関連の明確化、受験料等）、2・3年生授業（演習等）と対策講座（効率的時間帯選択等）の関連などを具体化する。これにより、とにかく、学生の障害を取り除き、受講者・受験者数を拡大しなければならない。

第3に、資格取得の動機付けや講座受講の利便性を検討し、具体化すること。学生へのヒアリング、企業経営者の人事担当者の講演等工夫をこらして、学生の資格取得志向性を増大させる方を具体化しなければならない。上記第2も含めて、抜本策が不可欠である。

第4に、平成26年度の目標の達成度については、4年生はまあまあであったが、3年生以下は目標との乖離が大きい。4年生（卒業生）の目標は、「上級IT資格保有者40%、同専門資格保有者15%」であったが、図表3-1-8に見るように、それぞれ、34.7%、15.2%であった。しかし、平成29年度の達成目標（上級IT資格保有者60%、同専門資格保有者40%）とはかなり差がある。

図表 3-1-5 平成 26 年度資格受験結果 (総数)

	IT 資格全体			専門資格全体		
	受験者数 (総数)	合格者数 (総数)	合格率	受験者数 (総数)	合格者数 (総数)	合格率
4 年生	15	3	20.0%	10	2	20.0%
3 年生	33	12	36.4%	28	8	28.6%
2 年生	39	20	51.3%	38	10	26.3%
1 年生	45	30	66.7%	32	10	31.3%
合計	132	65	49.2%	108	30	27.8%

(注) 受験者数及び合格者数=初級資格+上級資格である

図表 3-1-6 平 26 年度上級資格受験結果

	上級 IT 資格						上級専門資格					
	受験者数		合格者数		合格率		受験者数		合格者数		合格率	
	総数	講座	総数	講座	総数	講座	総数	講座	総数	講座	総数	講座
4 年生	7	0	2	0	28.6%	0%	5	0	2	0	40.0%	0%
3 年生	30	3	12	2	40.0%	66.7%	11	2	2	0	18.2%	0%
2 年生	37	4	19	3	51.4%	75.0%	14	5	3	2	21.4%	40.0%
1 年生	0	0	0	0	0%	0%	1	1	1	1	100.0%	100.0%
合計	74	7	33	5	44.6%	71.4%	31	8	8	3	25.8%	37.5%

(注 1) 上級 IT=W o r d・E x c e l l ~ 2 級、PowerPoint 上級、IT パスポート

(注 2) 上級専門=日商簿記 1 ~ 2 級、販売士 1 ~ 2 級、福祉住環境 1 ~ 2 級、eco 検定、消費生活アドバイザー、経済学検定 (ミクロマクロ) S ~ B、経営学検定中級、医療事務

(注 3) 総数=直前講座を受講しない者も含む、講座=直前講座を受講し、上級資格を受験した者を示す

図表 3-1-7 平成 26 年度初級資格受験結果

	初級 IT 資格			初級専門資格		
	受験者数 (総数)	合格者数 (総数)	合格率	受験者数 (総数)	合格者数 (総数)	合格率
4 年生	8	1	12.5%	5	0	0%
3 年生	3	0	0%	17	6	35.3%
2 年生	2	1	50.0%	24	7	29.2%
1 年生	45	30	66.7%	31	9	29.0%
合計	58	32	55.2%	77	22	28.6%

(注 1) 初級 IT=W o r d・E x c e l l 3 級、PowerPoint 初級、ドットコムマスターベーシック、EC 実践能力検定 3 級

(注 2) 初級専門=日商簿記 3 級、販売士 3 級、福祉住環境 3 級、FP 技能検定 3 級、経済学検定 (ミクロマクロ) C ~ D、経営学検定初級

図表 3-1-8 平成 26 年度上級資格保有状況

学年	上級 I T 資格保有割合	上級専門資格保有割合
4 年生	34.7% (32/92)	15.2% (14/92)
3 年生	31.7% (20/63)	6.3% (4/63)
2 年生	25.9% (15/58)	5.1% (3/58)
1 年生	0% (0/85)	1.1% (1/85)

(注) 計算方法=各年次の資格保有者数(実質人数)÷各年次の在籍者数

2 地域志向・学修科目－教育②－

(1) 方針（申請時）

- ・新たな地域学修科目を大幅に拡大して、学生の現場感覚・知識の養成、社会人基礎力の充実をめざす。
- ・各コースの代表科目に地域学修を加え、地域学修科目を拡大する。

(2) 目標（申請時）

- ・平成 25 年度→19 科目、履修学生 680 人（延べ）
- ・平成 29 年度→33 科目、履修学生 1,000 人（延べ）

(3) 平成 25 年度実績と評価

- ・平成 25 年度に開講した科目は 8 科目、履修学生 1068 人（延べ）であった。これは、後期から当事業が開始されたためである。
- ・地域志向科目を再検討し、平成 26 年度は、次の 35 科目を地域志向・学修科目として、設定することとした。
 - * 1 年次＝キャンパスライフ入門、キャリア開発Ⅰ、経済・経営の現場、ボランティア論、ボランティア体験、環境と社会 2、マーケティング入門、流通論入門、インターネット概論
 - * 2 年次＝キャリア開発Ⅱ－1、Ⅱ－2、起業家塾、地域活性化プログラム、地域経営、地域活性化論、社会福祉概論、環境社会演習 2、生活経済論 1、2、会計学 1、プレゼン利用技術、
 - * 3 年次＝キャリア開発Ⅲ－1、Ⅲ－2、ゼミナールⅢ、インターンシップ、地方行政、地域経済論、地域産業政策、企業経営史、産業史、医学概論、地域福祉論、管理会計、経営分析
 - * 4 年次＝ゼミナールⅣ

(4) 平成 26 年度方針・目標・予算

【方針】

- ・上記の通り、平成 26 年度は、35 科目を地域志向・学修科目として設定する。

【目標】

- ・上記の通り。

(5) 平成 26 年度計画

- ・【3 現場感覚・知識の養成（3 課題対応）－教育③－】と同じ

(6) 展開

- ・【3 現場感覚・知識の養成（3 課題対応）－教育③－】と同じ

(7) まとめ－成果と課題－

- ・【3 現場感覚・知識の養成（3 課題対応）－教育③－】と同じ

3 現場感覚・知識の養成（3課題対応）－教育③－

（1）方針（申請時）

- ・地域学修科目において、3課題（産業活性化、社会課題解決、地域活性化）に対応した、企業講師授業や現場体験学修等の体験型授業を行い、学生の現場感覚・知識の養成を促進する。

（2）目標（申請時）

- ・平成 25 年度→14 科目（後期）で、3 限分の体験型授業（2 限分企業講師、1 限現場体験学修）実施－体験型授業数 42 回
- ・平成 29 年度→33 科目で、3 限分の体験型授業実施－体験型授業数 99 回

（3）平成 25 年度実績と評価

- ・地域学修 14 科目、42 限（回）分授業での企業講師等授業を目指したが、8 科目、33 限（回）授業に留まった。実現に至らなかった要因としては、年度開始当初に具体的な招聘スケジュールの確定ができなかったことが挙げられる。
- ・学生の授業評価としては、理解できた 94%、ためになった 90%と非常に高い評価であった。

（4）平成 26 年度方針・目標・予算

【方針】

- ・次の地域志向・学修 35 科目で、各科目平均 3 限分を企業講師・現場体験等授業にあて、現場感覚・知識の養成を図る。
 - ★ 1 年次→キャンパスライフ入門、キャリア開発Ⅰ、経済・経営の現場、ボランティア論、ボランティア体験、環境と社会 2、マーケティング入門、流通論入門、インターネット概論、
 - ★ 2 年次→キャリア開発Ⅱ－1、Ⅱ－2、起業家塾、地域活性化プログラム、地域経営、地域活性化論、社会福祉概論、環境社会演習 2、生活経済論 1、2、会計学 1、プレゼン利用技術、
 - ★ 3 年次→キャリア開発Ⅲ－1、Ⅲ－2、ゼミナールⅢ、インターンシップ、地方行政、地域経済論、地域産業政策、企業経営史、産業史、医学概論、地域福祉論、管理会計、経営分析、
 - ★ 4 年次→ゼミナールⅣ

【目標】

- ・35 科目 3 限分（＝105 時限）を確実に実施すると共に、昨年度に引き続き学生の高満足度（「理解できた」「役に立った」共に 90%以上）を維持する。

（5）平成 26 年度計画

地域志向・学修 35 科目において、各 3 限分を企業講師等授業にあてて、授業を実施する。学生の評価でも高い水準（90%以上）を維持する。

なお、例年、外部講師招聘毎に担当教員から企業講師等招聘計画書の提出を受けているが、平成 26 年度から各担当教員から企業講師等年間招聘スケジュールの提出を促進する。

(6) 展開

平成 26 年度の企業講師・現場体験等授業は、次の通り、実施された。

a 企業講師授業の概要

企業講師授業（大学に専門家講師等を招聘して主として地域に関連する授業を行う）の概要は図表 3-3-1 の通りである。各授業の詳細は参考資料として、別冊とする。

図表 3-3-1 平成 26 年度企業講師授業一覧

No.	日時	科目名	外部講師	テーマ
1	H26. 5. 28 (水) 3 限	プレゼンテーションソフト 利用技術 A (高梨)	エクセルホーム有限会社 古寺久徳	顧客をつかむ営業プレゼンテーション にするための考え方と進め方
2	H26. 6. 9 (月) 4 限	小松ゼミナールⅢ・Ⅳ (小松)	阿部幸製菓株式会社 企画開発部 丸山博史	米菓の知識、米菓業界の動向、わが社の 商品企画事例
3	H26. 6. 11 (水) 4 限	インターンシップ (原田)	ウィンズビジネスアカデミー 代表 宮原晋策	ビジネスマナー
4	H26. 6. 13 (金) 2 限	社会福祉概論 (米山)	長岡市地域包括支援センターなかじま 業務推進員 丸山千代子	地域包括支援センターの活動内容につ いて
5	H26. 6. 20 (金) 3 限	生活経済論 1 (橋長)	茨城大学教育学部 准教授 石島恵美子	エンカルビジネスを考える
6	H26. 6. 24 (火) 3 限	キャリア開発Ⅱ-1 (広田)	笑顔写真家 加藤雄一	講演&ワークショップ「笑顔咲く人生を 描く」
7	H26. 6. 25 (水) 2 限	地域福祉論 (米山)	福祉送迎サービスボランティア 青木昌栄	ボランティア活動の内容について
8	H26. 6. 25 (水) 4 限	インターンシップ (原田)	ウィンズビジネスアカデミー 代表 宮原晋策	ビジネスマナー
9	H26. 6. 27 (金) 2 限	社会福祉概論 (米山)	社会福祉法人長岡東山福祉会 小林まゆみ	介護福祉士の活動内容について
10	H26. 7. 1 (火) 3 限	キャリア開発Ⅱ-1 (広田)	笑顔写真家 加藤雄一	自分の価値を「見える化」～自分マガジ ンを作るう～
11	H26. 7. 1 (火) 4 限	広田ゼミナールⅢ (広田)	IT コンサルタント デビッド=ブズロー	グローバリゼーションと地域の変化
12	H26. 7. 2 (水) 2 限	地域福祉論 (米山)	長岡市社会福祉協議会 地域福祉課長 本間和也	社会福祉協議会活動の内容について
13	H26. 7. 2 (水) 3 限	プレゼンテーションソフト 利用技術 A (高梨)	ビジョン 代表 桑原州司	デザイナーの視点から見たプレゼン資 料作成のヒント
14	H26. 7. 4 (金) 2 限	社会福祉概論 (米山)	社会福祉法人長岡東山福祉会 木村智美	ケアマネジャーの活動内容について
15	H26. 7. 4 (金) 3 限	生活経済論 1 (橋長)	上智大学経済学部 教授 川西諭	持続可能な消費を行うための地域活性 化の視点
16	H26. 7. 8 (火) 3 限	キャリア開発Ⅱ-1 (広田)	笑顔写真家 加藤雄一	人生実験室～夏のチャレンジ企画をプ ランニング～
17	H26. 7. 8 (火) 4 限	広田ゼミナールⅢ (広田)	IT コンサルタント デビッド=ブズロー	グローバリゼーション時代の地域にお ける人間交流
18	H26. 7. 13 (日)	地域経営 (内藤)	やまこし復興交流館おらたる 古籠集落	山古志地域現地視察
19	H26. 7. 14 (月) 4 限	小松ゼミナールⅢ・Ⅳ (小松)	阿部幸製菓株式会社	阿部幸製菓株式会社工場見学
20	H26. 7. 15 (火) 2 限	社会保障論 1 (山川)	大濱晴美	医療報酬明細書の書き方と医療事務の 業務について (1)
21	H26. 7. 15 (火) 4 限	広田ゼミナールⅢ (広田)	IT コンサルタント デビッド=ブズロー	アメリカの地域におけるグローバリゼ ーション対応の政策
22	H26. 7. 22 (火) 2 限	社会保障論 1 (山川)	大濱晴美	医療報酬明細書の書き方と医療事務の 業務について (2)
23	H26. 7. 22 (火) 4 限	広田ゼミナールⅣ (広田)	長岡技術科学大学大学 院博士課程 バトモンク 「ら・なぶう」 オーナー 若井由佳子	内モンゴル・日本間におけるビジネス展 開と地域活性化

24	H26. 7. 24 (木) 3限	キャリア開発Ⅲ (原田)	ウィンズビジネスアカデミー 宮原晋策	企業・業界研究の仕方とチェックポイント
25	H26. 7. 25 (金) 2限	社会福祉概論 (米山)	栖吉地区民生委員児童委員会 会長 古屋信司 他 10名	民生委員児童委員会の活動内容について
26	H26. 7. 29 (火) 4限	広田ゼミナールⅣ (広田)	長岡技術科学大学 准教授 アーシュ・マーラシンハ 「ら・なぶう」 オーナー 若井由佳子	スリランカと日本の交流による地域活性化
27	H26. 8. 28 (木) 2限	キャンパスライフ入門 (高橋)	有限会社覚張書店 覚張良太 長岡市勤労者サービスセンター 野水恒人	OB・OGが語るキャンパスライフ
28	H26. 10. 6 (月) 4限	小松ゼミナールⅢ・Ⅳ (小松)	阿部幸製菓株式会社 開発室 丸山博史	米菓の製造方法
29	H26. 10. 10 (金) 3限	コンピュータ会計 (関根)	税理士法人小川会計 監査部所属 坂爪真哉	会計事務所ってどんな仕事？
30	H26. 10. 16 (木) 3限	キャリア開発Ⅲ (原田)	株式会社パートナーズプロジェクト 社長 高野洋子	賃金労働契約について
31	H26. 10. 28 (火) 3限	キャリア開発Ⅰ (原田)	長岡大学OB 吉田陽平	社会人に求められるもの～大学時代にやっておくべきこと～
32	H26. 11. 4(火) 3限	キャリア開発Ⅰ (原田)	キャリアカウンセラー 米田 睦美	社会人になってからのキャリア形成
33	H26. 11. 6 (木) 2限	キャリア開発Ⅱ-2 (原田)	ウィンズビジネスアカデミー 代表 宮原晋策	ビジネス文書の書き方
34	H26. 11. 7 (金) 3限	コンピュータ会計 (関根)	(株)アスタ 代表取締役 鈴木謙多朗	クラウドを利用した会計
35	H26. 11. 11 (火) 3限	キャリア開発Ⅰ (原田)	キャリアカウンセラー 米田睦美	自己分析
36	H26. 11. 13 (木) 2限	キャリア開発Ⅱ-2 (原田)	企業教育ファシリテーター 朝日由香	「マナー実習①(あいさつ)」
37	H26. 11. 13 (木) 3限	キャリア開発Ⅲ (原田)	ウィンズビジネスアカデミー 代表 宮原晋策	ビジネスマナー①
38	H26. 11. 18 (火) 3限	キャリア開発Ⅰ (原田)	企業教育ファシリテーター 朝日由香	性格を知る
39	H26. 11. 20 (木) 2限	キャリア開発Ⅱ-2 (原田)	企業教育ファシリテーター 朝日由香	「マナー実習②(電話)」
40	H26. 11. 20 (木) 3限	キャリア開発Ⅲ (原田)	ウィンズビジネスアカデミー 代表 宮原晋策	ビジネスマナー②
41	H26. 11. 25 (火) 3限	キャリア開発Ⅰ (原田)	企業教育ファシリテーター 朝日由香	対人関係のあり方
42	H26. 11. 27 (木) 2限	キャリア開発Ⅱ-2 (原田)	新潟大学農学部コーディネーター 古俣清勝	「学生のキャリア形成～現場を知る～」
43	H26. 11. 27 (木) 3限	キャリア開発Ⅲ (原田)	ウィンズビジネスアカデミー 代表 宮原晋策	面接①(自己紹介書ベース)～個人面接
44	H26. 12. 2 (火) 3限	キャリア開発Ⅰ (原田)	企業教育ファシリテーター 朝日由香	自己評価と課題認識
45	H26. 12. 4 (木) 2限	キャリア開発Ⅱ-2 (原田)	ウィンズビジネスアカデミー 代表 宮原晋策	学生のキャリア形成(企業を知る)
46	H26. 12. 4 (木) 3限	キャリア開発Ⅲ (原田)	ウィンズビジネスアカデミー 代表 宮原晋策	面接②(自己紹介書ベース)～個人面接
47	H26. 12. 9 (火) 3限	キャリア開発Ⅰ (原田)	ウィンズビジネスアカデミー 代表 宮原晋策	強みグループディスカッション① ～学生時代をどう過ごすか～
48	H26. 12. 11 (木) 2限	キャリア開発Ⅱ-2 (原田)	ウィンズビジネスアカデミー 代表 宮原晋策	履歴書の書き方
49	H26. 12. 11 (木) 3限	キャリア開発Ⅲ (原田)	ウィンズビジネスアカデミー 代表 宮原晋策	面接③(グループディスカッション)
50	H26. 12. 11 (木) 3限	環境社会演習2 (西俣)	(株)アクシアルリテイリング 執行役員 丸山将範	環境に対する企業の取り組み ーアクシアルリテイリングの取組ー
51	H26. 12. 12 (金) 3限	コンピュータ会計 (関根)	元中越高等学校 教頭 坂野正人	経営者たちの思い～簿記会計は人類の すご技～

52	H26.12.16(火) 3限	キャリア開発Ⅰ (原田)	ウィンズビジネスアカデミー 代表 宮原晋策	強みグループディスカッション② ～強みを知る～
53	H26.12.18(木) 2限	キャリア開発Ⅱ-2 (原田)	新潟大学農学部コーディネーター 古俣清勝	「学生のキャリア形成～現場を知る～」
54	H26.12.18(木) 2限	キャリア開発Ⅲ (原田)	ウィンズビジネスアカデミー 代表 宮原晋策	面接④(グループ面接①)
55	H26.12.25(木) 2限	キャリア開発Ⅱ-2 (原田)	企業教育ファシリテーター 朝日由香	「面接実習」
56	H26.12.25(木) 3限	キャリア開発Ⅲ (原田)	ウィンズビジネスアカデミー 代表 宮原晋策	面接⑤ (グループ面接②)
57	H27.1.6(火) 3限	キャリア開発Ⅰ (原田)	キャリアカウンセラー 米田 睦美	キャリアを考える
58	H27.1.8(木) 1限	地方行政 (内藤)	長岡市地域振興戦略部 係長 河上 雄一	市町村合併とこれからの地域づくり
59	H27.1.8(木) 2限	キャリア開発Ⅱ-2 (原田)	ウィンズビジネスアカデミー 代表 宮原 晋策	強みグループディスカッション①
60	H27.1.8(木) 3限	キャリア開発Ⅲ (原田)	ウィンズビジネスアカデミー 代表 宮原 晋策	面接⑥(個人面接③)
61	H27.1.8(木) 4限	保険請求論 (山川)	(株)ソラスト 大濱 晴美	医療事務における日計表の書き方：外来 と入院における基本事項
62	H27.1.13(火) 2限	社会保障論2 (山川)	(株)ソラスト 大濱 晴美	医療事務における日計表の書き方：外来 と入院における基本事項
63	H27.1.13(火) 3限	キャリア開発Ⅰ (原田)	コーディネーター 古俣 清勝	「キャリア形成～現場を知る～」
64	H27.1.14(水) 3限	経済・経営の現場を知る2 (松本)	(株)新潟日報社 報道部 記者 横山 志保	新聞記者から見た上越地方の現状と今 後
65	H27.1.15(木) 2限	キャリア開発Ⅱ-2 (原田)	ウィンズビジネスアカデミー 代表 宮原 晋策	強みグループディスカッション②
66	H27.1.15(木) 4限	保険請求論 (山川)	(株)ソラスト 大濱 晴美	医療事務における日計表の書き方：外来 と入院における基本事項
67	H27.1.19(月) 2限	環境と社会2 (西俣)	長岡市環境部環境政策課 課長補佐 宮島 義隆 トキと自然の学習館 解説員 志村ちあき	長岡市の環境政策
68	H27.1.20(火) 2限	社会保障論2 (山川)	(株)ソラスト 大濱 晴美	医療事務における日計表の書き方：外来 と入院における基本事項
69	H27.1.20(火) 3限	キャリア開発Ⅰ (原田)	ウィンズビジネスアカデミー 代表 宮原 晋策	学生のキャリア形成～企業を知る～
70	H27.1.28(水) 3限	経済・経営の現場を知る2 (松本)	新潟県議会議員 大淵 健	新潟県議会議員から見た新潟県の現状 と今後
71	H27.2.26(木) 2～3限	キャリア開発Ⅲ (原田)	ウィンズビジネスアカデミー 代表 宮原 晋策	実践！就活の備え

図表3-3-1を総括すると、図表3-3-2が得られる。これによれば、まず、企業講師授業実施科目数は22、総時限数が71時限で、目標(35時限、105時限)を大きく下回ったこと。第2に、1科目あたり平均3限の企業講師授業の計画であったが、科目間の実施時限数が大きくばらついたこと。次年度には、地域志向科目の内容をより明確にして、より多くの科目が企業講師授業を実施するように、工夫する必要がある。

図表 3-3-2 企業講師実施授業の総括表

招聘時限数	企業講師実施授業科目	科目数	時限数
1 時限招聘	キャンパスライフ入門、地域経営、地方行政、環境と社会 2、環境社会演習 2	5	5
2 時限招聘	プレゼンテーションソフト利用技術 A、生活経済論 I、地域福祉論、 社会保障論 I、社会保障論 II、保険請求論、経済・経営の 現場を知る、インターンシップ、ゼミナール IV	9	18
3 時限招聘	コンピュータ会計、キャリア開発 II-1、ゼミナール III、 ゼミナール III・IV	4	12
4 時限招聘	社会福祉概論	1	4
10 時限招聘	キャリア開発 II-2	1	10
11 時限招聘	キャリア開発 I、キャリア開発 III	2	22
合計		22	71

b 企業見学バスツアーの実施

当初計画に含まれていなかったが、上記企業講師授業の進み具合を検討する中で、学生の実践的・現場感覚を養成する必要があると判断し、学年を問わない「企業見学バスツアー」を実施した。バスツアーの実施概要は、図表 3-3-3 の通りである。

図表 3-3-3 平成 26 年度企業見学バスツアーの実施概要

(1) 第 1 回企業見学バスツアー

訪問日	平成 26 年 1 月 22 日 (土)
訪問先	①見附染工株式会社 (見附市月見台 1-3-1) ②株式会社諸長 見附工場 (見附市新幸町 4-1) ③日産プリンス新潟販売株式会社 長岡店 (長岡市要町 1-4-51)
テーマ	業界を知るために

(2) 第 2 回企業見学バスツアー

訪問日	平成 27 年 1 月 31 日 (土)
訪問先	①新潟運輸株式会社 (新潟市中央区女池北 1 丁目 1 番 1 号) ②アークランドサカモト株式会社 (三条市上須頃 445 番地) ③第一合繊株式会社 (見附市柳橋町 336-1)
テーマ	職種を理解するために

各回とも、参加学生は 16 名であった。この試みは、学年、授業科目を限定せず実施したものであるが、後述のように、学生には現場が理解できて好評であった。企業講師を招聘して、現場や地域の実態を聞くだけでなく、現場に出かけて、現場を肌で感じて実感することが重要であることを示したと言える。今後、現場理解を深める方向を拡大する必要がある。

c 分析・評価

以上の企業講師授業やバスツアーは学生にどう評価されたか、を見ておきたい。

★企業講師授業

まず、企業講師授業についての学生のアンケート回答結果を見る。毎回の授業での学生のアンケート結果をまとめると、図表3-3-4のとおりである。これによれば、「わかった」（「よくわかった」＋「まあまあわかった」）が94%、「ためになった」（「ためになった」＋「まあまあためになった」）が92%と、理解度、役立ち度ともに非常に高い評価であった。役立ち度では、「たまになった」が60%弱にのびた。企業講師授業は学生に非常に高く評価されていることが確認できる。当初の目標を達成することができた。

図表3-3-4 企業講師授業に対する受講学生の評価（回答総数ベース）

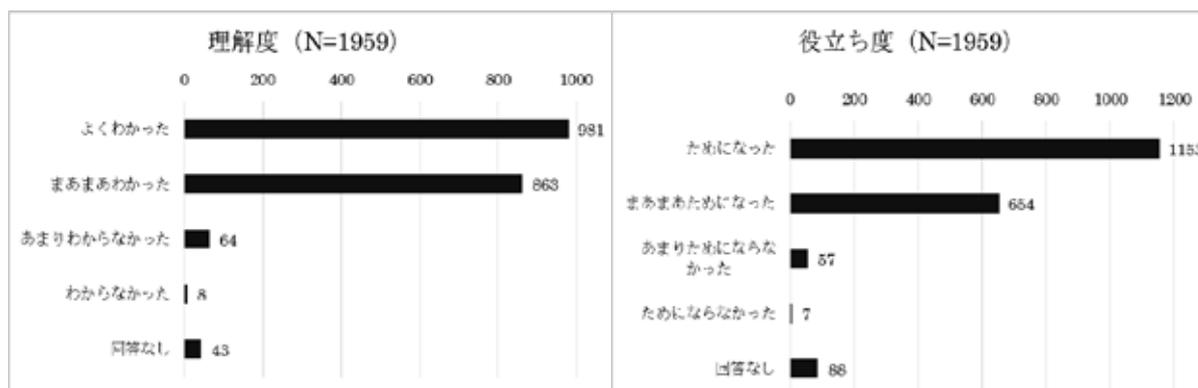
(1) 理解度

よくわかった	まあまあわかった	あまりわからなかった	わからなかった	回答なし	回答合計
50.1%	44.1%	3.3%	0.4%	2.2%	100.0%
981	863	64	8	43	1959

(2) 役立ち度

ためになった	まあまあためになった	あまりためにならなかった	ためにならなかった	回答なし	回答合計
58.9%	33.4%	2.9%	0.4%	4.5%	100.0%
1153	654	57	7	88	1959

(3) 図示



★企業見学バスツアー

企業見学バスツアーの参加学生のアンケート評価は、図表3-3-5の通りである。これによれば、「参加してよかった」（「とてもよかった」＋「よかった」）と評価する学生は、第1回は100%、第2回は94%と圧倒的であった。また、「また参加したいか」（第1回）は、「機会があれば参加したい」をあわせれば、100%になる。そして、第2回ツアーで「就活に役立つと思うか」を聞いたところ、「役に立つ」が94%と圧倒的であった。

この結果は、就職活動を身近に感じている3年生の参加が多かったこと、現場をみたいという意識を持った学生が参加したこと、などを考慮すれば、当然の結果であるとは言える。ただ、そうではあるが、現場を見て、理解することは、学生にとって大きな意義があることは確かであると言える。今後の事業のなかに積極的に取り入れていく必要がある。

図表 3-3-5 企業見学バスツアーアンケート結果

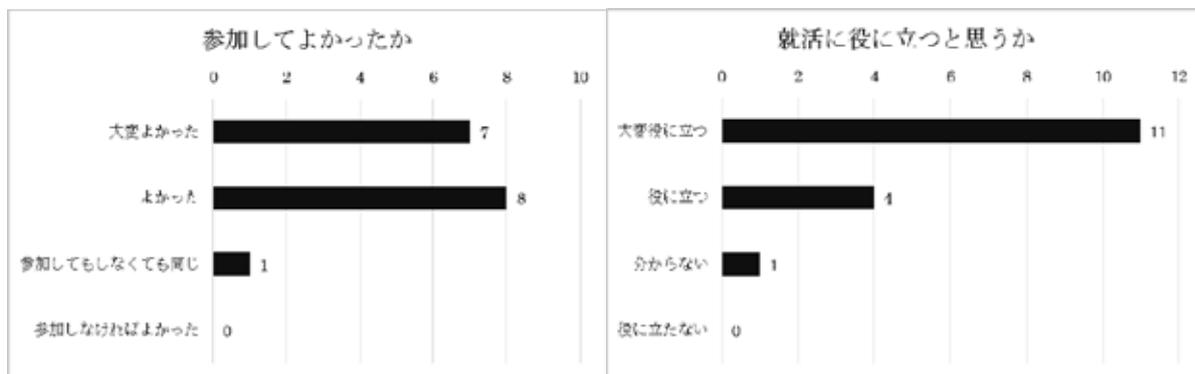
(1) 第1回企業見学バスツアー

参加者（回答者）：16名



(2) 第2回企業見学バスツアー

参加者（回答者）：16名



(7) まとめ—成果と課題—

以上を踏まえて、成果と課題をまとめれば、次の通りである。

第1に、企業講師授業は学生の評価が非常に高く、今後も、継続して実施していく必要があること。この点は、異存はない。

第2に、しかし、地域志向科目 35 科目のうち 22 科目しか実施できなかったことは、内容も含めて、再検討が必要である。科目の性格と地域志向授業の中身の位置づけ方を各科目にわたって検討する必要がある。1年かけて検討し、平成 28 年度には、地域志向科目の再編の姿を明確にしたい。

第3に、企業見学バスツアーの結果で明らかなように、現場を見て、体験して、理解を深めることが非常に重要であること。企業講師を招聘するだけでなく、学生が現場に出かけていくことが重要であることを再認識する必要がある。平成 27 年度は、特殊授業として、「現場体験プログラム」（2年生科目）を新たに地域志向科目として開講し、他の科目とも連携して、この現場体験を充実させる。

4 社会人基礎力の養成（地域活性化プログラム／3課題対応）－教育④－

（1）方針・目標

- ・3・4年ゼミ等の学生による地域活性化プログラムの充実・拡大を図り、卒業後も通用する社会人基礎力の養成を推進する。
- ・＜社会人基礎力養成大学＞のイメージを定着させる。

（2）目標（申請時）

- ・平成25年度→3・4年ゼミナール（2年生希望者含む）の地域活性化プログラムで、地域課題の調査・分析・提言等実施－8ゼミ8課題、参加学生割合40%（81名）
- ・平成29年度→ゼミ数・参加卒業生数割合目標－3・4年ゼミ14、参加学生割合80%。「社会人基礎力育成グランプリ」決勝大会入賞をめざす。

（3）平成25年度実績と評価

- ・平成25年度は、7ゼミと1チームの計8取組を実施した。従来の中間発表会に代わるものとして、ゼミ単位で中間レビューを実施し、アドバイザーからの評価、指摘事項、意見を参考にして、成果発表会に臨んだ。
- ・本プログラムの目的でもある社会人基礎力の上昇については、学生の評価はアクション力、シンキング力の上昇度は共に60%、チームワーク力は70%となっている。教員の評価は、それぞれ約50%で、全体的に学生の評価が教員のそれを上回っている。1つの講義で学生の社会人基礎力がこれだけ伸びるということはあまり考えられず、プログラムとしては一応の成功がみられるのではなかろうか。

（4）平成26年度方針・目標

【方針】

- ・社会人基礎力の養成（地域活性化プログラム）・・・地域活性化プログラムの取組みゼミ（3・4年の9ゼミ）活動について、中間レビュー（9～11月）と最終報告会（12月）を開催する。このレビュー・報告会でのアドバイザーの評価を受け、評価指標の検討も行う。また、社会人基礎力の全国コンテスト等があれば、応募する。

【目標】

- ・今年度は参加ゼミが9ゼミになり取組数が増加しているが、今後は全学生の50%の参加を目標とし、総合的な社会人基礎力のそれぞれ5%アップを目指したい。そのために、プロジェクトを計画通りに確実に遂行できる教育方法を確立したい。

図表 3-4-1 学生による地域活性化プログラムの取組ゼミとテーマ

ゼミ名	テーマ
米山 宗久 ゼミ	高齢者の買い物支援 *学生 13 人 (4 年 6、3 年 4、2 年 3) — 栖吉地区における高齢者買い物同行や調査より —
今瀬 政司 ゼミ	とちお祭への裏方参画と調査・情報発信 *学生 5 人 (3 年)
橋長真紀子ゼミ	Future Agricultural Innovation—未来の農業革新— *学生 6 人 (4 年)
権 五景 ゼミ	十分杯で長岡を盛り上げよう *学生 3 人 (2 年) — 知名度の低い歴史的題材は観光資源になれるか —
中村 大輔 ゼミ	ながおかバル街による中心市街地・店舗の活性化 *学生 6 人 (4 年 4、3 年 2)
高橋 治道 ゼミ	地域の魅力発信による絆結び—神谷の魅力をつなげ・ひろげる— *学生 10 人 (4 年 7、3 年)
小千谷活性化 プロジェクトチーム	小千谷市中心市街地活性化のための若者による提言 *学生 4 人 (3 年 2、2 年 2)
村山 光博 ゼミ	企業の情報発信とホームページの役割 *学生 13 人 (4 年 7、3 年 6)
広田 秀樹 ゼミ	グラスルーツグローバリゼーション *学生 6 人 (4 年 1、3 年 5) — 草の根・地域からの地球一体化推進 —
鯉江 康正 ゼミ	新潟県内のまちの駅の情報発信とまちの駅間交流の実施 *学生 10 人 (4 年 6、3 年 4)

(4) 展開

- ・平成26年度の学生による地域活性化プログラムの主な実施経過は、図表3-4-2のとおりである。

図表3-4-2 <平成26年度取組の経過>

4月24日	平成26年度第1回地域活性化プログラム運営部会開催（以後、毎月1回開催）
5月15日	平成26年度第2回地域活性化プログラム運営部会開催
6月5日	平成26年度第3回地域活性化プログラム運営部会開催
6月25日	平成26年度第1回地域活性化プログラム推進協議会開催 於：長岡大学
7月17日	平成26年度第4回地域活性化プログラム運営部会開催
7月22日	中間レビュー：橋長ゼミ
9月18日	平成26年度第5回地域活性化プログラム運営部会開催
10月6日	中間レビュー：今瀬ゼミ
10月16日	平成26年度第6回地域活性化プログラム運営部会開催
10月20日	中間レビュー：今瀬ゼミ
10月21日	中間レビュー：村山ゼミ
10月25日	中間レビュー：権ゼミ、中村ゼミ
10月25日 10月26日	悠久祭（大学祭）において、地域活性化プログラムの活動を紹介
10月28日	中間レビュー：高橋ゼミ、米山ゼミ
11月11日	中間レビュー：広田ゼミ
11月13日	平成25年度第7回地域活性化プログラム運営部会開催
11月14日	中間レビュー：小千谷活性化プロジェクトチーム
11月15日	中間レビュー：鯉江ゼミ
12月6日	地域活性化プログラム平成26年度成果発表会開催 於：ホテルニューオータニ長岡 NCホール
12月17日	平成26年度第2回地域活性化プログラム推進協議会開催 於：長岡大学
1月29日	平成26年度第8回地域活性化プログラム運営部会開催
2月18日	平成26年度第9回地域活性化プログラム運営部会開催
3月26日	平成26年度地域活性化プログラム活動報告書発行（合冊並びにプロジェクトごと10分冊）

・また、同学生による地域活性化プログラムの推進体制は、図表3-4-3のとおりである。

図表3-4-3 平成26年度学生による地域活性化プログラム推進体制

<総合アドバイザー>

(敬称略)

所 属	職 名	氏 名
長岡市市長政策室政策企画課	課長	中村 英樹
株式会社ホクギン経済研究所	副所長	宗田 俊弥

<地域連携アドバイザー>

所 属	職 名	氏 名
市民協働推進室市民協働班	主査	安達 一啓
まちの駅ネーブルみつけ	駅長	中川 一男
株式会社たかの		樋熊 捷平
小千谷市役所商工観光課	主査	星野 隆
長岡歯車資料館	館長	内山 弘
アドバイザー		太刀川 喜三
長岡市神谷	区長	白井 湛
NPO法人ながおか生活情報ねっと	理事長	桑原 眞二
自営	ITコンサルタント	David Boudreau
コミュニティ・リーダーズ・ネットワーク	代表	大出 恭子
NPO法人長岡産業活性化協会NAZE	事務局次長	山田 哲也
株式会社スノーキャスト	代表取締役	杉浦 聡
社会福祉法人長岡市社会福祉協議会 本部事務局 地域福祉課	課長	本間 和也
栖吉コミュニティセンター	センター長	佐藤 修一
特定非営利活動法人まちなか考房	事務局長	大沼 広美
株式会社パートナーズプロジェクト	代表取締役	高野 裕
長岡市栃尾支所商工観光課	観光係長	荒木 隆
長岡市農林部農政課	課長	小林 平仁
株式会社中村農園	代表	中村 郁雄

<学内推進委員>

学長	内藤 敏樹	教授		運営委員	中村 大輔	准教授
運営委員長	鯉江 康正	教授		運営委員	広田 秀樹	教授
運営委員	今瀬 政司	准教授		運営委員	橋長真紀子	専任講師
運営委員	権 五景	准教授		運営委員	村山 光博	教授
運営委員	高橋 治道	教授		運営委員	米山 宗久	准教授

- ・各取り組みの概要は、図表3-4-4から図表3-4-13のとおりである。

図表3-4-4 高齢者の買い物支援（米山ゼミ）



学校法人 中誠学園
長岡大学

「地（知）の拠点整備事業」（大学COC）
長岡地域〈創造人材〉育成プログラム



文部科学省
地（知）の拠点



平成26年度 学生による地域活性化プログラム
高齢者の買い物支援
一栖吉地区における高齢者買い物同行や調査よりー

- | | |
|-----------------------|---|
| <p>■担当教員
米山宗久</p> | <p>■ゼミ学生
4年生： 小野澤泰介 川津敬永 小林美穂 坂井愛優 酒井直也 福原寛生
3年生： 入澤郁也 尾坂亮 田中俊也 本間将嗣
2年生： 堀沙耶果 山田里津子 依田琴弓</p> <p>■アドバイザー：佐藤修一 氏（栖吉コミュニティセンター長）
本間和也 氏（社会福祉法人長岡市社会福祉協議会地域福祉課 課長）</p> |
|-----------------------|---|

取り組みの目的

身体的・精神的状況、地域環境の変化、商店街の衰退、車社会の進展などによって、身近で買物できない高齢者が増加しています。このようなことから、平成25年度において提案した「空き家を使った移動販売型買い物支援（市場併用）」を実現させるため、モデル地区を設定して「移動販売型買い物支援」の検証を行うことを目的としました。

取り組みの意義

昨年度のヒアリングで把握できたことは、高齢者にとって「買い物」とは、生活を維持するだけでなく、直接商品を見ること、人との会話やコミュニケーションを楽しむことが望まれていました。そのことを客観的に検証したり、生活品を販売している小売店の課題を考察することにより、高齢者が身近な場所で買い物ができ、生きがいを持って生活することが実現できます。

活動の枠組みと方法

モデル地区を設定して検証を行いました。具体的には、

- ① 栖吉地区の現状把握（バスツアーなど）
- ② 栖吉地区の高齢者との交流（お茶の間）
- ③ 高齢者疑似体験の実施（大学内）
- ④ 高齢者買い物同行の実施（小売店への買い物）
- ⑤ 高齢者アンケートの実施（高齢者のみ世帯）
- ⑥ 小売店ヒアリングの実施（大型店と小規模店）

以上の取り組みから高齢者と小売店が抱えている課題や問題点を導き出し、さらに解決策を提案しました。

空き家を使った移動販売型買い物支援イメージ図



取り組みの成果

「移動販売型買い物支援」には、高齢者の期待や要望が多数を占めており、ゼミ提案の実現需要は大きく、一方、小売店は消極的な意見や運営面での不安が挙げられています。国で実施している買い物支援関係の補助金を充実する必要が求められています。今後の課題は、「空き家の利用」「財源確保」「地域住民組織との連携」を検証して、最終的集約を行い「空き家を使った移動販売型買い物支援（市場併用）」を行政や関係機関などに提言することです。

図表3-4-5 とちお祭への裏方参画と調査・情報発信（今瀬ゼミ）



「地（知）の拠点整備事業」（大学COC）
長岡地域〈創造人材〉育成プログラム



平成26年度 学生による地域活性化プログラム
とちお祭への裏方参画と調査・情報発信
～長岡・栃尾地域を元気にするために～

- ゼミ担当教員 今瀬 政司
- ゼミ学生：五十嵐信彦、澤井芳秀、須田一聖、相山祐輝、太刀川健太郎（3年生、五十音順）
- アドバイザー：荒木 隆（長岡市栃尾支所商工観光課）、安達一啓（長岡市民協働推進室）

■今瀬政司ゼミナールの目的：「自治と協働による地域づくり」として、実社会の現場における実践的な活動や調査等のノウハウを学び、社会の中で「生きる力」の基礎を身につけ、地域の活性化に貢献すること

■成果：とちお祭の「裏方」として活動、調査、提言、情報発信等を行い（現場活動：30日間超）、栃尾の活性化に貢献

■事前取材とゼミ活動の企画立案における試行錯誤【4～6月】	■「とちお祭」の歴史と現状の調査【6月～翌1月】	■祭の会合等への参加と取材【6月～11月】
<ul style="list-style-type: none"> ・ゼミ生が自ら企画を検討して立案。 ・企画書の第1案として「長岡駅から過疎地域を繋ぐ」を作成後、様々な関係機関に訪問して事前取材・相談。 ・その過程で、具体的に「栃尾」、「とちお祭」、「裏方」に焦点を当てた。 ・企画書を何回も更新し、「とちお祭への裏方参画と調査・情報発信」として最終の企画書を立案した。 	<ul style="list-style-type: none"> ①「とちお祭」の歴史と経済的背景を文献資料と取材により調査 ②第60回とちお祭の「裏方」スタッフと「表方」参加者としての現場活動を通じて、実態を取材・記録して調査 	<ul style="list-style-type: none"> ①結団式 ②安全祈願祭 ③仁和賀部会 ④仁和賀行進「栃尾本町」準備会 ⑤全日本構みこし綱引き選手権大会説明会 ⑥祭りスタッフ打合せ会 ⑦大花火大会反省会等 
■祭の現場作業と取材（設営準備・当日運営・片付け）【6月～8月】	■大花火大会の現場作業と取材（設営準備・打上・片付）【8月】	■祭のイベント（当日の表方）への参加と取材【8月】
<ul style="list-style-type: none"> ①提灯・のぼり設置等の事前準備 ②チラシ配布等の事前PR活動 ③会場設営等の前日準備 ④当日の運営 ⑤会場等の後片付け 	<ul style="list-style-type: none"> ①花火の打上げ場所の設営（枯れ草清掃、テント・防火水槽・照明・看板の設置等） ②花火の見学側の設営 ③打上の点火合図 ④花火の燃え殻回収、テント・防火水槽等の片付け 	<ul style="list-style-type: none"> ①「全日本構みこし綱引き選手権大会」に出場。準優勝！ ②「仁和賀行進」で栃尾本町区のパフォーマンス（ダンス・仮装等）に参加 
■今瀬ゼミの「とちお祭」への提言【10月】	■とちお祭のイベント「仁和賀行進」の出前開催【10月】	■今瀬ゼミ活動の長岡市内巡回「パネル展」開催【10月以降】
<ul style="list-style-type: none"> 提言1 とちお祭の「裏方さん」（特に、若い人）が増えるようにすること 提言2 「全日本構みこし綱引き選手権大会」を栃尾以外に出前開催して魅力をPRすること 提言3 地元の名物料理や家庭料理等の屋台を多く出すこと 	<p>長岡大学「悠久祭」で栃尾本町区の住民の方々と今瀬ゼミで、合同「仁和賀行進」を披露（校舎を背に一緒に踊った）</p>  <p>※栃尾のPR活動</p>	<p><開催会場> ①長岡大学「悠久祭」 ②長岡市栃尾産業交流センターおりなす ③アオーレ長岡（市本庁舎） ④その他、市内各所で開催 ※栃尾のPR活動</p> 
■今瀬ゼミの情報発信【11月以降】	◆「第60回 とちお祭」の概要	◆今瀬ゼミの協力機関等（協働）
<ul style="list-style-type: none"> ①今瀬政司研究室ホームページ（今瀬ゼミの活動報告等を随時掲載） http://sicnpn.jp/imase-nagaokauniv/ ②地域活性化プログラム成果発表会 ③「栃尾タイムス」に記事掲載 ※今瀬ゼミの活動報告等の情報発信を通じて栃尾と「とちお祭」をPR。栃尾への誘客等で地域活性化をめざす 	<ul style="list-style-type: none"> ◇日程：2014年8月23（土）・24（日） ◇内容：全日本構みこし綱引き選手権大会／仁和賀行進／大花火大会／大民踊流し／みこし渡御／その他 ◇とちお祭事務局： 栃尾観光協会 (TEL) 0258-51-1195 (URL) http://tochiokankou.jp 	<ul style="list-style-type: none"> ◇長岡大学ボランティア学生 ◇長岡市役所（栃尾支所商工観光課・地域振興課、市民協働推進室、政策企画課、地域振興戦略部） ◇栃尾観光協会 ◇栃尾本町区（住民） ◇栃尾煙火協会 ◇栃尾商工会 ◇NPO 法人市民協働ネットワーク長岡 ◇NPO 法人フォーラム栃尾熱都 ◇長岡市栃尾地域 NPO 連絡協議会 ◇山の暮らし再生機構栃尾サテライト

図表3-4-6 Future Agricultural Innovation—未来の農業革新—（橋長ゼミ）



「地（知）の拠点整備事業」（大学COC）
長岡地域〈創造人材〉育成プログラム

文部科学省 地（知）の拠点

平成26年度 学生による地域活性化プログラム
Future Agricultural Innovation
-未来の農業革新-

■担当教員
橋長真紀子

■ゼミ学生
4年生：池田隆祥、小田勇太、金子陽介、長橋賢和、Baavlai Badralmaa、涌井要
■アドバイザー：小林平仁氏（長岡市農林部農政課 課長）
中村郁雄氏（株式会社中村農園 代表）

研究の背景

安価な生産単価、また、新規参入者や後継者不足により高齢化の進行、そして労働人口の減少から大規模な経営ができないこと、また地球温暖化による天候不順より収穫量の減少と様々な問題を抱えている。

50～60年も続いた今までの古い農業のシステムでは現状に太刀打ちできず崩壊の危機を迎えている。農家を支えてきた農協。現在では、住宅ローンや金融を行い、本来の目的の仕事が中心となっておらず、年々、農協に卸す農家数や量も少なくなってきた。生産量の問題ではなく、卸単価が叩かれているからである。ゆえに農家自身独自の販売が増えてきている。

高齢者農家は元気がないため、古い体制にしがみついているしかないが、若い世代のいる農家では、販売するために様々な取り組みや工夫を展開している。生産の面では海外の野菜生産、高級果物や販売単価の高めの野菜や果物の生産を中心に手広く生産物の種類を増やしている。販売の面ではスーパーや道の駅の一角に地元農家の直販スペースにてルートの開拓も積極的である。努力の結果、一部農家では多少なりとも収益は上がっているようだ。大きく収益を伸ばしている農家の成功例として魚沼のある農家は、高級食材として海外に卸している。

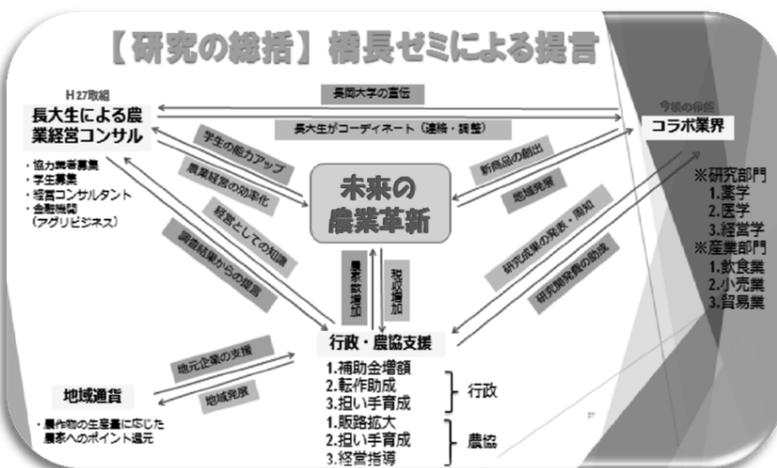
2014年度の取組

【アンケート調査3本柱：2014年10月】

- ① 認定農業者1100件（郵送調査法）
- ② 長岡市の地消地産（地産地消）の推進店100件（郵送調査法）
- ③ 長岡大学の学生302件（集合調査法）

〈2014年度 活動内容〉

- 4～7月 先行研究＋アンケート作成
- 7月中旬 中間レビュー
- 8・9月 調査票開発
- 9・10月 長岡市と調査票の校正＋調査票発送準備
- 10月 調査実施、中間発表パネル作成
- 11月 調査集計・分析
- 12月 成果発表会
- 1月 報告書の作成



図表 3-4-7 十分杯で長岡を盛り上げよう (権 ゼミ)



「地(知)の拠点整備事業」(大学COC)
長岡地域〈創造人材〉育成プログラム



平成26年度 学生による地域活性化プログラム

十分杯で長岡を盛り上げよう

—知名度の低い歴史的題材は観光資源になれるか—

■担当教員
権五景

■ゼミ学生
2年生：中沢 裕太、小川 雄気、中澤 司
■アドバイザー：太刀川喜三 氏
内山弘 氏 (長岡歯車資料館 館長)

取り組みの目的

- ◇ 十分杯の認知度を高める。
- ◇ 「満つれば欠く」、「足るを知る」の文化を広める。
- ◇ 観光商品の開発

取り組みの意義

- ◇ 地域文化遺産の発掘
- ◇ 地元の歴史を活用した地域活性化
- ◇ 地域の企業や組織との協力による活動

取り組みの成果

- ◇ 地域の関係者と意見交換をはかる「十分杯会議」の開催
- ◇ 長岡藩と十分杯との関わりについての年表作成
- ◇ 観光列車「越乃シュクラ」で十分杯の広報活動がスタート
- ◇ 「十分杯ブログ」の開設



- ◇ アオーレ長岡での広報活動
- ◇ 「酒の陣」に参加
- ◇ 教訓について、詳細な文献研究

長岡と十分杯の関わり

長岡藩を根底から支えていた精神は二つあったと言われている。一つが常在戦場(常に戦場にいる心構えを持って生き、ことに処す)の精神であり、もう一つが十分杯(戒め、節儉)の精神であるが、現在では十分杯の精神はあまり知られていない。

長岡藩と十分杯の出会いは三代藩主牧野忠辰公(まきのただとき 1665-1722)の時代にまで遡る。

長岡藩は開府してから新田開発や検地により財政が拡大一路にあった。さらに、元禄時代(1688-1704年)になると貨幣経済が発展し、戦国期の苦しい時代から民衆も生活水準が向上し、生活必需品以外を購入する余裕もでき、町人の生活が奢侈化するにつれて武士たちも同調し華美な生活をするようになった。長岡も例外ではなかったかもしれない。

ちょうどその頃、高田藩で跡継ぎ問題が起きた。それを押さえるための出兵とその後の管理、そして度重なる水害により長岡藩は財政が逼迫するようになった。そこに、ある領民が持参した、「満つれば欠く」という教訓を持つ十分杯に強く感銘を受けた忠辰公は詩を詠み、藩の財政の引き締めをはかった。

また、近現代に入ってから長岡では、節目の年に記念品として配るといった独特の文化が明治期から始まった。



学生が作成した紙
コップ十分杯

(十分杯会議の様子)



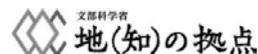
(アオーレでの広報活動の様子)



図表3-4-8 ながおかバル街による中心市街地・店舗の活性化（中村ゼミ）



「地（知）の拠点整備事業」（大学COC）
長岡地域〈創造人材〉育成プログラム



平成26年度 学生による地域活性化プログラム

ながおかバル街による 中心市街地・店舗の活性化

■担当教員
中村大輔

■ゼミ学生
4年生：小倉美樹、高橋奏、平野友望、村山夏生
3年生：波多将志、藤本峻生
■アドバイザー：大沼広美氏（特定非営利活動法人 まちなか考房 事務局長）
高野裕氏（株式会社パートナーズプロジェクト 代表取締役）

取り組みの目的

本取組は長岡市の中心市街地で年2回行われている「ながおかバル街」を通じた中心市街地・店舗の活性化を研究する。

具体的には、地域活性化およびバル街に関する文献研究、バル街運営への関与、シンポジウムの開催等を通じて、バル街の地域活性化に対する意義を学ぶ。そして中心市街地・店舗の活性化手段としてのバル街をこれまで以上に活性化させるための提言を行う。

取り組みの意義

①中心市街地が抱えている問題について、文献研究やイベントを通じて体感する。

②シンポジウムの開催やイベント運営に関与することで、社会人基礎力たる「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」を養成する。

活動の概要

①文献研究

小長谷ほか（2012）『地域活性化戦略』をゼミ生で輪読した（一部）。

②アンケート調査

3・4年生を対象として、中心市街地の飲食店利用に関するアンケートを行った。結果はシンポジウムで報告した。

③シンポジウム開催

10月の悠久祭において、「ながおかバル街シンポジウム」を開催した。

【ながおかバル街へ参加】



【バル街開催の手伝い】



取り組みの成果

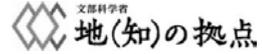
10月の悠久祭において、弘前市の「レストラン山崎」の山崎隆氏、まちなか考房大沼氏をお迎えして、シンポジウムを開催することができた。11月のながおかバル街 Vol.6 では運営に関与し、学生目線でのバル街の楽しみ方をつづったWebページを作成した。12月の成果発表会では、これまでの活動を通じて得られた知識・体験から、これまで以上にバル街を活性化させるための提言を行った。

【ながおかバル街シンポジウムの開催】





「地（知）の拠点整備事業」（大学COC）
長岡地域〈創造人材〉育成プログラム



平成26年度 学生による地域活性化プログラム

地域の魅力発信による絆結び

—神谷の魅力をつなげ・ひろげる—



■担当教員
高橋治道

■ゼミ学生
4年生：伊藤健宏 太田愛実 國松優樹 古田島夏希 羽賀雄介 星田周哉
水品拓郎 大山真実
3年生：八藤後諒 今井大介 岡田孝
■アドバイザー：白井湛 氏（長岡市 神谷区長）、
桑原眞二 氏（NPO 法人ながおか生活情報交流ねっと 理事長）

取組みの目的

長岡市神谷地区（旧越路町神谷地区）をモデルとして、地域に残る自然、文化・歴史、歴史的建造物などの資産を守りながら地域の活性化と次世代への継承を図る方策を試みる。今年度は、昨年度実施できなかった「Eボートによる須川下り」の実現を第一目的とした。また、神谷が「新潟県初のチューリップ開花地」であることを長岡市民に広めることを目的に、長岡市民の間における認知度の調査と神谷の地におけるチューリップ植栽活動を行う。

取組みの成果

神谷地域に残る有形無形の歴史的建造物や伝統文化等を生かした地域活性化策を考える中で、参加学生自身が自分の生まれ育った地域を新たな視点で見つめなおし、地域コミュニティに参加して行く姿勢を学ぶことができる。また、取組みの企画・実行、地域住民との交流を通して、シンキング力、アクション力、コミュニケーション力などの社会人基礎力を身に付けることができる。

【活動の写真集】

Eボート下見会の様子



運動会



活動の枠組みと方法

昨年度からの「地域の魅力発信による絆結び」活動を引き続き行うこととし、一つは、25年度に実現できなかった「Eボートによる須川下り」の取組みに再チャレンジすることとした。また、これまでの先輩が取り組んできた活動の成果を踏まえながら、神谷が「新潟県初のチューリップ開花地」であることを長岡市民に広く知らせるための活動を引き続き行うこととした。Eボートの活動は、これまでの活動の継続性から4年生が担当し、チューリップにかかわる活動を3年生が行うことにし、二つの班（Eボート班、チューリップ班）を設定した。

各班が独自に活動を行うと共に、地域の行事には積極的に参加し、神谷の人たちとの交流を深める活動も行う。

活動の概要

Eボート班

- ・昨年度、Eボートを借りるができず、実現できなかった「神谷の中を流れる「須川」をEボートで下る」企画に再挑戦した。今年度は、須川の河川使用許可、Eボートの操船と安全講習会など、川下り当日までの諸課題を情報共有システムも使いながら議論・解決に向けて取り組んだ。10月18日に実施した川下りの様子は、10月22日にNHKの「クローズアップ現代」で全国放送された。

チューリップ班

- ・神谷が「新潟県初のチューリップ開花地」である認知度調査を10月19日に越後丘陵公園で行い、78名から聞き取りを行った。
- ・「新潟県初のチューリップ開花地」をアピールするチューリップ植栽を神谷の住民が主体となった活動にすることを目的に「チューリップ植栽活動への参加呼びかけ」のチラシを回覧板で回覧した。11月18日の植栽日は、神谷の住民4名も参加された。この様子は、11月22日の新潟日報朝刊で報道された。

その他

- ・観桜会、どろんこ田植え、いかだ修復作業、神谷区民運動会などの行事へ参加し、神谷の人たちとの交流を深めた。



チューリップの植栽



丘陵公園での認知度調査



観桜会

図表 3-4-10 小千谷市中心市街地活性化のための若者による提言
(小千谷活性化プロジェクト)



「地(知)の拠点整備事業」(大学COC)
長岡地域〈創造人材〉育成プログラム



平成26年度 学生による地域活性化プログラム 小千谷市中心市街地活性化のための 若者による提言

- 担当教員
鯉江康正
- ゼミ学生
4年生：小幡陽生、石井恵夢 3年生：高橋良樹、廣川友香 2年生：新保祐樺、中原紗貴美
- アドバイザー：
樋熊捷平氏（株式会社たかの）
安達一啓氏（長岡市市民協働推進室市民協働班 主査）

取り組みの背景

近年、小千谷市本町通りは店舗の移転や閉店が相次ぎ、商店街はシャッターが多く見受けられ人の流れが少なくなっている。
株式会社たかの会長の高野雅氏から「学生のアイデアで本町通りを中心に小千谷市の地域活性化ができないか」との依頼を受け、平成25年度にこのプロジェクトが発足した。

活動の枠組みと方法

- 平成25年度は、まず住んでいる人から見た小千谷と、周りから見た小千谷では、どのような違いがあるのかといったアンケートを実施した。

アンケートの目的

小千谷市民および小千谷市以外に住んでいる人から見た小千谷市の魅力を調査することにより、今後の小千谷市の魅力発信に役立てる。

調査内容

- 1、回答者の属性（性別、年齢、居住地）
- 2、参加したことのある催し、購入したり食べたことのある名物
- 3、訪問したことのある景勝、史跡、施設

調査結果のポイント

小千谷市民が参加したり食べたことのあるものの代表は「おぢやまつり」「小千谷そば」であった。これに対して、長岡市民から見たそれは「片貝まつり四尺玉花火」「小千谷そば」であった。



- 平成26年度は、昨年度の活動を踏まえ小千谷活性化案を具体化し、下記の3つの提案を行った。

1. 就学前児童を対象とした総合施設の提案
(「わんパーク」の機能強化)
2. 本町通りを利用したイベントの提案
(そばと坂道を利用した「流しそば」や雪と坂道を利用した「そり大会」)
3. 空き店舗、空き施設を利用した地域活性化案の提案
(「地域密着型複合施設」、「パブリックビューイング等の施設」、「ニュースポーツの場の提供」)



(成果発表会の様子)

2年間の取り組みを通して

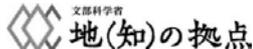
ゼミナール活動とは違い不定期での活動だったため時間が足りなく、中途半端になってしまった点、情報収集不足だった点が多かった。もともとメンバーの大部分が小千谷市についての知識が無いなか、2年間小千谷市について活動して多くのことや魅力を知ることができた。多くの観光地やスポットが小千谷市にはあるので、そういったものとリンクして活性化につながればいいと感じる。

図表3-4-11 企業の情報発信とホームページの役割(村山ゼミ)



学校法人 中越学園
長岡大学

「地(知)の拠点整備事業」(大学COC)
長岡地域〈創造人材〉育成プログラム



文部科学省
地(知)の拠点

平成26年度 学生による地域活性化プログラム

企業の情報発信とホームページの役割

■担当教員
村山光博

■ゼミ学生
4年生：猪俣陵、神田美典、黒崎修平、佐々木貴章、謝吉喆、布川尊也、喻彬
3年生：高橋諒成、小野祥太郎、孫偉、宮崎翔、熊浩、李楊
■アドバイザー：山田哲也氏(NPO法人長岡産業活性化協会 NAZE 事務局次長)
杉浦聡氏(株式会社スノーキャスト 代表取締役)

取り組みの目的

企業の自社ホームページにおいて、各社のターゲット(対象者)に合わせた適切な情報を、より効果的に発信できるように改善を図ることで、閲覧者の増加から問い合わせや引き合いの増加へとつなげ、地域の中小企業の活性化を目指す。

取り組みの成果

1. 企業3社に対する自社ホームページの運用状況をヒアリング調査した結果から、優れた活用事例としてホームページ運用の要点をまとめた。
2. 越後工業株式会社のホームページのリニューアルに向けて、デザイン案を策定した。

取り組みの意義

- ・自社ホームページの改善に向けて企業の業務内容や商品の特徴を整理することにより、他社との違いや強みを明らかにすることができる。
- ・ホームページ情報の調査を通して企業研究を行うことにより、学生の調査能力や社会人基礎力の向上を図る。

活動の概要

1. 継続的なホームページの改善を図っている企業の代表として、NAZE 会員企業の株式会社片山抜型製作所、株式会社サカタ製作所、株式会社大原鉄工所の3社を訪問し、ホームページの運用状況についてのヒアリング調査を行った。調査の結果から、ホームページの効果的な運用には、次のようなことが必要であることがわかった。
 - ・ターゲットとなる閲覧者からホームページに繰り返しアクセスしてもらうために、日々の情報発信と定期的な改訂を心がける。
 - ・ターゲットの利便性向上を常に考えて、コンテンツを企画し、提供する。
 - ・ホームページからの問い合わせへの適切な対応などから、顧客とのリアルな関係につなげていく。
 - ・必要に応じて、専門業者の協力も得ながら継続的な改善を図る。
2. 越後工業株式会社の自社商品である車椅子の中国への販売展開にともなう自社ホームページのリニューアルに向けて、ゼミ学生がページデザイン案の策定を行った。デザイン案の策定に先立って、同社を訪問し、業務内容およびホームページの運用状況などについてヒアリングを行った。

活動の枠組みと方法

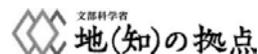
本取り組みは、NPO 法人長岡産業活性化協会 NAZE の「企業ホームページ改善支援事業」との連携事業である。これまでの5年間の活動では、NAZE の事務局を通して会員企業の中から実際に自社ホームページの改善を図ろうという意向のある企業を募集し、各年度で応募企業の2~3社を対象として学生グループが調査や改善提案を行ってきた。



図表3-4-12 グラスルーツグローバル化推進（広田ゼミ）



「地（知）の拠点整備事業」（大学COC）
長岡地域〈創造人材〉育成プログラム



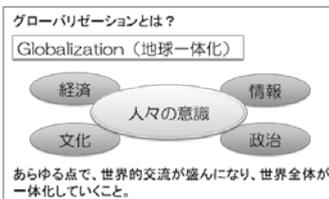
平成26年度 学生による地域活性化プログラム グラスルーツグローバル化推進 一草の根・地域からの地球一体化推進一

■担当教員
広田秀樹

■ゼミ学生
4年生：間野宏樹
3年生：新保太基・増田祐也・福澤里奈・刘婷・樋口将太
■アドバイザー：大出恭子氏（コミュニティ・リーダーズ・ネットワーク代表）
デビッド＝ブズロー氏（ITコンサルタント）

取り組みの目的

- ・草の根・地域からのグローバル化推進
- ・世界のどこ出身の人が来ても歓迎されるような地域の構築
- ・グローバル化の潮流を地域活性化に寄与させる方途の探究



取り組みの意義

草の根・地域からグローバル化（地球一体化）を平和的に進めその過程を地域活性化に役立てることを志向する活動をグラスルーツグローバル化推進（草の根・地域からの地球一体化推進）と定義する。この活動の積み重ねが地域活性化に連動するものと確信する。



取り組みの成果

- ・世界から地域に来られた多数の方と交流する中で、「世界のどこから来ても歓迎されるような地域の構築」に寄与できた。
- ・グラスルーツグローバル化推進の諸活動を切っ掛けとして集中学習を行い専門知識等を獲得することができた。

【活動の枠組みと方法】

Study : グローバル化に関する学習
↓
Invite : 外国人の方等をゼミに招待し交流
↓
Visit : 外国人の方が集まる場所等への訪問
↓
Donate : 学園祭に出店し利益を世界に寄附

【活動の概要】

- ・グローバル化の包括的学習
- ・ベネズエラ人留学生との交流
- ・スリランカ人大学教員との交流
- ・タイレストランへの訪問・交流
- ・中国料理店への訪問・交流
- ・韓国料理店への訪問・交流
- ・フェアトレードショップへの訪問・交流
- ・ユニセフへの寄附活動
- ・グラスルーツグローバル化推進の諸活動を切っ掛けとしての集中学習

<ヒアリング活動の様子>



図表3-4-1-3 新潟県内のまちの駅の情報発信とまちの駅間交流の実施
(鯉江ゼミ)



「地(知)の拠点整備事業」(大学COC)
長岡地域〈創造人材〉育成プログラム



平成26年度 学生による地域活性化プログラム 新潟県内のまちの駅の情報発信と まちの駅間交流の実施

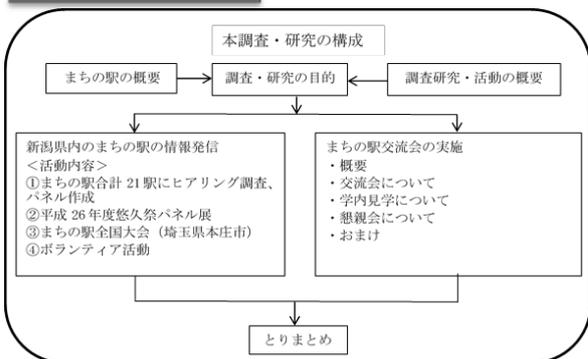
■担当教員
鯉江康正

■ゼミ学生
4年生:伊佐夏美、高野綾夏、目黒達典、滝沢晶、劉洋、周友糧
3年生:丸山真司、ショウ花、蘭海潮、李セイ
■アドバイザー:
中川一男氏(まちの駅ネーブルみつけ 駅長)
安達一啓氏(長岡市市民協働推進室市民協働班 主査)

取り組みの目的

新潟県内にある「まちの駅」の情報発信活動を通して地域の魅力を地域の人々に伝えとともに、全国大会にも参加して新潟県の「まちの駅」を広く知ってもらおう。また、まちの駅交流会を本学で実施することにより、駅間交流を深めるとともに、本学の活動もアピールしていく。

活動の枠組みと方法



(とちバレルでのヒアリング)



(悠久祭でのパネル展示)



(成果発表会の様子)



取り組みの成果

- ① ヒアリング調査・パネルの作成については、今年度をもって、県内125駅的全調査とパネル作成をすることができた。今年度の学生のみ力ではないが、目標を立てて1つのことをやり遂げたことは評価に値する。
- ② 悠久祭でのパネル展の開催については、昨年度まで実施してきたパネル展に加え、県内のまちの駅の活動を紹介したDVDも利用して、自分たちの活動と成果をアピールできたことは評価できる。
- ③ まちの駅全国大会へ参加した結果、他の県の取り組みを知ることができ、今後のゼミの活動への刺激となった。
- ④ 本学に新潟県のまちの駅の方をお招きして「第1回まちの駅交流会」を実施できたことは新たな展開である。



・なお、平成26年度成果発表会は、図表3-4-14のとおり開催された。

図表3-4-14 学生による地域活性化プログラム成果発表会案内



学校法人 中越学園
長岡大学



文部科学省
地(知)の拠点

長岡地域(創造人材)育成プログラム
平成25~29年度文部科学省「地(知)の拠点整備事業」(大学COC事業)採択

学生による地域活性化プログラム

平成26年度 成果発表会

〈プログラム〉

- ◆米山 宗久ゼミ：高齢者の買い物支援 - 栖吉地区における高齢者買い物同行や調査より-
- ◆今瀬 政司ゼミ：とちお祭への裏方参画と調査・情報発信
- ◆橋長真紀子ゼミ：Future Agricultural Innovation - 未来の農業革新-
- ◆権 五景ゼミ：十分杯で長岡を知らせよう!
- ◆中村 大輔ゼミ：ながおかバル街による中心市街地・店舗の活性化
- ◆高橋 治道ゼミ：地域の魅力発信による絆結び - 神谷の魅力をつなげ・ひろげる-
- ◆小千谷活性化プロジェクトチーム：小千谷市中心市街地活性化のための若者による提言(鯉江 康正)
- ◆村山 光博ゼミ：企業の情報発信とホームページの役割
- ◆広田 秀樹ゼミ：グラスルーツグローバリゼーション - 草の根・地域からの地球一体化推進-
- ◆鯉江 康正ゼミ：新潟県内のまちの駅の情報発信とまちの駅間交流の実施

【総評】 長岡市市長政策室政策企画課 課長 **中村 英樹 氏**
株式会社ホクギン経済研究所 副所長 **宗田 俊弥 氏**






日時 平成26年 **12月6日(土)**
13:00~17:00 (受付開始 12:30)

会場 **ホテルニューオータニ長岡**
「NCホール」
※ホテル及び周辺駐車場は有料駐車場のみです。公共交通機関をご利用ください。

定員 **250名 入場無料**
申込締切 / 12月1日(月)

◆主催 / 長岡大学
◆後援 / 長岡市・長岡市教育委員会・長岡商工会議所
公益財団法人 いかがた産業創造機構
NPO法人 長岡産業活性化協会NAZE

お問い合わせ・お申込み

FAX: 0258-39-9566
TEL: 0258-39-1600(代)
〒940-0828 長岡市御山町80-8
http://www.nagaokauniv.ac.jp
e-mail: porev@nagaokauniv.ac.jp
長岡大学教務学生課
地域活性化プログラム担当: 恩田

氏名		会社等	
住所・連絡先	〒		
電話番号		F A X	
E-mail			

※ご登録いただいた個人情報は、本学規定に従って厳正に管理します。

(5) まとめ—成果と課題—

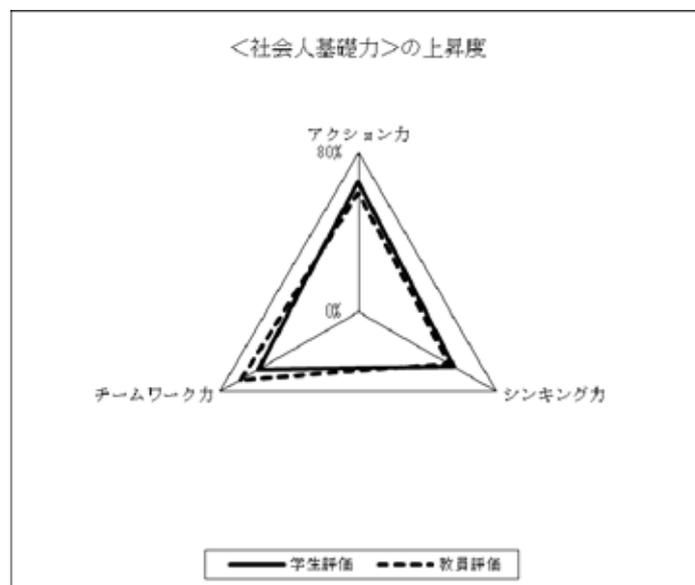
・成果発表会は参加者185名と盛況であった。3つの社会人基礎力の上昇度（取組前と取組後の比較）は、学生の自己評価と教員評価の間にずれがあり、アクション力、シンキング力では学生評価の方が高いが、チームワーク力は教員評価の方が高くなっている。

この数値が高いか低いかは評価が分かれるところであろうが、1つの講義で学生の社会人基礎力がこれだけの伸びるということはあまり考えられず、プログラムとしては一応の成功がみられるのではなかろうか。

今後の取組においては、今年度の結果に表れている学生評価と教員評価との差を小さくすると同時に全体的な上昇度を高めていくことに対して、継続的に検討していく必要がある。

地域活性化プログラムの目的である「学生の社会人基礎力の上昇度」ならびに各基礎力の評価については、図表3-4-15から図表3-4-18に示すとおりである。

図表3-4-15 社会人基礎力の上昇度

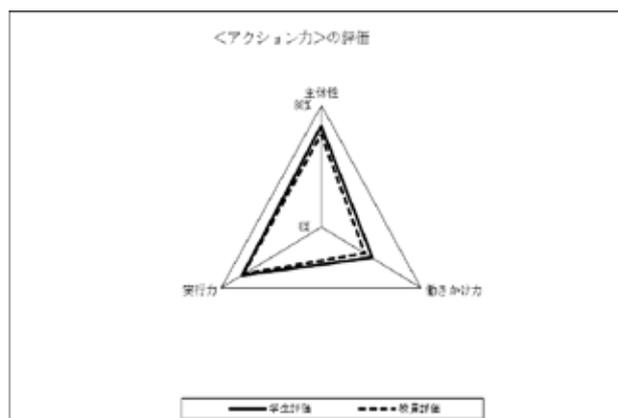


<社会人基礎力>の上昇度

		学生評価	教員評価
アクション力	上昇した学生の割合	65.2%	59.4%
シンキング力	上昇した学生の割合	55.1%	52.2%
チームワーク力	上昇した学生の割合	58.0%	68.1%



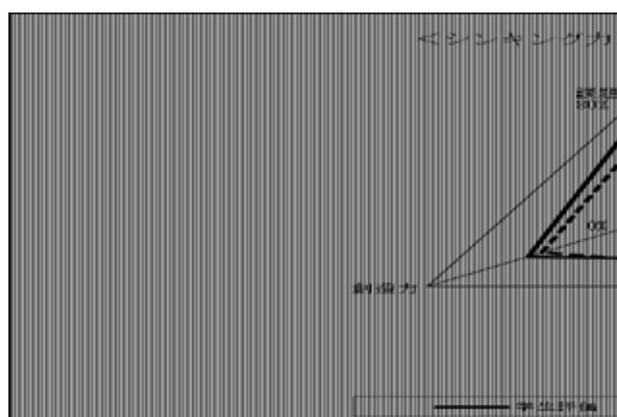
図表 3-4-16 アクション力の評価



<アクション力>の評価

		学生評価	教員評価
主体性	進んで取り組んだ学生の割合	66.7%	60.9%
働きかけ力	積極的に働きかけた学生の割合	40.6%	34.8%
実行力	確実に実行できた学生の割合	63.8%	62.3%

図表 3-4-17 シンキング力の評価

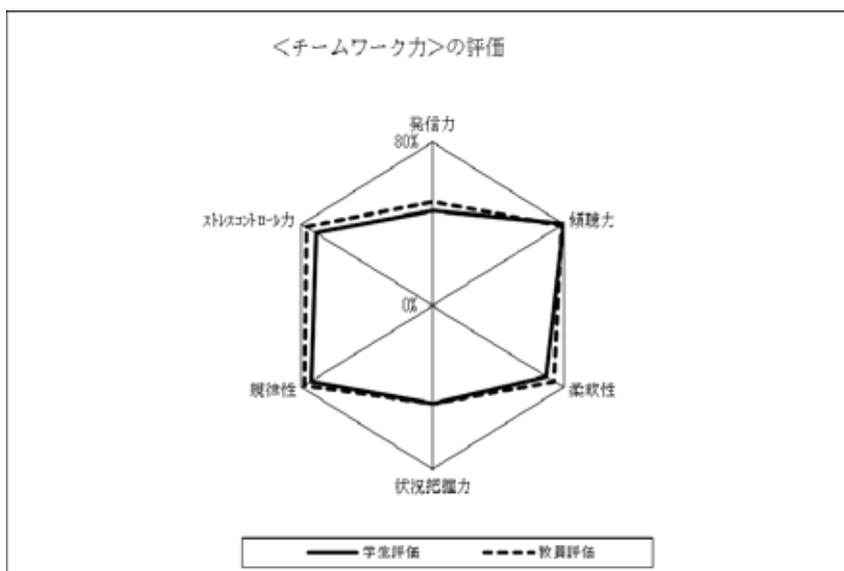


<シンキング力>の評価

		学生評価	教員評価
課題発見力	明らかにできた学生の割合	66.7%	50.7%
計画力	準備できた学生の割合	44.9%	58.0%
創造力	十分出せた学生の割合	40.6%	34.8%



図表 3-4-18 チームワーク力の評価



＜チームワーク力＞の評価

		学生評価	教員評価
発信力	十分伝えられた学生の割合	46.4%	50.7%
傾聴力	十分聞けた学生の割合	79.7%	78.3%
柔軟性	十分理解した学生の割合	69.6%	73.9%
状況把握力	十分理解した学生の割合	47.8%	47.8%
規律性	守った学生の割合	73.9%	78.3%
ストレスコントロール力	うまく解消できた学生の割合	71.0%	76.8%



5 ボランティア・スキルの養成（3課題対応）－教育⑤－

（1）方針（申請時）

- ・3課題に対応したボランティア関係の授業科目等の充実・仕組み構築を図り、卒業後もボランティア活動を推進できる人材を養成する。
- ・＜ボランティア大学＞のイメージを定着させる。

（2）目標（申請時）

- ・平成25年度→ボランティア体験Ⅰ授業等で、ボランティア・スキルや学生リーダーを養成する。ボランティア・アドバイザーの配置－単位取得学生数20名。
- ・平成29年度→ボランティア体験Ⅰ、Ⅱどちらか履修学生割合目標－卒業生の80%

（3）平成25年度実績と評価

- ・実績－ボランティア体験・ボランティア論（1年生科目）単位取得者割合は33%で、目標の30%（20名）を上回った（ただし、前期科目）。1泊2日のリーダー研修をサークル等責任者に対して2回（9月・3月、各回約20名参加）実施した。また、コーディネーターによる地域活性化等のボランティア・活動の指導、支援を毎週（2～3回）行った。平成26年度のボランティア体験科目を具体的に実施するための地域ボランティア情報、ネットワークを形成できた。
- ・評価－学生へのリーダー研修やボランティア・活動の指導・支援により、学生の部活や地域活動の活性化を促進するとともに、担い手の拡大を図ることができた。また、次年度のボランティア科目等の円滑な推進を図る条件を整えられた。

（4）平成26年度方針・目標・予算

【方針】

- ・ボランティア・スキルの養成・・・学生に対する最新のボランティア情報の提供（掲示板）を行うことにより、学生のボランティア活動への参加を促進する。また、ボランティア・リーダーの合宿研修を行い、リーダー養成を行う。

【目標】

- ・ボランティア体験等科目履修学生数・割合（1年生科目）を40%とする（年度当初履修登録者数→ボランティア論履修者59名+ボランティア体験履修者12名=71名）。
- ・ボランティア活動参加学生等の目標は次の通り。
 - a ボランティア参加学生・・・イベント協力型：のべ60名 継続型：5名
 - b ボランティアリーダー研修参加者・・・6名

（5）平成26年度計画

- ・ボランティア論・ボランティア体験の授業は、着実に展開する。
- ・ボランティアデスクの開設・・・ボランティアに興味があっても参加したことのない学生をまず参加してもらおう。2回目以降の参加につなげるような機会と情報を提供する。また、やりがいを実感するような仕組みを検討する。

a ボランティア情報の公開

*ボランティア募集を公開し、「興味がある」から「参加する」学生を増やす→掲示板の設置(学内3箇所)、インターネットの活用による周知・募集(4月~5月中に構築、以後継続)

*ボランティアを募集している団体の情報を蓄積する仕組みの構築→団体登録、ボランティア募集用の書式を準備し、登録を呼びかける(4月中に構築、以後継続)

b ボランティア情報の実践サポート

*コーディネート→ニーズとシーズのマッチングを図ることで、より深いボランティア体験を提供する→カウンターパートナーを作っていくことで、より広い活動の場の提供を進める。

*サポート→初めて参加する学生のサポートをすることでリピートを増やす→課題解決型、価値創造型のボランティア希望者のサポートを行う

*やりがいの実感・見える化→受け入れ団体からの感想をフィードバックする→活動中の写真をHP等で公開する(以上、4月~5月中に構築、以後継続)

c ボランティア活動の振り返り実践

・活動ごとのフィードバック→受け入れ団体からの感想や意見などを伝える

・悠久祭でのブース出展(10月)

・ボランティアリーダーの養成・・・ボランティア活動に複数回参加した学生や継続型ボランティア活動をする学生を中心に、合宿形式のフィールドワークを実施し地域の課題解決をすることによって実践力や企画力を身につけ、ボランティアリーダーや卒業後の市民活動家育成を目指す。

a ボランティア現場での合宿

・中山間地域でのボランティア活動を実施する→6名程度、8月実施予定

(6) 展開

a 授業

・ボランティア論(前期、火曜日・3限、1年生対象)、ボランティア体験(前期、夏季集中、1年生対象)は、それぞれ、81名、18名の履修者で、進められた。

・単位取得状況・・・ボランティア論の単位取得者は50名(1年生:履修登録59名、単位取得者:37名、2年生以上:履修登録22名、単位取得:13名)、ボランティア体験の単位取得者は8名(1年生:履修登録12名、単位取得者:6名、2年生以上:履修登録6名、単位取得者:2名)であった。ボランティア論とボランティア体験の単位取得者は43名で、1年生の履修・単位取得割合は50.6%(述べ数。1年生在籍者85名)で、一応、目標を上回ったが、ボランティア体験履修者はもっと増加させる必要がある。

b ボランティアデスクの開設

・ボランティア情報の公開・・・ボランティア情報を学内4箇所で掲示(月1~2回)。イベント参加型と継続型に分け、周知を図った。また、各団体によるチラシを共に掲示し、興味を促した。継続型・・・5回、イベント型・・・10回

・インターネットを活用した情報公開・・・Facebookの運用-5月から開始した。

<https://www.facebook.com/nagaokauniv.volo>。

ホームページへの掲載。学生一斉メールを使った情報提供も行う。

- ・実践サポート・・・カウンターパートナーとして、長岡市民協働センターのボランティア担当者および、(公財)山の暮らし再生機構の復興支援員と連携し、情報の共有や共同企画、ニーズ把握などに取り組んだ。
- ・1・2年生向けボランティア・アンケート実施・・・興味はあるが、参加していない学生の存在が浮き彫りになった。そういった学生に向け、ボランティアデスクがサポートし、現地への案内、マッチングなどを実施した。
- ・Facebookによる情報発信・・・イベントごとに活動を公開し、学生の閲覧も少しずつではあるが、増え始めている。
- ・振り返りの実践・・・ボランティア活動に参加した学生に対し、個別の感想などを提示した。

c ボランティア・リーダーの養成

- ・ボランティア合宿・・・第3回学生ボランティアフォーラムに学生2名参加(2月 25～27日、於・国立オリンピック記念青少年総合センター)。学生2名は、多くの他大学の学生との交流会やボランティア見本市などを通して、県内大学学生とも話し合い、自ら活動するイメージ(大学間交流やサークルづくりなど)を形成できたようである。今後の具体的な動きが期待される。
- ・授業参加「ボランティアについて」・・・キャリア開発Ⅱ(10/2、10名)、キャリア開発Ⅰ(10/7、80名)でボランティア活動について、講義。

d ボランティアコーディネート実績

ボランティアコーディネート実績は、図表3-5-1～2の通りである。

(7) まとめー成果と課題ー

まず第1に、ボランティア論、ボランティア体験履修者については、目標数字は一応上回ったが、満足できる成果とは言いがたい。とくに、ボランティア体験の履修・単位取得者が少なく、授業の内容・進め方を見直すなど対応策を検討し、具体化する必要がある。

第2に、学生のボランティア活動への参加を促進するためのボランティアデスクの開設は、一定の成果をあげたと言える。ボランティア情報の公開・提供、ボランティア・リーダーの養成など前進した。

第3に、地域の様々なボランティア活動への学生の参加は、目標を上回る事ができた。諸イベントには約70名の学生が参加し、定例的なボランティア活動にも約20名の学生が参加し、地域の催しを支えるとともに、学生のボランティア力の向上に貢献した、と言えよう。

第4に、ボランティアリーダーの養成は、参加学生数がまだ少ない状況を脱していない。今後、工夫をこらして(学生ボランティアフォーラム等への参加)、より広く学生の意欲を喚起し、学生のリーダー養成を行う必要がある。

第5に、今後の課題としては、ボランティアデスクの情報発信やコーディネートの充実を行うとともに、何よりも、学生のボランティア団体の形成に注力する必要がある。授業だけでなく、恒常的なボランティア活動を展開・拡大するためには、学生のボランティア団体の形成が不可欠である。

図表 3-5-1 平成 26 年度ボランティア活動参加実績 (イベント)

ボランティア活動参加実績(イベント)					*合計 71 名の学生が参加
	月日	人数	イベント	場所	内容
1	4月19・20日	4	アオーレ感謝祭	協働センター	子どもの工作教室補助、見守り
2	5月11日	1	アフリカンフェスタ	ナカドマ	準備、撤収作業、運営補助
3	6月1日	24	植樹祭	川口きずな館 ハイブ長岡	参加者誘導、給水所など
4	6月15日	10	父の日イベント	リバーサイド千秋	子どもの見守り、子守
5	7月29日	1	泥だしボラ	山形県南陽市	水害被災地の救援
6	8月2・3日	2	ひろ街	大手通一帯	ごみ拾い
7	8月10日	1	木籠集落道普請	木籠集落内	草刈、交流会
8	8月15日	2	木籠集落道普請	木籠集落	盆踊り参加
9	8月30・31日	2	24時間テレビ	イオン長岡店	募金活動
10	9月23日	1		アオーレ	イベント運営
11	9月27・28日	3	すこやかともしびまつり	アオーレ	介護補助、イベント運営補助
12	9月28日	6	すこやかともしびまつり	アオーレ	演奏ボランティア
13	11月2日	1	ハロウィン2014	見附市今市町	子どもの見守り
14	12月5日	4	地域交流会準備	長岡大学 COS	クリスマス会の装飾準備
15	12月12日	3	地域交流会準備	長岡大学 COS	会場設営
16	12月13日	4	地域交流会	長岡大学 COS	記録写真、物産販売、会場案内
17	2月14・15日	2	雪しかまつり	河川敷	火ほたる設営、湯茶接待、撤収作業

図表 3-5-2 平成 26 年度ボランティア活動参加実績 (継続)

ボランティア参加実績(継続)					*合計 19 名の学生が参加
	日程	人数	頻度	場所	内容
1	5月～	1	毎週月曜	あうるの森	子どもの学習補助、見守り
2	6月上旬	13	5日間	新潟病院	新築の小児病棟の壁画制作
3	6月～	1	月1回	やまびこ (小国)	高齢者へのPC教室
4	8月中	2	夏休み中	栖吉児童館	子どもの学習補助、見守り
5	8月中	1	5日間	アオーレ、上通小学校	花蓮の管理、子どもとの触れあい
6	11月～	1	月1回程度	フードバンク長岡	会報の編集作業

6 社会人基礎力の養成（インターンシップ／3課題対応）－教育⑥－

（1）方針（申請時）

- ・従来の職場体験型インターンシップに加えて、課題解決型インターンシップを新設し、社会人基礎力の一層の充実養成を図る。

（2）目標（申請時）

- ・平成 25 年度→平成 26 年度に、課題解決型インターンシップ＝インターンシップⅡ（従来はⅠ）科目を新設（2単位）。商店街等で職場体験しながら、活性化提案等を行う。
- ・平成 29 年度→インターンシップⅡ学生参加率 20%、インターンシップⅠ参加率 60%。同上全国大会入賞めざす。

（3）平成 25 年度実績と評価

- ・平成 25 年度のインターンシップは 8～9 月の集中（10 日間、2 単位）で行われた（22 名履修）。これに加えて、課題解決型インターンシップの平成 26 年度実施に向けた計画づくりを計画したが、成案を得るに至らなかった。
- ・課題解決型インターンシップの仕組みを検討したが、成案を得られず、次年度の課題となった。

（4）平成 26 年度方針・目標・予算

【方針】

- ・社会人基礎力の養成（インターンシップ）・・・集中型インターンシップの充実・グレードアップを図るとともに、課題解決型インターンシップの実施条件の整備を図る。

【目標】

- ・集中型インターンシップの仕組みを再構成し、社会人基礎力向上に役立てる。
- ・課題解決型インターンシップについては、集中型インターンシップ受入機関との調整を行い、その実施条件を明確にする。

（5）平成 26 年度計画

- ・集中型インターンシップ（3 年生対象、10 日間、2 単位）については、事前準備（4～7 月、研修機関選択、研修課題設定、ビジネスマナー）を行い、職場研修・実習（8～9 月）、成果まとめと発表（10～11 月）の 3 段階の仕組みを確立する。
- ・課題解決型インターンシップについては、後期に、集中型インターンシップ受入機関へのヒアリングを行い、実施可能性と条件をとりまとめる。

（6）展開

a 集中型インターンシップ

- ・年間計画・・・夏季インターンシップ期間の前後の充実の観点から、次のように年間計画を設定した（毎週の授業開講）。成果発表会は初の開催であった。
仕組み等の説明（4 月）→インターンシップ研修先企業等の選択（5 月）→研修課題・研修

先企業研究・ビジネスマナー（6月）→研修先事前訪問（7月）→インターンシップ（8～9月）→研修レポート・成果発表資料作成（10月）→成果発表会（11月）→成績評価

- ・ **研修先企業等**・・・研修先企業等は次の17事業所であった。
*越後成果株式会社、株式会社サカタ製作所、一正蒲鉾株式会社、株式会社オオミヤ、株式会社ハードオフコーポレーション、北越銀行、長岡グランドホテル、ホテルニューオータニ長岡、ホテルサンローラ、新潟総合警備保障株式会社、特定医療法人三島病院、新潟みらい農業協働組合、NPO法人地域循環ネットワーク、長岡商工会議所、十日町市役所、長岡市役所、村上市役所
- ・ **学生の研修先選択**・・・インターンシップ受入承諾企業等は39事業所であったが、インターンシップ履修登録者（3年生）が23名であったため、最終的には上記の17事業所、16名（延べ21名。10日間事業所×11名、5日間×2事業所かける5名）がインターンシップに参加するにとどまった。
- ・ **派遣辞退・不参加学生**・・・学生の応募がなくやむなく辞退した受入承諾企業等は22にのぼった。また、インターンシップの準備に適応できずに履修登録したがインターンシップ不参加学生は、7名にのぼった。その結果、学生の参加率は25.4%にとどまった。
- ・ **成果発表会**・・・平成26年11月19日（水）14:40～16:10、於・226教室で開催。審査委員は委員長・内藤敏樹学長、小松俊樹教授、松本和明教授、品川十英事務局長。14名（2名欠席）の発表（発表3分、質問2分）の後、次の学生が表彰された。

最優秀賞・福澤 里奈	（研修先・ホテルニューオータニ長岡）
優秀賞・長澤 隼也	（研修先・一正蒲鉾株式会社）
優秀賞・八藤後 諒	（研修先・村上市役所）
優秀賞・安井 拓郎	（研修先・長岡市役所／北越銀行）



最優秀賞・福澤 里奈さん

b 課題解決型インターンシップ

課題解決型インターンシップについては、検討の結果、平成27年度から、次のような形で、具体化することとした。本学の地域活性化プログラム（3・4年ゼミが中心）は課題解決型インターンシップの性格も持っているため、本学のインターンシップを次のように組み立てる。

- ・ **インターンシップ等科目**・・・平成27年度から地域志向新科目＝特殊講義・現場体験プログラム（2年生対象、1単位）を開講し、既存のインターンシップ（3年生対象、2単位）とあわせて、職場・現場体験講座を強化する。
- ・ **多様な現場体験・就業体験プログラム**・・・この2科目のなかで、1週間（5日間）・2週間（10日間）のインターンシップ、課題解決型インターンシップ（数名グループによる）、数日の冬期インターンシップ、現場・企業見学の4つを、学生のニーズに対応して組み立てて展開する。

c. 新潟インターンシップ・フォーラム

- ・県内 10 大学が集まってインターンシップ等の報告会が次の通り、開催された。参加者は、学生・大学関係者など約 130 名であった。図表 3-6-1 を参照されたい。

名 称：「進化するインターンシップ 新潟フォーラム」

日 時：平成 27 年 3 月 4 日(水)、13:00~17:00

会 場：新潟日報メディアシップ(新潟市中央区万代)

共催校：新潟大学農学部、新潟工科大学、新潟青陵大学、新潟青陵大学短期大学部

発 表：次の通り。

〔地域と産学連携〕・・・新潟青陵大学／同短期大学部「地域商店街と考えるインターンシップ」、長岡大学「十分杯で長岡を盛り上げよう」、長岡造形大学「灯そうよ心一つに竹明かり・みしま竹あかり街道」、新潟大学農学部「育てよう！子供たちの食育・花育の輪」、上越教育大学「学校ボランティア等の取組からの学び」、敬和学園大学「復興支援インターン@南三陸とその後のとりくみ」

〔地元企業と産学連携〕・・・新潟工科大学「企業の課題に挑戦！～学内・学外実習～」

〔海外を視野に産学連携〕・・・新潟国際情報大学「世界をもっと:地域連携による国際理解教育」、新潟県立大学 「外国人観光客を呼び込む新たな観光戦略」

- ・長岡大学の発表・・・長岡大学は、権ゼミナールの 3 名の学生が「十分杯で長岡を盛り上げよう」を発表。内容も発表態度もすばらしく、翌日の新聞（新潟日報）にも紹介された。ただこのフォーラムでのインターンシップは非常に広く定義しているが、長岡大学の地域活性化プログラム＝課題解決型インターンシップといえるので、権ゼミナールの十分杯が最もわかりやすいと考え、エントリーした。

(7) まとめ —成果と課題—

まず第 1 に、集中型インターンシップについては、事前・事後のフォローと成果発表会の実施により、就業体験と社会人基礎力の向上の点で、好評であった。次年度以降も、この方式を継続することが望ましい。

第 2 に、その反面、履修・受講学生の規模・率はともに低下したが、これをどう挽回するか、挽回するだけでなく、規模・率ともに大幅にアップする対策を打たなければならない。次年度の大きな課題である。

*なお、本学のインターンシップ参加率は、平成 20~22 年度はほぼ 40%を維持していたが、平成 23~25 年度は 30%程度に低下した。平成 26 年度は履修登録しながら参加まで至らなかった学生が 7 名にのぼったことが率を下げたが、今後はこれへの対応が求められよう。

第 3 に、次年度の新しい現場・就業体験の仕組みを幅広く（新潟フォーラムの多様なインターンシップの観点から）構築すること、これが今後の最大の課題である。1 年次（キャリア開発 I）からの現場・就業体験参加の認知度の向上、2 年次の新設・現場体験プログラムによる、1 日企業見学、短期集中型就業体験、課題解決型インターンシップ（数名グループ）を多様に展開し、実践的な就業意識の形成を図る。3 年生はこの上に立って、10 日間のインターンシップに参加し、主体的な職業選択意識と就職活動への意欲向上を目指す。

図表 3-6-1 進化するインターンシップ・新潟フォーラム

(^_^) 大学生のチャレンジ2014 (^o^)

参加して良かった！

進化するインターンシップ 新潟フォーラム

日時：平成27年3月4日（水）13：00～17：00
場所：MEDIA SHIP 新潟日報メディアシップ2階日報ホール
新潟市中央区万代3-1-1

共催校：新潟大学農学部、新潟工科大学、
新潟青陵大学、新潟青陵大学短期大学部

協力校：上越教育大学、長岡造形大学、長岡大学、新潟県立大学
新潟国際情報大学、敬和学園大学、新潟薬科大学

インターンシップを通して、学生の主体的な学びの力をつけることを目標として取り組んだ、学生の自己成長と成果を発表する、新潟フォーラムとして開催します。

～プログラム～

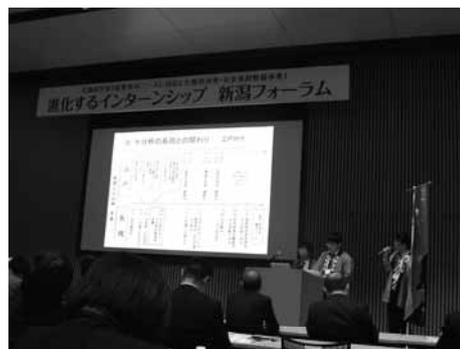
- 開会挨拶
- 学生発表

- ・新潟大学農学部 育てよう！子供たちの食育・花育の輪
- ・新潟青陵大学 地域商店街と考えるインターンシップ
- ・新潟工科大学 企業の課題に挑戦！～学内・学外実習～
- ・上越教育大学 「学校ボランティア」等の取組からの学び
- ・新潟県立大学 外国人観光客を呼び込む新たな観光戦略
- ・長岡造形大学 灯そうよ心一つに竹明り・みしま竹あかり街道
- ・長岡大学 十分杯で長岡を知らせよう！
- ・新潟国際情報大学 世界をもっと：地域連携による国際理解教育
- ・敬和学園大学 復興支援インターン@南三陸とその後のとりくみ

- 社会人先輩から インターンシップを体験して
- インターンシップの新しい試み
カフェテリアプランについて 関越地域大学グループ
- 講評 閉会挨拶

※終了後に会場を変えて学生交流会を予定しております。

権ゼミ／十分杯で長岡を知らせよう



7 学生起業人材の養成（産業活性化対応）－教育⑦－

（1）方針（申請時）

- ・従来の起業家塾（夏期集中、2単位）を基礎に、通年の長岡地域の学生起業家塾へと発展させ、長岡地域の学生起業家輩出の拠点形成をめざす。
- ・＜学生ベンチャーの長岡＞のイメージを定着させる。

（2）目標（申請時）

- ・平成26年度→通年の長岡地域の学生起業家塾を開講する。参加学生30名（従来25名）、「ビジネスグランプリ in 新潟」（学生部門=キャンパスベンチャー、にいがた産業創造機構ほか主催）優勝。
- ・平成29年度→長岡地域の学生起業家輩出の拠点形成をめざす。年間参加学生数100名、全国のビジネスプラン・コンテストに応募・入賞。

（3）平成25年度実績と評価

- ・8月19日～22日の4日間、「起業家塾」を開講。本学より9名、長岡工業高等専門学校より3名の計12名の学生が参加、4チームに分かれてビジネスプランを作成し、最終日にオリエンテーションおよび講評、審査・表彰を行った。そのうちの1チームが新潟県のキャンパスベンチャーに応募したが、受賞を逃した。また、別の1チームはトオコン（十日町ビジネスコンテスト、十日町市主催）に応募、県予選3位にとどまった。

（4）平成26年度方針・目標・予算

【方針】

- ・学生起業人材の養成・・・長岡地域の3大学1高専学生の参加拡大をめざし、夏季起業家塾のグレードアップを図るため、事前セミナー、夏季起業家塾の実施、さらにここでのビジネスプランのブラッシュアップによる新潟県等ビジネスプラン・コンテストへの応募（9月）、事後セミナー等による学生起業人材の養成を図る。

【目標】

- ・起業家塾等講座（ブラッシュアップ含む）参加学生数30名、起業家塾として6チーム（25人）程度の参加を目指す。ブラッシュアップによる県キャンパスベンチャー優勝、また事前事後セミナー等を経て、個人またはグループによる学生起業人材の創出を実現する。

（5）平成26年度計画

- ・次のスケジュールで進める。
 - a 6月に夏季起業家塾ポスターを作成し、3大学1高専での広報を開始する。
 - b 7月に参加学生を中心にした、事前セミナーを開催する（長岡大学）。
 - c 8月18日～21日（4日間）に、集中型の学生起業家塾を開講する。最終日にビジネスプランのプレゼンテーションを行い、外部有識者の審査員による審査・評価・表彰を行う。
 - d ビジネスプランのブラッシュアップを経て、「トオコン season 5（新潟県十日町市主催）」、「キャンパスベンチャーグランプリ（キャンパスベンチャーグランプリ東京実行委員会主

催)、「学生ビジネスプランコンテスト (一般財団法人学生サポートセンター主催)」に応募、優勝を目指す。

- e 次年度以降に向けて、3大学1高専でベンチャービジネスの学生グループ(部活またはサークル)結成を図り、創業・起業への日常的な活動拠点の創出を図る(事後セミナー開催)。

(6) 展開

- a **起業家塾参加学生の追加公募**・・・平成26年6月に3大学1高専(長岡大学、長岡技術科学大学、長岡造形大学、長岡工業高等専門学校)にポスターを掲示し、4月時点の履修登録の追加登録の形で起業家塾への参加学生の募集を開始した(図表3-7-1)。
- b **起業家塾事前セミナー**・・・次の通り、起業家塾事前セミナー・打合せを行った(図表3-7-2)。
 日時：平成26年7月16日14:40~16:10、於・226教室
 講師：長岡技術科学大学大学院博士後期課程(D3)
 株式会社ロレムイプサム代表取締役 薄田 達也氏
 講演：「起業って……若者の夢の実現だ！」
 起業家塾打合せ：「起業家塾の進め方について」 起業家塾担当教員：小松 俊樹
- c **起業家塾プログラム(8月18~21日)**・・・次の通り実施した。

・・

平成26年度長岡大学「起業家塾」プログラム

<第1日> 8月18日(月)	* 225教室
I 開講にあたって	
・ 起業家塾開講にあたって 担当教員：小松俊樹	9:30~ 9:40
・ 社会人基礎力事前評価	9:40~10:00
・ 起業家塾受講生の経験談 長岡大学4年生：石井恵夢	10:00~10:30
・ プログラムの進め方について 担当教員：小松俊樹	10:30~10:50
II プログラム展開	
1 チーム編成と役割検討	10:50~12:00
2 ビジネスプランとその作成方法	13:00~15:00
*特別講演・夢の実現をめざしてー創業とはー	15:10~16:10
マコー創業者/株式会社パルメソ社長 松原 亨氏	
<第2日> 8月19日(火)	* 225教室
3 アイディア出しの方法と作業	9:00~12:00
4 アイディア2案の中間発表と1案への絞り込み	13:00~16:10
*誰に(顧客)、何を(商品・サービス)、どのようにして提供するか (提供方法)の3つ(ビジネスモデル)を明確に	
<第3日> 8月20日(水)	* 225教室
5 絞り込み案のニーズ等調査	9:00~12:00
6 ビジネスプランのとりまとめ	13:00~16:10
<第4日> 8月21日(木)	
7 発表用ビジネスプランの作成(図解)	* 225教室

9:00～12:00

8 ビジネスプランの発表、講評、表彰、社会人基礎力事後評価

* 226 教室

13:00～16:30

* 審査委員・・・最後のビジネスプランは次の審査委員が審査し、表彰します。

株式会社パルメソ社長 松原 亨氏

長岡技術科学大学教授／テクノインキュベーションセンター長 田辺 郁男氏

産業デザイナー／長岡造形大学名誉教授 松丸 武氏

長岡大学長 内藤 敏樹

.....

d チーム編成・・・参加学生数が10名と少なかったため、次の4チームの編成で、ビジネスプランづくりを行った。

会社名	事業内容	役割	氏名	大学名	学年
株式会社タチカワコーポレーション	ノンアレルギー、ヘルシーをテーマにした地産地消の飲食ビジネス	社長	太刀川 健太朗	長岡大学	3年
		経理	狩谷 優貴	長岡大学	3年
		秘書	佐藤 知佳	長岡大学	3年
宮川カンパニー	着物をリメイクした服飾雑貨の企画販売事業	社長	高橋 良樹	長岡大学	3年
		経理	宮崎 由貴	長岡大学	3年
		受付	廣川 友香	長岡大学	3年
NPO法人ササキヌノカワ	マイナースポーツ専門ポータルサイトの運営	社長	布川 尊也	長岡大学	4年
		専務	佐々木 貴章	長岡大学	4年
御車 (ごーしゃ)	中国の中間層をターゲットにした高級中古車販売ビジネス	社長	侯 宋阳	長岡大学	4年
		専務	邵 花	長岡大学	3年

e プレゼン・表彰・・・各チームは図表3-7-3のようなビジネスプランを作成、最終日にプレゼンテーションを行った。厳正な審査の結果、次のような表彰を行った。

*最優秀賞 御車

地域貢献賞 株式会社タチカワコーポレーション

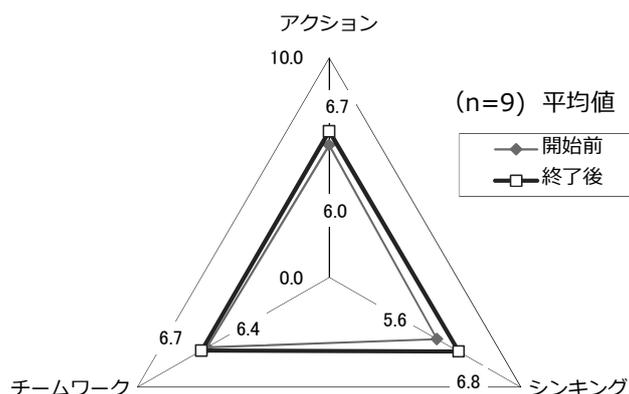
アイデア賞 宮川カンパニー

ロングテール賞 NPO 法人ササキヌノカワ

この審査結果は、＜御車＞が、中国国内の情報格差に着目した点が高く評価され最優秀賞を獲得した。他の、地域貢献賞、アイデア賞、ロングテール賞を受賞したビジネスプランも身近なテーマにヒントを得た地域活性化に資するものであった。

f 社会人基礎力の向上・・・4日間のビジネスプランづくりを終えて、社会人基礎力の自己評価点は3つの全てで、向上した。図表3-7-4をご覧ください。

図表 3-7-4 社会人基礎力の自己診断結果（開始前と終了後の比較）



- f コンテスト応募・・・これらビジネスプランのうち、株式会社タチカワコーポレーション（松本ゼミナールAとして）と宮川カンパニー（松本ゼミナールBとして）がビジネスプランのブラッシュアップ作業を行い（小松教授指導）、「トオコン season 5（新潟県十日町市主催）」に応募した。松本ゼミナールBが、新潟県予選3位となり本選に進んだが惜しくも受賞を逃した（本選4位）。



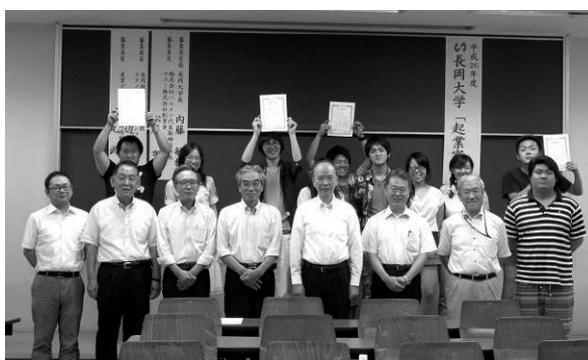
特別講演：松原 亨氏



担当教員：小松 俊樹



ビジネスプランの絞り込み



表彰後全体撮影

(7) まとめ―成果と課題―

まず第1に、起業家塾は長岡市内3大学1高専の学生が参加する開かれたビジネスプラン講座(3大学の単位互換科目)として毎年開講しているが、今年は長岡大学生のみ10名の参加にとどまった。参加学生数が前年を下回ったこと(前年は12名)、他の2大学だけでなく毎年参加いただいていた高専が不参加だったことは大いに反省しなければならない。ポスター等掲示時期を前倒しして、社会人基礎力の養成に役立ち就職力向上になること、夏期休暇の有効利用に繋がる等を広く長期に広報していく必要がある。

第2に、終了後の受講生アンケート調査の結果、起業家塾の自己評価は高く社会人基礎力3項目(アクション・シンキング・チームワーク)全てにおいて向上している。参加学生は就職活動等にこの経験を活かし、活躍していくことを期待したい。

第3に、新潟県のキャンパスベンチャー・コンテストが今年度より廃止になり、「トオコン season 5(新潟県十日町市主催)」へ前年同様応募したが受賞を逃し残念な結果となった。今後も応募を継続するとともに全国的なコンテストである「キャンパスベンチャーグランプリ(キャンパスベンチャーグランプリ東京実行委員会主催)」、「学生ビジネスプラン・コンテスト(一般財団法人学生サポートセンター主催)」にも挑戦し、受賞を目指すために画期的なビジネスアイデアを多数産出する工夫を考え、プレゼン能力を高める必要がある。

第4に、社会人の創業セミナー等(長岡地域起業家塾)との融合、長岡地域ベンチャーサークル(新潟県からの依頼もある)立ち上げ等で起業意識・風土を盛り上げて参加学生を拡大する必要がある。

新潟県「2014ビジネスグランプリin新潟(NB-1グランプリ)」に応募します!

就職活動に強い味方になる!

起業家塾

8/18(月)~21(木)4日間



8月集中授業追加募集

長岡地域の学生(大学・高専・高校)は
ふるって参加してください。

1	科目	起業家塾(2単位、単位互換科目)長岡大学226教室 *各日とも9時~17時
2	目標	起業家精神、社会人基礎力、人間力を養成します。
3	プログラム	数名で会社を立上げ(チーム編成)、ビジネスアイデア出しを行い、調査を踏まえてアイデアを絞り込み、ビジネスプランを作成し、発表します。 ※このプランをベースに「NB-1 グランプリ」に応募します。
4	特別講演	夢の実現をめざして—創業とは—マコー創業者/株式会社パルメソ社長 松原 亨氏 
5	講師陣	長岡大学教授/経営コンサルタント 小松俊樹、長岡大学教授 原田誠司
6	ビジネスプラン審査員	松原 亨氏 株式会社パルメソ社長 田辺 郁男氏 長岡技術科学大学教授 松丸 武氏 産業デザイナー/長岡造形大学名誉教授 内藤 敏樹 長岡大学長 

申込：7月25日(金)まで、教務学生課で受付中

事前セミナーを開催します!
起業家塾事前セミナー

長岡技大^{すずきだ}学生ベンチャー
薄田社長が大いに語ります!

7月16日(水)

14:40~16:10

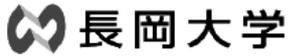
長岡大学224教室



【講演】起業って…—若者の夢の実現だ!—

長岡技術科学大学 大学院博士後期課程(D3)
株式会社ロレムイブサム代表取締役社長 薄田 達也 氏

【参加申込】長岡大学 教務学生課
TEL:0258-39-1600



「地(知)の拠点整備事業」(大学 COC 事業)
長岡地域〈創造人材〉養成プログラム



8/18~21 集中講義

起業家塾

履修希望の学生諸君へ！

担当教員：小松 俊樹

☆起業家塾の事前セミナー・打合せを次の通り行います。
集まってください。

7月16日(水) 14:40~16:10 長岡大学224教室

☆ 起業家塾事前セミナー

すすきだ たつや

薄田 達也 氏

長岡技術科学大学 大学院博士後期課程(D3)
株式会社ロレムイプサム代表取締役 社長

講演

起業って…

—若者の夢の実現だ！—



学生から起業した
現役大学院生が、
会社の作り方を教えます！

起業の苦労や充実感、同世代だからこそ聞ける、いろいろな迷い事…

この際だから何でも聞いてみよう！

☆ 起業家塾打合せ

—起業家塾の進め方について—

小松 俊樹 起業家塾担当教員



参加申込：長岡大学 教務学生課 TEL:0258-39-1600

図表3-7-3 各チームのビジネスプラン概要

事業名：米粉麵屋ひかり 会社名：株式会社タチカワコーポレーション		
社長	太刀川 健太朗(長岡大学3年)	
経理	狩谷 優貴(長岡大学3年)	
秘書	佐藤 知佳(長岡大学3年)	
<p>コンセプト：アレルギーに悩む全ての人へ…</p> <p>対象顧客：アレルギーを持つ人達とその家族・友人</p> <p>提供価値：皆が美味しく食べられ安全であること</p>		
事業名：Re:MONO～和ごころを現代に～ 会社名：宮川カンパニー		
社長	高橋 良樹(長岡大学3年)	
経理	宮崎 由貴(長岡大学3年)	
受付	廣川 友香(長岡大学3年)	
<p>コンセプト：伝統着物で着飾る日常を思い出とともに歩む</p> <p>対象顧客：メインは女性(思い出、和の心を大切にしたい人)</p> <p>提供価値：捨てられ、眠っているものに新たな命を吹き込む</p>		
事業名：マイナースポーツのポータルサイト 会社名：NPO 法人ササキヌノカワ		
社長	布川 尊也(長岡大学4年)	
専務	佐々木 貴章(長岡大学4年)	
<p>コンセプト：マイナースポーツのお困りごと解決業</p> <p>対象顧客：マイナースポーツ競技者、用品メーカー</p> <p>提供価値：マイナースポーツの情報、効果の高い宣伝活動</p>		
事業名：乗せる高級 会社名：御車(ごーしゃ)		
社長	侯 宋阳(長岡大学4年)	
専務	邵 花(長岡大学3年)	
<p>コンセプト：親民公務車(官僚達だけの車を民衆に格安で)</p> <p>対象顧客：年収30万円(約480万円)の世代</p> <p>提供価値：安心・安全、信頼感、高級感、安い、リサイクル</p>		

8 学生満足度調査等の実施—教育⑧—

(1) 方針（申請時）

- ・学生満足度調査を全学生対象に毎年1月に、実施する。報告は3月。
- ・但し、実施の前に、満足度調査に意義・位置づけ、調査項目の見直し・検討を行う（COCアンケート項目を付加）。FD/SD会議等で検討する。

(2) 目標（申請時）

- ・学生の大学生活に関する満足度等の調査を、毎年1月に実施し、次年度の教育改善等に役立てる。

(3) 平成25年度実績と評価

- ・平成26年1月に、ゼミを通じて、満足度調査（「第9回長岡大生の生活と大学についてのアンケート」）を実施した。回収率は85.8%（283人/330人）であった。
- ・アンケート集計結果は、平成26年3月に取りまとめ、公表した。
- ・この満足度調査については、当初、文部科学省のCOCアンケート項目を加える形で、実施する予定であったが、文部科学省からの調査項目が間に合わなかったため、平成25年度は、本学の調査項目のみで実施した。平成26年度は、両調査項目を統合して、実施することが望ましい。

(4) 平成26年度方針・目標・予算

【方針】

- ・学生満足度調査の実施・・・COC事業への評価も含めた学生満足度調査を全学生対象に行い（1月）、次年度への改善点を把握する。

【目標】

- ・調査結果をふまえた授業、学生生活、施設等さらに、COC事業の改善を行う。

(5) 平成26年度計画

平成26年度は、次のようなスケジュールで、アンケート調査を実施する。

8～10月	FD研究会等で学生満足度調査とCOCアンケートの調査項目の見直しを行い、新アンケート調査票を作成する。
12月	調査票印刷
1月	調査票配布、回収
2～3月	集計・分析・調査報告書作成
4月以降	諸改善点の集約と改善

(6) 展開

a 学生満足度調査

<経過>

8～10月・・・FD研究会で調査項目の見直し（学生が答えやすい形にフォームを変更）。

10月14日 第7回FD委員会で改定案作成(10/15再修正・10/29再々修正)

10月29日 教授会で学生満足度調査(「第10回長岡大生の生活と大学に関する調査」)の調査票が決定される

12月 調査票を印刷

1月5日～16日 各ゼミナール(1～4年生)で、調査票配布・回収を実施

1月26日 アンケート集計会社との打合せ(クロス集計等の方法・指標等決定)。調査票を引き渡し。

2～3月 集計・分析・調査報告書作成

<調査結果概要>

- ・アンケート調査票回収率・・・全学年：85.9% (250/291)。各学年→1年：83.5% (71/85)、2年：89.3% (50/56)、3年：88.5% (54/61)、4年：84.2% (75/89)。
- ・単純集計結果・・・図表3-8-1 (66頁)を参照されたい。

b 学生の能力測定テスト・PROGの実施

本COC事業採択の際の条件(別紙)である「課題解決・価値創造の目標と地域志向科目内容の整合性」を明確にする作業の一環として、学生の基礎能力測定テスト=PROGを実施することとした。

<経過>

- ・PROGとは・・・PROG=Progress Report on Generic Skills(ジェネリックスキル測定・育成ツール)は、学生の「リテラシー」と「コンピテンシー」を測定し、成長させるためのプログラムである。開発者は、河合塾とリクルートであり、前者がリテラシーを、後者がコンピテンシーのソフト開発を担当。実施会社は、株式会社リアセック。
- ・PROGの測定能力・・・<リテラシー>=情報収集力、情報分析力、課題発見力、構想力を測定、<コンピテンシー>=対課題基礎力(課題発見力、計画立案力、実践力)、対人基礎力(認知力、協働力、統率力)、對自己基礎力(感情制御力、自信創出力、行動持続力)
- ・テスト時間・・・リテラシーテスト(30問)は45分、コンピテンシーテスト(251問)は40分で、1コマ90分で実施。
- ・アウトプット・・・個人報告書、全体報告書が約2週間でできる。
- ・参考・・・2年間の実施実績→4大：165校、短大：20校。内訳：国立39校、公立17校、私立129校、学年比率：1年生62.8%、2年生13.7%、3年生19.4%。

<経過>

- ・PROGテスト実施・・・1～3年生に実施。1年生-キャリア開発Ⅰ(平成27年1月2日) -70名、2年生-ゼミナールⅡ(同2月3～4日) -51名、3年生-キャリア開発Ⅲ(同1月15日) -53名、計174名が受験した。
- ・集計・・・2月9日集計に送付、2月23日集計結果出来。
- ・結果説明会・・・3月11日(水)10:00～12:00、FD/SD研究会で結果説明を行った(教員・職員向け)。

<調査結果概要>

- ・リテラシーは、本学学生は私立大学全体平均と比べて、情報収集力、構想力、言語処理能力、

非言語処理能力が高いが、課題発見力がやや低い。学年別では、1年生が高い。

- ・コンピテンシーは、学年進行に対応して上昇しているが、対人基礎力、対自己基礎力、対課題基礎力ともに、私立大学全体平均とほぼ同じレベルであった。学年別では、3年生が高い。
- ・今後は、個人指導を行うとともに、AL（アクティブラーニング）の推進、地域志向科目の内容点検等（特定授業・プログラムへのPROGテストの導入）を行う。次年度もテストを継続し、能力向上状況を把握する。

（7）まとめー成果と課題ー

- ・学生満足度調査については、新調査票の作成、全学生に対する調査の実施、さらにはその集計の一連の作業を完遂できた。今後は、集計結果の詳細な分析と改善テーマの取りまとめを行い、具体的改善に結びつける必要がある。次年度も同調査を行う。
- ・基礎力測定テスト（PROGテスト）については、学生個人別特徴も含めて結果を出せたので、今後の活用②役立てることができる。今後は、結果を踏まえた個人指導、能力向上を可能にする地域志向科目の内容検討（特定授業・プログラムへのPROGテストの導入）、ALの全般的導入による個人の能力向上（リテラシー、コンピテンシー）をめざす必要がある。

図表 3-8-1 学生満足度調査結果（調査票と単純集計結果）

* 第 10 回学生満足度調査＝第 10 回長岡大生の生活と大学に関する調査

I 通学方法

(n=251)

問 1 長岡大学への通学に利用している交通手段全てに○を付けてください。

17.9	電車	36.3	バス	42.6	乗用車	31.9	自転車・バイク	40.2	徒歩	2.4	無回答
------	----	------	----	------	-----	------	---------	------	----	-----	-----

II 利用施設・情報収集について

(n=251)

問 2 長岡大学の施設（教室以外）でよく利用するところはどこですか。（各問 1 つに○）

	よく利用する	時々利用する	あまり利用しない	利用したことがない	無回答
a) 1階 事務室	20.7	60.6	16.3	1.2	1.2
b) 1階 就職支援室	8.8	25.1	33.5	30.7	2.0
c) 1階 図書館	20.7	35.9	35.1	7.6	0.8
d) 2階 掲示板	34.7	43.0	18.7	2.4	1.2
e) 2階 ホール・テーブル	35.1	27.5	29.9	6.0	1.6
f) 2階 売店	24.7	43.8	28.7	2.4	0.4
g) 3階 学友会室	5.6	7.6	20.3	64.9	1.6
h) 3階 ギャラリー	15.9	12.0	30.7	39.8	1.6
i) 3階 多目的室	7.6	14.7	41.0	35.5	1.2
j) 3階資格取得センター (COS)	9.6	26.7	30.7	31.5	1.6
k) 3階 地域連携研究センター	2.8	12.0	22.3	61.8	1.2
l) 4階 教員研究室	6.4	45.4	34.7	12.4	1.2
m) 2号館3階 コンピュータ自習室	21.9	42.6	22.3	12.0	1.2
n) 3号館 学生食堂	38.2	29.5	22.3	9.6	0.4
o) 3号館 地域交流ホール	1.6	8.4	36.7	51.0	2.4
p) 3号館 部室	10.8	14.3	21.1	52.2	1.6
q) 3号館 体育館アリーナ	13.9	19.5	27.9	37.5	1.2
r) 3号館 トレーニングルーム	4.8	11.2	16.7	66.1	1.2

(n=251)

問3 大学内での次の情報は主にどこで、集めていますか。問2のa～rの記号を記入してください。

(1つだけでなく、いくつ記入しても結構です)。

授業関係の情報	結果については下表参照
資格取得関係の情報	結果については下表参照
部活・サークル関係の情報	結果については下表参照
アルバイト関係の情報	結果については下表参照
友達関係の情報	結果については下表参照
就職・進学関係の情報	結果については下表参照

	1階 事務室	1階 就職支援室	1階 図書館	2階 掲示板	2階ホール・テーブル	2階 売店	3階 学友会室	3階 ギャラリー	3階 多目的室	3階 資格取得センター (COS)	3階 地域連携研究センター	4階 教員研究室	2号館 3階 コンピュータ自習室	3号館 学生食堂	3号館 地域交流ホール	3号館 部室	3号館 体育館アリーナ	3号館 トレーニングルーム	無回答
授業関係の情報	18.7	0.0	6.0	76.1	3.2	0.8	0.8	4.0	2.4	3.2	0.4	6.4	2.8	1.2	0.0	0.4	0.0	0.0	10.0
資格取得関係の情報	14.3	1.2	1.6	37.1	2.4	0.0	0.4	2.4	2.4	43.4	0.8	2.0	1.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	18.7
部活・サークル関係の情報	10.4	0.8	0.4	23.1	6.8	0.4	5.2	4.0	0.4	1.2	0.8	0.8	0.8	1.2	0.8	11.2	6.0	2.0	41.4
アルバイト関係の情報	11.2	0.8	0.8	43.0	4.0	0.0	0.0	2.4	0.8	0.4	0.0	1.2	0.4	0.4	0.0	0.8	0.4	0.0	41.8
友達関係の情報	4.0	0.8	2.0	10.8	24.3	2.4	5.2	10.8	4.0	1.6	0.0	2.4	0.0	9.6	0.4	6.0	2.0	0.4	41.4
就職・進学関係の情報	10.8	45.8	0.4	21.1	2.4	0.0	0.4	3.2	0.8	9.2	0.0	3.6	0.4	0.4	0.0	0.4	0.4	0.0	26.3

(n=251)

問4 長岡大学の施設に満足していますか。当てはまる番号1つに○を付けてください。

13.5 満足	62.9 まあ満足	17.1 やや不満	5.2 不満	1.2 無回答
---------	-----------	-----------	--------	---------

問5 大学の諸施設(問2参照)で更に充実、整備してほしいところがありましたら、ご記入ください。

自由記載設問のため割愛した。

Ⅲ 授業（学修）について

(n=251)

問6 次の主な科目群ごとに、どのように力を入れたか、当てはまる番号に○をつけてください。

また右欄に特に力を入れた科目があれば、その科目名（別紙参照）を記入してください。

	力を入れた	ある程度 力を入れた	あまり力を入 れなかった	全く力を入 れなかった	無回答	特に力を入れた科目
a) 教養科目	24.7	55.4	15.1	2.4	2.4	自由記載設問のため割愛した。
b) 語学科目	17.9	47.0	30.3	4.0	0.8	自由記載設問のため割愛した。
c) キャリア科目	12.4	48.6	30.3	5.2	3.6	自由記載設問のため割愛した。
d) 専門科目	30.3	54.6	12.4	1.6	1.2	自由記載設問のため割愛した。
e) ゼミナール	36.7	50.6	9.6	2.0	1.2	自由記載設問のため割愛した。

(n=251)

問7 情報系と専門系の資格取得について伺います。当てはまる番号に○をつけてください。ま

た、右欄に今学年で取得した資格があれば、資格名（別紙参照）を記入してください。

	力を入れた	ある程度 力を入れた	あまり力を入 れなかった	全く力を入 れなかった	無回答	今年度取得した資格
a) 情報系資格	13.5	23.9	29.5	29.1	4.0	自由記載設問のため割愛した。
b) 専門資格	10.8	18.7	31.5	32.3	6.8	自由記載設問のため割愛した。

(n=251)

問8 授業に対する態度、姿勢について、どのように取り組んだか、当てはまる番号に○をつけ

てください。また、右欄に特に努力したことがあれば、具体的に記入してください。

	当てはまる	ある程度 当てはまる	あまり当て はまらない	全く当ては まらない	無回答	特に努力したこと
a) 授業に欠席しない	26.3	46.2	21.5	6.0	0.0	自由記載設問のため割愛した。
b) 授業に遅刻しない	35.5	40.6	18.3	5.6	0.0	自由記載設問のため割愛した。
c) 授業で質問・発言する	3.6	27.1	46.2	23.1	0.0	自由記載設問のため割愛した。
d) 予習・復習する	4.4	34.3	42.6	18.7	0.0	自由記載設問のため割愛した。
e) 宿題等は必ず行う	28.7	47.8	20.3	3.2	0.0	自由記載設問のため割愛した。

(n=251)

問9 授業時間以外に学習した時間は1日どのくらいですか。当てはまる記号に○をつけてくだ
さい。

31.1	ほとんどしない	37.8	1時間未満	17.9	1.5時間程度	8.4	2時間程度
2.0	2.5時間程度	2.0	3時間以上	0.8	無回答		

IV 学生生活について

(n=251)

問 10 学友会の活動に参加していますか。当てはまる番号 1 つに○をつけてください。

9.2 積極的に参加	30.3 たまに参加	60.6 参加していない	0.0 無回答
------------	------------	--------------	---------

(n=251)

問 11 サークル・同好会に参加していますか。当てはまる番号 1 つに○をつけてください。

18.7 スポーツ系に参加	27.5 文化系に参加	14.7 スポーツ・文化系双方に参加
38.6 どちらも不参加	0.4 無回答	

(n=251)

問 12 主に参加しているサークル等の活動状況をどう評価していますか。当てはまる番号 1 つに○をつけてください。

25.5 自分もサークル全体も活発	11.6 自分は活発だが全体は不活発		
19.1 自分は不活発だが全体は活発	23.5 自分も全体も不活発	4.8 その他	15.5 無回答

(n=251)

問 13 学園祭（悠久祭、昨年 10 月開催）に参加しましたか。主たる参加形態 1 つに○をつけてください。

9.6 実行委員で参加	31.9 模擬店で参加	12.4 展示・イベント等で参加
2.8 ライブ実施で参加	7.2 見に来た（自分ひとり）	10.4 友人と見に来た
1.2 家族と見に来た	20.3 見に来なかった	2.8 その他
1.6 無回答		

(n=251)

問 14 アルバイトをしていますか。当てはまる番号 1 つに○をつけてください。

61.8 している → 問 15 へ	37.5 していない → 問 16 へ	0.8 無回答
--------------------	---------------------	---------

(n=155)

問 15 アルバイトをどの程度していますか。下欄に記入してください。

平均して大体、1 週間に（下表参照）日間、1 週間に約（下表参照）時間

1 週間当たりの平均日数	1 日	2 日	3 日	4 日	5 日	6 日	7 日	無回答
	3.2	11.6	21.3	36.8	20.6	3.9	0.0	2.6

1 週間当たりの総時間	5 時間未満	10 時間未満	15 時間未満	20 時間未満	25 時間未満	30 時間未満	30 時間以上	無回答
	5.8	9.7	12.3	20.0	27.7	12.9	9.7	1.9

V 大学在学中の目標について

(n=251)

問 16 長岡大学在学中の目標として重要だと思ふことを、1位から3位まで、下欄から選んで、回答欄に、その番号を記入してください。

1位	2位	3位	
51.0	15.1	11.6	将来の方向をみつける
13.5	18.7	12.7	広い教養・ものの見方等を身につける
6.8	17.5	13.1	専門的知識・理解を身につける
8.8	9.6	20.3	社会人になるまでの時間を楽しむ
8.4	19.9	18.3	資格等を取得し、仕事に活かせる能力を身につける
6.8	15.5	17.5	有意義な友達（人間関係）を創る
2.0	0.8	2.8	その他
2.8	2.8	3.6	無回答

VI 大学生活における心配事等について

(n=251)

問 17 現在の長岡大学における学生生活のなかで、心配事や悩みがありますか。下欄の心配事等から当てはまる番号を選んで○をつけてください（いくつでも結構です）。

18.3 生活に熱意がわからない	30.3 やりたいことが見つからない	9.2 友達のことでの悩みがある
3.6 先生のことでの悩みがある	22.3 授業に興味・関心がわからない	9.2 授業についていけない
29.5 進級や卒業ができるか心配だ	2.0 他の学科に移りたい	5.2 他大学・学校に入り直したい
3.2 大学を辞めたい	8.4 経済的に勉強するのが難しい	12.0 まわりの学生がやる気がない
7.2 就職活動がうまく行かない	6.8 進学先が決められない	4.8 その他
19.9 無回答		

VII 社会人基礎力等、大学で身につけた能力等について

(n=251)

問 18 あなたの人間性（基本的な生活習慣）を自己評価し、当てはまる番号に○をつけてください

	十分ある	まあ十分ある	やや不十分 と思う	不十分と思う	無回答
a) 倫理（道德観） （善悪の判断、思いやり、公共心）	32.3	60.2	6.4	0.8	0.4
b) 自己管理 （約束・ルールを守る、責任感あり）	23.1	49.8	20.7	6.0	0.4
c) 誠実さ （物事に誠実に取り組む、素直な態度）	29.5	53.0	14.7	2.4	0.4
d) マナー （あいさつ、服装、礼儀、話し方等）	32.3	51.8	14.7	0.4	0.8
e) 明るさ （明るくふるまってコミュニケーション）	26.3	46.6	20.3	6.4	0.4
f) 健康 （心身ともに健康）	31.9	43.0	19.1	5.6	0.4

(n=251)

問 19 社会人基礎力（職場・地域社会で活躍する上で必要な能力）が入学時と比べて①どの程度伸びたか、各能力が②どの程度身についたかを自己評価し、当てはまる番号に○をつけて教えてください。

	①どの程度伸びたか					②どの程度身についたか				
	伸びた	ある程度伸びた	あまり伸びていない	伸びていない	無回答	十分身についた	ある程度身についた	あまり身につけていない	身につけていない	無回答
a) 主体性 (物事に進んで取組む力。積極性)	14.7	52.2	27.9	3.2	2.0	8.0	60.2	24.3	3.6	4.0
b) 働きかけ力 (他人に働きかけ巻き込む力。リーダーシップ)	10.4	40.2	38.6	8.8	2.0	8.8	42.6	35.1	9.6	4.0
c) 実行力 (目的を設定し確実に行動する力)	11.2	51.8	30.7	3.2	3.2	8.4	51.8	30.7	4.0	5.2
d) 課題発見力 (現状を分析し目的や課題を明らかにする力)	9.2	46.6	39.0	3.2	2.0	8.8	48.6	34.7	3.6	4.4
e) 計画力 (課題解決の過程を明示し準備する力。組み立て力)	8.8	48.6	35.1	5.6	2.0	9.6	49.4	30.3	6.8	4.0
f) 創造力 (新しい価値を生み出す力)	8.0	46.6	35.9	8.0	1.6	6.4	47.8	33.9	7.6	4.4
g) 柔軟性 (意見や立場の違いを理解する力。相手の立場理解)	15.9	55.0	25.5	1.2	2.4	14.3	58.6	19.5	3.2	4.4
h) 状況把握力 (自分と関係者の関係を理解する力)	18.3	58.2	19.5	2.4	1.6	15.9	56.6	20.3	2.4	4.8
i) 規律性 (社会のルールや約束を守る力)	22.3	55.8	17.5	2.8	1.6	21.1	57.0	15.5	2.0	4.4
j) ストレスコントロール力 (ストレス発生源に対応する力。忍耐強さ)	23.5	45.8	21.5	7.6	1.6	23.1	46.2	21.1	5.6	4.0
k) 発信力 (自分の意見をわかりやすく伝える力)	5.2	47.8	37.5	7.6	2.0	5.2	47.4	33.9	9.6	4.0
l) 傾聴力 (相手の意見を丁寧に聴く力)	19.9	55.0	20.7	2.8	1.6	18.3	57.0	17.5	2.4	4.8

(n=251)

問 20 専門的知識等につき、問 19 と同様の方法で、教えてください。

	①どの程度伸びたか					②どの程度身についたか				
	伸びた	ある程度伸びた	あまり伸びていない	伸びていない	無回答	十分身についた	まあ十分身についた	あまり身につけていない	身につけていない	無回答
a) 情報処理の力	13.5	50.2	31.1	4.0	1.2	10.0	60.6	23.9	3.6	2.0
b) 専門分野の知識・理解 (専門分野の資格取得含む)	12.7	50.2	30.3	5.6	1.2	8.0	53.0	30.7	5.6	2.8
c) 幅広い知識やものの見方 (幅広い教養知識等の獲得)	10.8	53.4	31.9	2.0	2.0	8.8	59.4	25.9	3.2	2.8
d) レポート・論文等を書く力 (レポート、論文の書き方等)	15.1	51.4	27.9	4.8	0.8	8.0	52.2	33.1	4.8	2.0
e) 外国語の力 (英語、中国語、韓国語、日本語)	7.6	34.7	39.4	17.5	0.8	6.0	31.5	42.6	17.5	2.4
f) 職業・キャリア形成に関する知識・ノウハウ・スキル	8.0	48.2	36.3	6.8	0.8	5.6	46.6	39.0	6.8	2.0

Ⅷ 建学の精神、教育目的及び満足度等評価について

(n=251)

問 21 長岡大学の建学の精神について知っていますか。1つ○を付けてください。

☆ 幅広い職業人としての人づくりと実学実践教育の推進

☆ 地域社会に貢献し得る人材の育成

55.4 知っている	43.0 知らない	1.6 無回答
------------	-----------	---------

(n=251)

問 22 長岡大学は、教育目的として、＜学生に、充実感、達成感、満足感を＞を掲げています。

授業、学生生活、能力形成等総合的に判断して、①現状評価、②上昇程度（前年度と比べて）を評価し、当てはまる番号に○を付けてください。但し、1年生は、現状評価で答えてください。

	①現状評価					②上昇程度（2～4年生のみ）				
	十分	まあ十分	やや不十分	不十分	無回答	上昇	ある程度上昇	あまり上昇していない	上昇していない	無回答
a) 授業、学生生活等を有意義に過ごせているか	16.7	57.0	17.5	7.2	1.6	16.0	50.3	23.4	7.4	2.9
b) 資格取得、サークル活動等の目標達成など	12.4	43.8	31.1	10.8	2.0	17.7	40.6	30.3	8.6	2.9
c) 授業内容や、能力向上に満足しているか	10.8	50.6	28.7	8.4	1.6	11.4	44.0	34.9	6.9	2.9

XI 最後に、学生の皆さんのことについて、お答えください。それぞれ、1つ〇をつけてください。

(n=251)

(1) あなた自身について

a) 性別	74.5 男性	25.1 女性	0.4 無回答		
b) 学年	25.9 1年生	19.5 2年生	20.7 3年生	29.5 4年生	4.4 無回答
c) 出身高校等の学科	65.3 普通科	5.6 商業科	2.0 工業科	2.0 農業科	
	8.8 総合学科	4.0 定時制・単位制・通信制		7.6 その他	4.8 無回答
d) 出身地	78.5 新潟県内	2.4 新潟県外	13.9 中国	1.2 モンゴル	
	0.4 その他	3.6 無回答			
e) 現在の住まい	55.0 自宅	40.6 自宅外	4.4 無回答		
f) 現在の健康状態	45.4 良好	34.3 やや良好	13.1 やや不良	3.2 不良	4.0 無回答
g) 現在の体力	17.5 自信あり	34.7 やや自信あり	29.1 やや自信なし	14.7 自信なし	4.0 無回答

(n=251)

(2) 長岡大学に入学したことについて、どう思っていますか。

21.5 良かった	54.2 まあ良かった	13.5 やや後悔している	6.4 後悔している	4.4 無回答
-----------	-------------	---------------	------------	---------

(n=251)

(3) あなたは、「長岡大学の学生」であることに、誇りを持っていますか。

12.0 持っている	38.2 やや持っている	32.7 あまり持っていない	13.1 持っていない	4.0 無回答
------------	--------------	----------------	-------------	---------

(n=74)

(4) 4年生のみお答えください。

A 就職が決まった方は、就職に満足していますか。

36.5 満足	32.4 やや満足	14.9 やや不満	6.8 不満	9.5 無回答
---------	-----------	-----------	--------	---------

(n=74)

B 全ての4年生に伺います。4年間の大学生活をどう評価しますか。

28.4 満足	45.9 やや満足	18.9 やや不満	5.4 不満	1.4 無回答
---------	-----------	-----------	--------	---------

※質問はこれで終了です。ご協力感謝いたします。集計後、結果を報告します。

IV <研究>における事業展開

9 研究成果の地域への還元（創造人材調査研究／3課題対応）－研究①－

（1）方針（申請時）

- ・3課題に対応した調査研究を行い、その成果を提言、報告書、シンポジウム等の形で、地域に還元する。
- ・地域課題に対応した調査研究として、「長岡地域産業競争力に関する調査研究（平成25年度）、「長岡地域<創造人材>の調査研究」（平成26年度）、「少子高齢化・人口減少の影響に関する調査研究」（平成27年度）、「ボランティア活動に関する調査研究」（平成28年度）を実施し、その成果を公開シンポジウムで公表して社会に還元するとともに、提言を行う。
- ・また、地域課題研究会を開催し、その成果を講演会・公開シンポジウム等の形で、社会還元を行う。

（2）目標（申請時）

- ・上記4研究を着実に実施し、シンポジウム等で社会還元を行う。

（3）平成25年度実績と評価

- ・平成25年度は、「新潟・長岡地域産業（製造業等）競争力に関する調査研究」を実施した。県内製造業企業820社にアンケート調査を実施し（平成25年9月）、平成25年11月22日に公開シンポジウムを開催し（約100名参加）、地域産業の競争力向上の提案を行った。
- ・調査結果は一定に、参考になるものであった。

（4）平成26年度方針・目標・予算

【方針】

- ・長岡地域<創造人材>調査研究の実施・・・新潟県内企業等（約1,500社）と個人（本学卒業生約1,000人）に、必要人材ニーズアンケートを実施し（6～7月）、その成果発表シンポジウムを開催し（11月）、その議論・ヒアリング含めて、提言を行い、報告書をまとめる。

【目標】

- ・調査研究を実施し、平成26年11月に公開シンポジウムを開催し地域還元するとともに、年度末に報告書を取りまとめる。また、<創業人材>育成のための「人材育成の課題とプログラム」の提言を行う。

（5）平成26年度計画

- ・次のスケジュールで<創造人材>調査研究を進める。
 - a 6月に、アンケート調査票の最終設計と印刷を行う。
 - b 7月～8月に、企業と個人のアンケート調査を実施する。
 - c 9～10月に、アンケート集計と結果のとりまとめを行う。
 - d 11月に、創造人材シンポジウムを開催する（11/21、於・ニューオータニ長岡）。
 - e 12～1月に、ヒアリング等を行い、補充調査を行う。
 - f 3月に、調査研究報告書を作成する。

(6) 展開

a 創造人材調査研究の実施

- ・目的・・・3つの地域課題の1つの「産業活性化」課題に応える調査研究として、「新潟・長岡地域における＜創造人材＞に関する研究」を設定し、その成果（現状把握、政策提言等）を地域に還元し、産業活性化に資すること。
*平成25年度は「新潟・長岡地域における産業競争力の現状と強化の方向」をまとめた。内容は、長岡大学『地域連携研究』創刊号を参照されたい。
- ・方法・・・アンケート調査→集計・中間報告→ヒアリング等調査→報告書作成・発表の順で進めた。
- ・本調査研究での創造人材の概念・・・「創造的な仕事を行う人」を指すが、職業分類的には、技術者・芸術家等の諸専門家を指す。だが、実際の事業等で成果をあげる人材は、「専門知識・ノウハウ等」だけでなく「コンピーテンシー（行動特性・資質）」が優れている人であることが実証済み。つまり、知識等を活用して「創造的に仕事ができる人」＝＜創造人材＞である。本調査では、「創造的に仕事ができる人」の能力、つまり、主として、コンピーテンシー（行動特性・資質）分野の能力について検討した。
- ・アンケート設計・・・本アンケート調査では、企業内の諸業務や新事業開発に必要な＜創造人材＞、人材育成の方策・課題、人材育成方策、新事業開発方策・人材等を調査した。アンケート調査は、県内企業と本学卒業生を対象に行ったが、企業向け調査票は、図表3-9-2を参照されたい。
- ・アンケート結果概要・・・次のとおり。①調査対象－新潟・県央・長岡・上越地域の全業種2007社（従業者数20名以上）および長岡大学卒業生790名、②調査期間－平成26年7月28日～8月18日、③調査方法－調査票の郵送配布、郵送回収（FAX、メール含む）、④回収率－企業＝有効回収数154社、回収率7.7%、個人＝有効回収数109人、回収率13.8%。
- ・アンケート概要・・・アンケート結果の内容は、別途公表するが、アンケートのポイントである「成果をあげるのに必要だと思う能力・資質（上位10位）」は、図表4-9-1の通りである。

b シンポジウム開催による結果の公開

上記の創造人材調査結果の報告を中心に、次のシンポジウムを開催し、創造人材の育成の方向について議論した。シンポジウム案内は、図表4-9-3を参照。参加者は約100名で、盛況であった。内容は、平成27年11月刊行予定の『地域連携研究年報』第2号（地域連携研究センター刊）に掲載予定である。

- ・名称 2014長岡大学地域連携研究センターシンポジウム
- ・テーマ 企業競争力を支える＜創造人材＞の育成へ！－創造人材調査を中心にして－
- ・時期 平成26年11月21日（金）14:30～17:00 *14:00～受付開始
- ・会場 ホテルニューオータニ長岡 桜の間 *参加費 無料
- ・主催 長岡大学地域連携研究センター
後援 長岡市、長岡商工会議所、財団法人にいがた産業創造機構、NPO法人長岡産業活性化協会NAZE
- ・次第 総合司会：長岡大学教授 村山 光博
ごあいさつ 長岡大学長／地域連携研究センター所長 内藤 敏樹

第1部 基調報告 新潟・長岡地域における創造人材の現状と育成の方向

長岡大学教授／副学長 原田 誠司

第2部 パネルディスカッション

テーマ：企業競争力を支える〈創造人材〉の育成へ！

パネリスト	株式会社パルメソ 代表取締役社長	松原 亨 氏
	株式会社山忠 代表取締役社長	中林 功一 氏
	岩塚製菓株式会社 代表取締役社長	槇 春夫 氏
	新潟大学経済学部准教授	岸 保行 氏
	長岡大学教授	小松 俊樹
コーディネーター	長岡大学副学長	原田 誠司

(7) まとめ—成果と課題—

まず、今回の〈創造人材〉をテーマにした調査研究は、人材が重要だとの意識はあるにもかかわらず、〈創造人材〉ということになると、企業経営者の意識は必ずしも高くないという印象があった。とくに、新事業開発を推進する人材という点は、非常に不十分という状況であると思われる。これとは対照的に、アメリカ企業では最大の重点が置かれている（例えば、グーグル等）。企業競争力を高めるためには、まさに、〈創造人材〉をどう確保するかがポイントであり、今後、この点への問題提起を強める必要がある。

第2に、本学の社会人向け講座（イノベーション人材養成講座等）の組立てと講師陣の充実をこの調査結果を踏まえて、具体化する必要があること。この点は、従来から意識されていたが、今回の調査結果を踏まえて、再検討が必要となった。次年度に具体化したい。

第3に、創造人材の養成という点では、さらに具体化して、とくに後継経営者、起業家の養成へと進む必要がある。とくに、地方創生が施策となる次年度は、その具体化をはかり、地方の中小企業の競争力強化に資する必要がある。



図表4-9-1 成果をあげるのに必要だと思う能力・資質（上位10位まで）

能力・資質等要素	業務分野・人材									
	1リーダー	2総務	3企画	4開発	5製造	6販売	7物流	8サービス	9海外	10若手
A 指導力等の要素										
1 経営哲学・信念	64.6	37	35							
2 ビジョン・構想	54.1		23.8							
3 先を読む力	43.4		42.9	37.1					18.2	
4 決断力	61.1									
5 説得力・働きかけ力										
6 実行力	24.8		19		16.9					
7 リスク対応力	12.4	28.3							22.7	
8 交渉力						44.1		18.2		
9 主体性・率先垂範										
10 人脈・ネットワーク	20.4					24.3			31.8	
11 チャレンジ精神			14.3	33.9					22.7	38.9
12 ()										
B 事業推進力等の要素										
13 問題を発見する力	12.4	26.5	22.6		26		15.9	25		
14 マーケティング力			39.3	27.4		41.8			18.2	
15 目標・仮説設定力				22.6						
16 情報収集・分析力		30.1	48.8	43.5		39.6		29.6		
17 創造力			33.3	61.3						
18 課題を解決する力				27.4	28.6		22.7	31.8		
19 企画・計画力			65.5	25.8						
20 専門知識・ノウハウ		35.4		43.5	42.9	20.9		34.1	22.7	
21 思考法等専門技法										
22 英語等外国語力									63.6	
23 ()										
C 組織運営力等の要素										
24 組織・チームの統率力	48.7									
25 組織の管理力		41.6			16.9					
26 業務の段取り力		22.1			55.8		52.3	18.2		
27 協調性					33.8		15.9			51.6
28 柔軟な対応力		22.1		21		34.1	25	38.6		17.9
29 状況把握力							29.5	22.7		
30 ストレスコントロール力										
31 プレゼンテーション力			19			25.3				
32 しっかりした職業観										25.3
33 ()										
D 基本態度										
34 責任感	29.2	26.5			45.5		65.9	22.7	27.3	42.1
35 誠実・正直		33.6			29.9	22	43.2	27.3		57.9
36 規律性(約束遵守)		26.5			32.5		56.8			47.4
37 コミュニケーション(発信)力						28.6			22.7	33.7
38 コミュニケーション(傾聴)力						28.6				33.7
39 体力							40.9			24.2
40 ()										
回答数	113	113	84	62	77	91	44	44	22	95
無回答数	41	41	70	92	77	63	110	110	132	59
回収総数	154	154	154	154	154	154	154	154	154	154
回答率	73.4%	73.4%	54.5%	40.3%	50.0%	59.1%	28.6%	28.6%	14.3%	61.7%

図表 4-9-2 新潟・長岡地域における創造人材に関する基礎調査票

新潟・長岡地域における創造人材に関する基礎調査

平成 26 年 7 月 長岡大学地域連携研究センター

I 今後、貴社が好業績をあげるために、＜必要とされる能力・資質を持った人材＞について伺います。下表は、企業の業務分野（表頭ヨコの 10 分野）と、必要とされる能力・資質を持った人材（表側のタテの 40 の能力・資質要素）を組み合わせたものです。業務ごとに、成果をあげるのに重要だと思う能力・資質を 5 つ選んで、業務（タテ）と能力・資質等（ヨコ）の交点欄に○をつけてください。但し、貴社にとって不要・不在の業務・人は除いてください（例：小売業では「5 製造」は不要。若手がない場合は回答不要）。

★下表の各業務分野は次のような業務を担う人材を想定しています。

1 リーダー＝経営者・各事業等のリーダー、2 総務＝財務・人事・事務一般等、3 企画＝事業全般の新展開の企画・構想、4 開発＝新製品・商品の開発、5 製造＝製造等のいわゆる現場、6 販売＝商品等の販売・営業、7 物流＝商品等の輸送・運搬、8 サービス＝情報・サービス一般、9 海外＝輸出入・海外立地等、10 若手＝学卒入社後 5 年程度までの若手従業員。

★（ ）内には、追加能力等があればご記入ください。

能力・資質等要素	業務分野・人材									
	1リーダー	2総務	3企画	4開発	5製造	6販売	7物流	8サービス	9海外	10若手
A 指導力等の要素										
1 経営哲学・信念										
2 ビジョン・構想										
3 先を読む力										
4 決断力										
5 説得力・働きかけ力										
6 実行力										
7 リスク対応力										
8 交渉力										
9 主体性・率先垂範										
10 人脈・ネットワーク										
11 チャレンジ精神										
12 ()										
B 事業推進力等の要素										
13 問題を発見する力										
14 マーケティング力										
15 目標・仮説設定力										
16 情報収集・分析力										
17 創造力										
18 課題を解決する力										
19 企画・計画力										
20 専門知識・ノウハウ										
21 思考法等専門技法										
22 英語等外国語力										
23 ()										
C 組織運営力等の要素										
24 組織・チームの統率力										
25 組織の管理力										
26 業務の段取り力										
27 協調性										
28 柔軟な対応力										
29 状況把握力										
30 ストレスコントロール力										
31 プレゼンテーション力										
32 しっかりした職業観										
33 ()										
D 基本態度										
34 責任感										
35 誠実・正直										
36 規律性(約束遵守)										
37 コミュニケーション(発信)力										
38 コミュニケーション(傾聴)力										
39 体力										
40 ()										

Ⅱ 上記「Ⅰ」のご回答について、お伺いします。

1 ご回答の各業務における人材は現在、充足していますか。下欄の充足状況(①～④)ごとに、下欄＝「Ⅰ」の表の10の業務分野でご回答いただいた番号を記入してください。

- ① 十分 ()、② 適正 ()
 ② やや不足 ()、④ 不足 ()

1 リーダー 2 総務 3 企画 4 開発 5 製造 6 販売 7 物流 8 サービス 9 海外
 10 若手

2 ご回答の各業務の人材の過不足にかかわらず、今後、どんな能力・資質を有する人材を強化・充実させたいとお考えですか。業務ごとに、「Ⅰ」の表の能力・資質の番号を下欄の()内に記入してください。

1 リーダー ()、2 総務 ()、3 企画 ()、4 開発 ()
 5 製造 ()、6 販売 ()、7 物流 ()、8 サービス ()
 9 海外 ()、10 若手 ()

3 上記の「2」とは逆に、ネットワーク(産学連携、企業間連携等)を活用して、充足させた方が効率的であるとお考えの能力・資質がありますか。業務ごとに、「Ⅰ」の表の能力・資質の番号を下欄の()内に記入してください。

1 リーダー ()、2 総務 ()、3 企画 ()、4 開発 ()
 5 製造 ()、6 販売 ()、7 物流 ()、8 サービス ()
 9 海外 ()、10 若手 ()

4 ご回答いただいた各業務(Ⅰの表)を担う人材の能力向上の方策について、伺います。

(1) 通常業務におけるOJTによる能力向上は全ての業務で行っていると思いますが、「外部専門家招聘による現場指導」のようなOJTはどの業務で行っていますか。下欄からいくつでも選んで、○をつけてください。

1 リーダー 2 総務 3 企画 4 開発 5 製造 6 販売 7 物流 8 サービス 9 海外
 10 若手 11 実施していない

(2) 自己啓発・研鑽による能力向上への支援のうち、①外部の専門講座等への参加・受講、②専門書籍等の購入、③専門資格等の取得、について、主としてどの業務部門で行っていますか。下の①～③の()内に下欄の業務の番号を記入してください。

- ① 外部の専門講座等への参加・受講 ()
 ② 専門書籍等の購入 ()
 ③ 専門資格等の取得 ()

1 リーダー 2 総務 3 企画 4 開発 5 製造 6 販売 7 物流 8 サービス 9 海外
 10 若手 11 実施していない

(3) OFF-JTによる能力向上への支援のうち、①会社の計画的研修、②外部研修等機関への計画的派遣、③専門資格等の取得、④大学の講座・授業の受講、について、主としてどの業務部門で行っていますか。下の①～④の()内に下欄の業務の番号を記入してください。

- ① 会社の計画的研修 ()
 ② 外部研修等機関への計画的派遣 ()
 ③ 専門資格等の取得 ()
 ④ 大学の講座・授業の受講 ()

1 リーダー 2 総務 3 企画 4 開発 5 製造 6 販売 7 物流 8 サービス 9 海外
 10 若手 11 実施していない

Ⅲ 次に、新規事業開発について（上記Ⅰの表では「17 創造力」の分野等）、より詳しく伺います。

1 貴社では、新規事業開発をどのような方法で行っていますか。下欄から、いくつでも選んで、番号を回答欄に記入してください。

1 社内組織・チーム（臨時）で取組む	2 社内組織チーム（常設）で取組む
3 社内組織・チームに外部専門家（経営コンサル等）を加えて取組む	
4 社内組織・チームと他企業・大学等と連携して取組む（オープンイノベーション）	
5 その他（ ）	6 特別な対応はしていない

2 貴社では、新事業開発の際の事業アイデアはどのような方法で抽出していますか。下欄から、いくつでも選んで、番号に○をつけてください。

1 社員個人からアイデアを募集する	2 社内各組織からアイデアを募集する
3 研究開発／新事業開発部門の社内技術をベースにしたアイデアを募集する	
4 競合他社等市場情報からヒント・アイデアを得る（講演会等）	
5 技術・製品等予測等の情報からヒント・アイデアを得る（研修・講演会等）	
5 その他（ ）	6 特別な対応はしていない

3 アイデアを集約し新事業開発を担う、まさに創造人材はどのような能力・資質が必要とお考えですか。民間シンクタンク（野村総合研究所）の調査から、イノベーション人材の能力・資質として、下の表に示す7つの能力・資質が提起されました。貴社では、この7つの能力・資質について、同意できる力を選んで、番号に○をつけてください。いくつでも結構です。

＜イノベーション人材の7つの能力・資質＞

1 おかしいと思う力	既存の組織・仕組み等に疑問をいだき改善・解決の行動を起こす力
2 気づく力	物事を観察することでアイデアや気づきを得る力
3 関連づける力	自分の専門分野以外のアイデア等を組み合わせる課題解決策を見つける力
4 人とつながる力	自分以外の多様な部門等の人々から情報・アイデアをもらう力
5 捨てる力	本質を明確にするため枝葉末節を捨象する力
6 試す力	構想だけでなく試作を行う力
7 挑戦する力	成功めざして、失敗の可能性があっても実行する力

4 新事業開発を担う人材として、上記「3」の7つの力を持つ人材の有無について伺います。7つの力を持つ人材のうち、貴社内で、①充足している力、と、②不足している力、の番号を上記「3」の表から選んで、①、②の（ ）内に記入してください。

① 充足している力（ ） 、② 不足している力（ ）

5 こうしたイノベーション人材＝創造人材をどのような方法で育成していますか。下欄から、いくつでも選んで、番号に○をつけてください。

1 OJT（開発チームで従事）で鍛える	
2 アイデア発想思考法等の専門技法を外部研修等で身につける	
3 先行事例等を調査研究し「模倣」から新事業開発の手法を身につける	
4 異業種の企業・機関等の事業開発等に参加し、新しい発想法等を身につける	
5 その他（ ）	6 特別な対応はしていない

Ⅳ 企業人材の能力向上に対する自治体の支援策について、伺います。該当する番号に○をつけてください。（ ）内にはご提案があれば、ご記入ください。

1 長岡市の人材育成支援（長岡市米百俵財団研修助成制度）の一層の充実を図る	
2 長岡市の事例を参考に、県・自治体が人材育成支援策を創設すべきである	
3 その他（ ）	4 特に必要はない

V <自由記入欄>企業等における創造人材育成について、自治体、大学等への要望等がありましたら、下欄にご自由に記入してください。

--

VI 最後になりましたが、貴社の概要（次の項目）について、下欄にご記入ください。

業種は、下の業種（大分類）欄から当てはまる番号を選んで記入してください。

貴社名		代表者氏名	
従業者数		業種	
所在地	〒		
本票記入者氏名		ご連絡先電話番号	

*業種（大分類）

1 農林漁業 2 建設業 3 製造業 4 電気・ガス・熱供給・水道業 5 情報通信業 6 運輸業 7 卸・小売業 8 金融・保険業 9 不動産業 10 飲食業・宿泊業 11 医療・福祉業 12 教育・学習支援業 13 サービス業 14 公務 15 その他（ ）
--

★当アンケートの集計結果が必要な方はどちらかに○をつけてください→< 1 必要 2 不要 >

*以上で、このアンケート調査は終了です。感謝申し上げます。
記入済み回答用紙を、返信用封筒に入れてご返送ください。

図表4-9-3 シンポジウム案内



学校法人 中越学園
長岡大学

「地(知)の拠点整備事業」(大学COC事業)
長岡地域〈創造人材〉養成プログラム



文部科学省
地(知)の拠点

2014長岡大学地域連携研究センターシンポジウム

企業競争力を支える〈創造人材〉の育成へ!

— 創造人材調査を中心に —

長岡大学の「長岡地域〈創造人材〉養成プログラム」が平成25年度文部科学省「地(知)の拠点整備事業」(大学COC事業)に採択され、昨年このCOC事業の一環として、〈グローバル競争に勝つ産業競争力形成へ!〉のテーマでシンポジウムを開催しました。

今年度は、引き続きCOC事業として、「企業競争力を支える〈創造人材〉の育成へ!」をテーマにシンポジウムを開催します。シンポジウムでは、8月に実施した「新潟・長岡地域における創造人材に関する基礎調査」の結果を報告し、これをベースに、アンケートにお答えいただいた企業経営者の方々を中心にして、下記の通り、企業競争力を支える〈創造人材〉の現状と今後の育成方向について、討論したいと思います。

アンケートにご回答いただいた皆様には感謝いたします。多くの皆様の参加をお待ちしております。

長岡大学地域連携研究センター

日時 平成26年 11月21日(金) 14:30~17:00(14:00~受付開始)

会場 ホテルニューオータニ長岡 桜の間 **定員** 100名程度(先着順)

〈第1部〉 基調報告 **新潟・長岡地域における創造人材の現状と育成の方向**
長岡大学副学長 原田 誠司

〈第2部〉 パネルディスカッション **企業競争力を支える〈創造人材〉の育成へ!**

パネリスト 松原 亨氏 株式会社バルメソ 代表取締役社長
中林 功一氏 株式会社山忠 代表取締役社長
榎 春夫氏 岩塚製菓株式会社 代表取締役社長
岸 保行氏 新潟大学経済学部准教授
小松 俊樹 長岡大学教授/経営コンサルタント
コーディネーター 原田 誠司 長岡大学副学長

■主催:長岡大学地域連携研究センター
■後援:長岡市・長岡商工会議所・公益財団法人にいがた産業創造機構
NPO法人長岡産業活性化協会NAZE

参加費無料



〈申込方法〉

電話・FAX・e-mail・ホームページでお申込下さい。
FAXでのお申込の場合は、このチラシの下欄に記入し、下記のFAX番号に送信してください。

FAX:0258-39-9566

申込締切:平成26年11月18日(火)

〈お問い合わせ・申込先〉

長岡大学地域連携研究センター 担当:山田・南雲
〒940-0828 長岡市御山町80-8

TEL:0258-39-1600(代)

<http://www.nagaokauniv.ac.jp>

e-mail:chiken@nagaokauniv.ac.jp

氏名		所属・会社等	
住所・連絡先	〒		
電話番号		FAX	

※ご登録いただいた個人情報は、本学規定に従って厳正に管理します。

10 地域との共同研究（地域志向教育研究／3課題対応）－研究②－

（1）方針（申請時）

- ・上記の4地域課題研究以外に、地域志向教育研究（毎年5～6名教員参加）を推進する。

（2）目標（目標）

- ・平成25年度の教員の地域志向教育研究は5件、参加教員5名程度とする。テーマは、自治体環境報告書分析、中小企業承継計画、公共施設の老朽対策など。
- ・平成29年度は、年間6件、参加教員10名程度の地域志向教育研究をめざす。

（3）平成25年度実績と評価

- ・「地域志向教育研究の手引」を作成し、10月から、5名（件）の申請を公募した（対象教員＝常勤教員、1件当たり50万円、予算総額は2,500千円）。
- ・平成25年10月30日に、次の5名（件）を地域志向教育研究経費として選考した。経費総額は、5件、1,760千円（予算は2,500千円）。
 - a 「長岡市区域公共施設ビンテージのGISを活用したデータ分析」内藤敏樹、104千円
 - b 「新潟県の中小・地域金融機関による持続可能な社会の形成に向けた金融行動の現状を探索するための予備調査」西俣先子、404千円
 - c 「地域企業の経営発展と成長および企業者活動についての研究－北越紀州製紙のケース－」松本和明、300千円
 - d 「中越地域の企業系譜と産業系譜作り」権 五景、452千円
 - e 「『ながおかバル街』による中心市街地・店舗活性化の研究」中村大輔、500千円
- ・3月に成果報告を受けたが、時間不足で、中間とりまとめのレベルにとどまった。次年度も継続して、成果をとりまとめる必要がある。

（4）平成26年度方針・目標・予算

【方針】

- ・地域志向教育研究の実施・・・前年度作成の実施要領により、本学常勤教員への公募を早期に実施し（5月）、5件程度を採択する。中間発表（10月）を経て、3月に成果報告書作成と成果発表を行う。

【目標】

- ・平成25年度の調査研究を継続して、成果をとりまとめるとともに、平成26年度新規教員の申請を促進し、前年度を上回る調査研究結果（件数、内容ともに）をめざす。
- ・成果発表の方法（発表会、報告書の刊行の仕方）を検討する（例えば、地域研究ブックレットの刊行など）。

（5）平成26年度計画

- ・5月に、平成26年度の地域志向教育研究経費の公募を行う。公募結果は、図表4-10-1の通り。
申請総額が予算総額を上回るが、抑制的支出に心がけ（前期）、後期に、調整を行う。

- ・ 6月に、平成26年度の地域志向教育研究経費の選考を行う。
- ・ 10月に、同上調査研究の中間報告会を開催し、中間点検を行う。
- ・ 2月に、とりまとめ状況の検討会議を開催し、成果発表の仕方等につき、最終的結論をうる。
- ・ 3月に、研究報告をとりまとめる。

(6) 展開

a 平成26年度の地域志向教育研究の選考

平成26年度の地域志向教育研究について、平成26年5月7日に公募を開始した（締切：5月末）。その結果、8件・人の応募があった（図表4-10-1）。6月17日の推進本部会議で検討の結果、申請経費（約330万円）の抑制的支出を心がけ、予算枠（約250万円）に収めることを条件に、全申請プロジェクトを採択した（6月26日付けで通知）。

図表4-10-1 平成26年度地域志向教育研究経費一覧

教員名	研究課題	予算額（円）
西俣 先子	新潟県の中小・地域金融機関による持続可能な社会の形成に向けた金融行動の現状と問題点を探るための調査。（継続）	497,000
内藤 敏樹	長岡市区域公共施設ビンテージのGISを活用したデータの分析（継続）	268,928
松本 和明	地域企業の経営発展と成長および企業者活動についての研究（継続）	320,000
中村 大輔	「ながおかバル街」による中心市街地・店舗活性化の研究（継続）	298,000
権 五景	中越地域製造業の企業系譜と技術系譜作り（継続）	493,500
米山 宗久	「買い物支援」を中心とした住民ネットワーク構築の必要性	500,000
橋長 真紀子	産官学連携の消費者市民教育の実施による大学生の社会参画意識の変容の検証	500,000
児嶋 俊郎	新潟における戦争の記憶	433,400
	合 計	3,310,828

b 平成25年度地域志向教育研究成果発表会

平成25年度の地域志向教育研究は5件採択されたが、半年間の短い取組期間であったため、年度内に成果発表会を開催することができなかった。そこで、平成25年度の成果発表会を次の要領で開催した。参加者は地域有識者3名、本学教職員（発表者含む）21名、計24名であった。

- ・ 名称 平成25年度＜地域志向教育研究＞成果発表会
- ・ 日時 平成26年9月24日(水) 13:00～15:00
- ・ 会場 長岡大学第4会議室（1号館4F）
- ・ 次第 総合司会：地域連携研究センター調査研究部会長 村山光博
★進め方・・・1課題につき発表10分間、質疑応答10分間

☆はじめにー地域志向教育研究についてー	原田誠司
☆中越地域の企業系譜と産業系譜作り	権 五景
☆長岡市区域公共施設ビンテージの GIS を活用したデータの分析	内藤敏樹
☆「ながおかバル街」による中心市街地・店舗活性化の研究	中村大輔
☆新潟県の中小・地域金融機関による持続可能な社会の形成に向けた金融行動の現状を探るための予備調査	西俣先子
☆地域企業の経営発展と成長および企業者活動についての研究	松本和明

c 平成 26 年度地域志向教育研究成果発表会

平成 26 年度の調査研究成果発表会を次の要領で開催した。参加者は、地域有識者 7 名、本学教職員 25 名、計 32 名であった。

- ・名称 平成 26 年度<地域志向教育研究>成果発表会
- ・日時 平成 27 年 2 月 25 日(水) 13:30~17:15
- ・会場 長岡大学 2 3 1 講義室 (2 号館 3 階)
- ・次第 総合司会：地域連携研究センター調査研究部会長 村山光博
★進め方・・・1 課題につき発表 14 分間、質疑応答 10 分間

☆はじめにー地域志向教育研究についてー	原田誠司
☆中越地域製造業の企業系譜と技術系譜作り	権 五景
☆新潟における戦争の記憶	兒嶋俊郎
☆長岡市区域公共施設ビンテージの GIS を活用したデータ分析	内藤敏樹
☆「ながおかバル街」による中心市街地・店舗活性化の研究	中村大輔
☆新潟県の中小・地域金融機関による持続可能な社会の形成に向けた金融行動の現状と問題点を 探るための調査	西俣先子
☆産官学連携の消費者市民教育の実施による大学生の社会参画意識の変容の検証	橋長真紀子
☆地域企業の経営発展と成長および企業者活動についての研究	松本和明
☆「買い物支援」を中心とした住民ネットワーク構築の必要性	米山宗久

d 地域志向教育研究報告書の刊行

平成 26 年度（一部は平成 25 年度も含む）の地域志向教育研究を次のような形で刊行し、地域への情報提供や地域での議論に役立てていただくこととした。

- ・名称：『長岡大学 地域志向教育研究ブックレット』（→ISSN登録予定）
- ・書式：1 段組み 51 文字×44 行 20 ページ程度
- ・発行部数：各課題 200 部程度
- ・編集・発行：長岡大学地域連携研究センター
- ・刊行日：平成 27 年 3 月末
- ・掲載論文：次の 5 本

松本和明：地域企業の経営発展と成長および企業者活動についての研究
米山宗久：「買い物支援」を中心とした住民ネットワーク構築の必要性

中村大輔：「ながおかバル街」による中心市街地・店舗活性化の研究

西俣先子：新潟県の中小・地域金融機関による持続可能な社会の形成に向けた金融行動の現状と問題点を探るための調査

橋長真紀子：産官学連携の消費者市民教育の実施による大学生の社会参画意識の変容の検証

(7) まとめ—成果と課題—

まず、平成26年度の取組件数が8件・人になり、前年度から増加したことは、この教育研究の趣旨（地域志向の教員の拡大）からして、望ましい成果であった。次年度はさらに拡大を目指したい。

第2に、平成26年度の成果をブックレットとして5件・人が原稿化し、刊行できたことは、成果を地域に提供・公開する上で、大きな貢献となる。テーマにより短期で成果をあげられるケースとそうでないケースがあるので、一概には言えないが、今後も、極力、年度内成果の刊行を心がけたい。

第3に、テーマについては、申請教員の関心に任せていたが、今後は、より地域で解決が望まれる課題について、取り組む方法を検討する必要がある。それにより、地域の産官学連携をさらに促進することに貢献できる。



1 1 研究成果の地域への還元（平成 27 年度準備／3 課題対応）－研究③－

（1）方針（申請時）

- ・平成 27 年度実施予定の「少子高齢化・人口減少に関する調査研究」の準備作業を行う。

（2）目標（申請時）

- ・研究会等により、アンケート票作成等次年度に入り、調査が可能となるような事前準備を行う。

（3）平成 25 年度実績と評価

- ・講演「長岡市の地域課題について」（長岡市市長政策室政策企画課課長補佐 上村健史氏）により、地域課題の認識を深めた（平成 25 年 10 月 30 日実施）。

（4）平成 26 年度方針・目標・予算

【方針】

- ・平成 27 年度の「少子高齢化・人口減少に関する調査研究」の準備作業・・・9 月から平成 27 年度実施予定の少子高齢化・人口減少に関する調査研究の準備を開始する（人口問題研究会設立）。

【目標】

- ①本格的な調査研究に向けて、調査研究の成果を上げるため、市役所等との密接な連携のもと、「長岡大学COC 人口問題研究会」を立ち上げる。具体的メンバーとして、本学学長・副学長・教職員に加え、長岡市職員（企画担当および旧市町村の支部職員）、長岡商工会議所、ホクギン経済研究所を想定している。
- ②調査研究の内容は、「地区別人口の将来推計、人口減少による影響把握、人口減少抑制策および地域活性化策（交流人口を含む）」である。そのために、今年度の調査研究活動としては、以下のものを検討する。
 - ・人口推計における地区（市全域全域、旧市町村、町丁目など）の決定。
 - ・人口減少による影響把握の方法（文献調査、予測モデルの構築、アンケート調査、ヒアリング調査など）の検討と具体的調査研究の設計。
 - ・人口減少抑制策および地域活性化策の把握方法（文献調査、アンケート調査、ヒアリング調査など）の検討と具体的調査研究の設計。

（5）平成 26 年度計画

- 9 月 「長岡大学COC 人口問題研究会」設立の準備作業
- 10 月 「長岡大学COC 人口問題研究会」設立
- 11 月 人口推計における地区の決定。
- 12 月～1 月 人口減少による影響把握の方法の検討と具体的調査研究の設計。
- 1 月～2 月 人口減少抑制策および地域活性化策の把握方法の検討と具体的調査研究の設計。
- 3 月 今年度活動の整理と次年度活動の計画

(6) 展開

a 長岡地域人口問題研究会の設立

平成 27 年度の人口問題の調査研究の準備を行うため、長岡地域人口問題研究会を設立した。研究会委員は次のとおりである。◎印＝責任者

・学外有識者委員

(敬称略)

所属	職名	氏名
市長政策室政策企画課	課長	中村 英樹
市長政策室政策企画課	係長	鈴木 武明
市長政策室政策企画課	主査	林 智和
長岡商工会議所	営業サービス課主幹	石橋 明弘
株式会社ホクギン経済研究所	副所長	宗田 俊弥

・学内委員

学長	内藤 敏樹
教授	原田 誠司
◎ 教授	鯉江 康正
教授	村山 光博
准教授	米山 宗久
講師	牧野 智一
事務局長	品川 十英

b 研究会の開催

長岡地域人口問題研究会は、次の 4 回、開催した。毎回約 2 時間の検討を行った。

- ・平成 26 年 11 月 11 日（火）第 1 回、12 月 24 日（水）第 2 回、
平成 27 年 2 月 4 日（水）第 3 回、3 月 4 日（水）第 4 回。

(7) まとめ—成果と課題

人口問題研究会を 4 回開催し、平成 26 年度の目標としていた項目について、次のように決定することができた。

- ① 人口推計における地区は、県内市町村及び長岡市の 11 地域（合併前の旧市町村）を対象とする。
- ② 人口減少による影響把握および地域活性化策としては、個別研究として、平成 27 年度に以下のテーマで研究を進める。
 - ・人口減少による地域経済への影響分析
 - ・大学・専門学校卒業後の就職意識に関する調査
 - ・子育て世代の地域居住に対する意識調査
- ③ 人口減少抑制策および地域活性化策の把握方法の検討と、具体的調査研究の設計をした。
平成 27 年度はアンケート調査をすることとし、調査項目を検討しまとめる。

- a. アンケート対象は、全国の市町村（平成 26 年 1 月 1 日現在 1742 市町村）を前提として調査を進める。
- b. 人口動向については、人口変動要因である自然増減、社会動態別に把握していく。
- c. 人口減少対策としては、部門別に把握する方法もあるが、実質的な対策の効果を把握するために、人口変動要因別実施されている対策と効果を調査する。なお、各市で進められている人口減少対策データは収集済みのため、それをもとにアンケートの選択肢を作成する。
- d. 人口対策が進んでいる地域へのヒアリング調査も検討する。

V <社会貢献>における事業展開

1 2 高齢化・人口減社会における地域活性化の推進（3課題対応）－社会貢献①－

（1）方針（申請時）

- ・高齢化・人口減少社会における地域・コミュニティの衰退状況の防止、再生のため、①まず本学所在の悠久山地区の活性化、②市内他地域（越路、山古志、栃尾等）の活性化にむけた貢献活動に取り組む。
- ・方法－上記研究成果の具体化の上に立ち、市活性化組織や他地域との連携・ネットワーク形成を追求する。

（2）目標（申請時）

- ・平成 25 年度→地域活性化の取組を「地域活性化研究会」を立ち上げて検討し、取組方針（本学の教育、大学の役割）を策定する。
- ・平成 29 年度→悠久山地区、東山地区での活性化の取組成果を確認できるレベルまで進める。また、中山間地（山古志、栃尾地区等）も含めて市内地区の活性化ネットワークづくりのめどをつける。

（3）平成 25 年度実績と評価

- ・実績－地域元気フォーラム（2月、100名参加）、悠久山・東山フォーラム（3月、70名参加）を開催し、次年度以降の地域活性化に向けた重要な一歩となった。長岡地域の地域活性化やボランティア活動の諸計画の取りまとめもできた。
- ・評価－悠久山・東山フォーラムなどで地域住民（団体）との連携が可能になり、次年度の地域活性化の方向が見えてきた。

（4）平成 26 年度方針・目標・予算

【方針】

- ・地域活性化の推進・・・悠久山・東山地区フォーラム（3月）の成果を踏まえて、悠久山・東山地区マップ作成、同交流セミナー、同第2回フォーラム、マップ等報告リーフレット作成（地区住民全世帯に配布）等を実施し、活性化の端緒を拓く。

【目標】

悠久山・東山地区の調査や取りまとめを住民と学生がともに作り上げることで、地域活性化の活動の拡大へ土壌を形成する。

- ・悠久山・東山地区マップづくりのためのくらし現状調査を行う・・・学生、住民共同
- ・栖吉子ども地元学講座を開催する・・・こども・保護者 25 名、学生 5 名、地域住民 5 名程度
- ・悠久山・東山地区フォーラム・・・学生 20 名、子ども 20 名、一般参加者 50 名程度
- ・悠久山・東山地区マップを作成し地域に配布する（栖吉地区に全戸配布）・・・学生、住民共同

（5）平成 26 年度計画

悠久山・東山地区を学生、住民共同で調べ、まとめること（マップづくり）で、地域を深く知

るとともに、広域に情報発信することにより、域内外の交流の活発化を図る。

a 悠久山地域のくらし現状調査（米山ゼミ）

交流会（お茶の間：コミュニティセンター主催）への参加などを通して信頼関係を築く。さらにヒアリングやアンケート調査を行って高齢者のくらしの実態を把握して、今後の支援策の検討資料とする。

→ヒアリングとアンケート・・・学生による調査（6月～7月）

b 栖吉子ども地元学の開催

地域おこしの手法である「地元学」を使い、あるもの探しを実施する。悠久山地域にある栖吉小学校とコミュニティセンターや子ども会などと連携する。

→地元小学生と学生によるあるもの調査（7月）

c 悠久山・東山フォーラムの開催

子どもも楽しめる内容の講演と栖吉子ども地元学の成果発表を行い、地域住民を中心に広く市民に向けて発信する。

→調査結果などを発表、子どもの意見を含めた将来のイメージづくり（8月）

→提案の実施方法を検討（2月）

d MAP等作成、配布による共有（栖吉地区に全戸配布）

調査結果をまとめて住民に周知する。

→東山・悠久山地域のMAPを作成する（11月）

（6）展開

a 悠久山地域のくらし現状調査（米山ゼミ）

交流会（お茶の間：コミュニティセンター主催）への参加などを通して、地域との信頼関係を深める。さらにヒアリングやアンケート調査を行って高齢者のくらしの実態を把握して、今後の支援策の検討資料とした。

・お茶の間（栖吉コミュニティセンター）

日時：平成26年	5月13日	健康寿命を延ばすお話と体操	ゼミ生13名
	6月10日	リハビリ講話「ひざ痛」	ゼミ生 2名
	7月 8日	ヤクルト健康教室	ゼミ生 2名
	9月 9日	栄養士「栄養について」	ゼミ生 2名
	10月14日	リハビリ講話「肩こり」	ゼミ生 2名
	11月11日	肩こり軽減の軽体操	ゼミ生 2名
	12月 9日	軽体操と忘年会	ゼミ生 3名

各回とも、栖吉地区在住の高齢者の方々（20名）と一緒にこれらのプログラムを行った。

・高齢者買い物ヒアリング

また、栖吉地区内には大型小売店がないため、普段どのように買い物をしているかを、4回（平成26年6月12日、13日、7月8日、11月22日）、高齢者の買い物に同行して実態を把握した。

その上に立って、栖吉地区の高齢者のみの世帯（110世帯）を対象に買い物に関するアンケートを民生委員児童委員（11名）の協力のもと実施した。

*実施日－平成26年9月26日～10月27日、回収率－94.5%（104人/110人）、回答者性別－男性28名、女性71名、無回答5名

b マップ制作のための事前ヒアリング

MAP作成用の基礎調査のため、白地図を使ってヒアリングを実施した。

- ・日時：7月15日
- ・会場：長岡大学 資格取得支援センター
- ・参加者：中村弘宣、水澤美徳、桑原幸子、山田満智子、脇田妙子
合計5名

この話し合いの中から、バスツアーの重要ポイントを探った。事象、思い出、史跡、自然、遊歩道などを白地図上にポストイットを使って印をつけていく作業をした。また、長岡大学東山MAP制作委員会として活動する合意を得た。

c 栖吉・東山地区バスツアー

栖吉や東山地区の魅力を再発見するために、地域住民と学生と一緒にバスで区内を、次のように散策・調査を行った。

- ・日時：平成26年7月30日・31日の2日間 両日とも午前中
- ・参加者：1日目ー長岡大学学生16名・地域住民3名・教職員3名。
2日目ー長岡大学学生14名・地域住民4名・教職員4名。
- ・地域：1日目の悠久山・東山周辺は、実際に悠久山を歩き、自然の豊かさを体感した。2日目は栖吉地区の商店街の位置・様子の把握をし、写真を撮りながら周った。跡地には実際にバスから降りて、歩いたり石碑に触れたりして調査をした。このツアーで、地域の宝物をたくさん見つけた。

d 東山・悠久山地域マップの作成

バスツアーの調査結果をまとめて地域に配布し、認識を深めてもらうため、長岡市と連携して次のように「東山・悠久山地域MAP」を作成した。

- ・栖吉地区住民との事前打ち合わせ・・・日時：平成26年7月15日、
於・長岡大学資格取得支援センター、参加者：地域住民3名・職員2名
- ・マップづくり・・・日時：平成26年9月26日・10月25日、
於・長岡大学多目的室、食堂
参加者：1回目ー地域住民3名・ゼミ生5名・教職員4名、2回目ー地域住民6名・ゼミ生6名・教職員3名。7月のバスツアーの成果をベースに、東山地区・悠久山公園・栖吉地区エリアの3つに分かれてマップづくりを行った。地域の皆さんにも参



加していただき、地図に加えたい所、自慢したい所、注意してほしい所などのご意見をいただきました。

e 第2回悠久山・東山フォーラムの開催

第2回悠久山・東山フォーラムを次の通り、開催した。

・名称：第2回悠久山・東山フォーラム

日時：平成27年3月7日 13:00～16:00

会場：長岡大学地域交流ホール。＊図表5-1 2-1を参照されたい。

参加者は、栖吉地区住民・長岡大学生ほか60名。盛況であった。



第2回 悠久山・東山フォーラム「悠久山・東山マップの完成報告」

司会・進行 長岡大学准教授 米山 宗久

開会のご挨拶 長岡大学 学長 内藤 敏樹

ご挨拶 長岡市市長政策室政策企画課 課長 中村 英樹氏

☆悠久山・東山マップの完成について コーディネーター 脇田 妙子

☆基調講演「令終会と地域資源の活かし方」
公益社団法人 平成令終会 雪国植物園 園長 大原 久治氏

☆話題提供 「東山地域の花々」 長岡大学東山MAP制作委員会 水沢 美徳氏

☆活動報告「栖吉地域の高齢者の買い物動向」 長岡大学米山ゼミ学生

☆パネルディスカッション 「地区の魅力をどう活かすか」
<パネリスト> 長岡市市長政策室政策企画課 課長 中村 英樹氏
雪国植物園 園長 大原 久治氏
長岡大学東山MAP制作委員会 水沢 美徳氏
同 古屋 信司氏
同 桑原 幸子氏
NPO 法人ながおか生活情報交流ネット 理事長 桑原 眞二氏

長岡大学環境経済学科4年(米山ゼミ) 酒井 直也
<コーディネーター> コーディネーター 脇田 妙子
☆閉会のご挨拶 長岡大学 事務局長 品川 十英

f 成果物—MAP (3部)

上記の地域マップとして、「栖吉おもひでMAP」、「悠久山おもひでMAP」、「東山自然体験マップ」の3つのマップを作成した。これらのマップは長岡大学東山MAP制作委員会が調査したものを基本に制作された。

・「栖吉おもひでMAP」・・・5,000部作成

・「悠久山おもひでMAP」・・・10,000部作成

暮らしを中心にマッピングを行ったことで、栖吉についての話題が家庭内で行われると考える。こうした家族の話し合いが行われることで地域のDNAが受け継がれていくので、その機会をこのマップで作っていく。また、悠久山おもひでMAPは観光用としても使用可能であるものの、既存の観光MAPとは一線を画し、多方向から悠久山をより深く楽しむものとなっている。活用

方法については、「栖吉おもひでMAP」と「悠久山おもひでMAP」は地域町内会・コミュニティセンターにお願いして全戸配布（各2,500部程度）を行うとともに、小中学校や市民諸施設・観光施設等に幅広く配布する。

・「東山自然体験マップ」（長岡造形大生がデザイン）・・・10,000部作成

これまで東山の全域を網羅したマップが存在しなかったため、子どもたちに親しみやすい絵柄で「行きたくなる」ものを作った。「東山自然体験マップ」については、長岡市が中心になって、東山地域にある既存施設、市内全域の小学校・公共施設に配布する。

h 地域交流会（クリスマス会）

地域との交流を深める地域交流会（クリスマス会）を次のように開催した。

- ・地域交流会・・・日時：平成26年12月13日10:00～12:00、於・長岡大学学生ホール。
参加者は栖吉地区住民・長岡大学生ほか約70名。学生による音楽ステージ、野菜や米、和紙の販売を行った。また、案内チラシは学生サークルに作成を依頼し、栖吉地区内の回覧や児童館への広報活動を行った。

（7）まとめー成果と課題ー

まず、当初の目標である栖吉・東山地区の調査とそれに基づく地域マップづくりを完遂することができたことは、高く評価できる。地図作りに積極的に参加していただいた住民の方々には、足元にあるモノを見つめ直す意義を感じていただけた。「住んでいても気づかなかった」という言葉が何度も聞かれ、発見があったと推測する。これは地域住民といい意味でのよそ者が一緒にひとつのものを見て、共に考えることで生み出されるものであり、この積み重ねが地域への愛着を醸成し、次世代へ継承していくと考える。また、この経験をそれぞれの立場からの発表で、実際にマップ作りに参加しなかった住民と共有することで住民としての地域をみつめる視点を作り出した。こうして制作されたマップが地域だけでなく全市的に配布され、当該地域の認知度が高まり、来場者が増加すればさらに喜ばしい。そうなることを期待したい。

第2に、長岡大学が「地域」とつながる機会は少なかったと言える。しかし今回、地域住民と大学生とが協働して事業を行うことで、長岡大学を身近に感じてもらうきっかけになった。また昨年度から2回にわたるフォーラムは、長岡大学に足を踏み入れる機会にもなり、実際にまちの駅として利用する住民も出てきた。こうした地道な関係づくりを進めることで、地域に根差した大学のイメージを作り上げることができていくと考える。今後、この方向を地域活性化の多様な事業展開を工夫して、地道に継続し、拡大していく必要がある。

第3に、本学の課題としては、学生の恒常的な地域活性化を担う組織（ボランティアサークルなど）づくりに成果を上げられるよう努力することが挙げられる。単位取得と同時に終了という状況を解消していく必要がある。

図表5-12-1 第2回悠久山・東山フォーラムの案内



学校法人 中越学園
長岡大学

「地(知)の拠点整備事業」(大学COC事業)
長岡地域<創造人材>養成プログラム



文部科学省
地(知)の拠点

第2回 悠久山・東山フォーラム

悠久山・東山マップの完成報告

学生が栖吉地区の方々と一緒に悠久山・東山を回りマップを作成しました。

日時 平成27年**3月7日** 田
13:00~16:30

会場 長岡大学 地域交流ホール

定員 **50名**
(先着順)

**参加費
無料**




■主催 長岡大学地域連携研究センター
■後援 長岡市、長岡商工会議所

お申し込み方法

電話・FAXでお申込下さい。FAXでのお申込の場合は、このチラシの下欄に記入し、下記のFAX番号に送信して下さい。
(お問合せ・お申込先)
長岡大学地域連携研究センター:担当 山田

FAX:0258-39-9566
TEL:0258-39-1600(代)
E-mail:chiken@nagaokauniv.ac.jp 〒940-0828 長岡市御山町80-8

次 第

進行……………長岡大学准教授 米山 宗久

- 開会のご挨拶……………長岡大学長 内藤 敏樹
- ご挨拶……………長岡市市長政策室政策企画課課長 中村 英樹氏
- 悠久山・東山マップの完成について……………コーディネーター 脇田 妙子

第1部

- 基調講演 「令終会と地域資源の活かし方」……………公益社団法人平成令終会 雪国植物園園長 大原 久治氏
- 話題提供 「東山地域の花々」……………長岡大学東山MAP制作委員会 水沢 美徳氏
- 活動報告 「栖吉地域の高齢者の買い物動向」……………長岡大学米山ゼミ学生

第2部

- パネルディスカッション 「地区の魅力をどう活かすか」……………<パネリスト> 長岡市市長政策室政策企画課課長 中村 英樹氏……………公益社団法人平成令終会雪国植物園園長 大原 久治氏……………長岡大学東山MAP制作委員会 水沢 美徳氏……………同 古屋 信司氏……………同 桑原 幸子氏……………神谷区長 白井 湛氏……………長岡大学環境経済学科4年 酒井 直也 (米山ゼミ)……………<コーディネーター> コーディネーター 脇田 妙子
- 閉会のご挨拶……………長岡大学事務局長 品川 十英

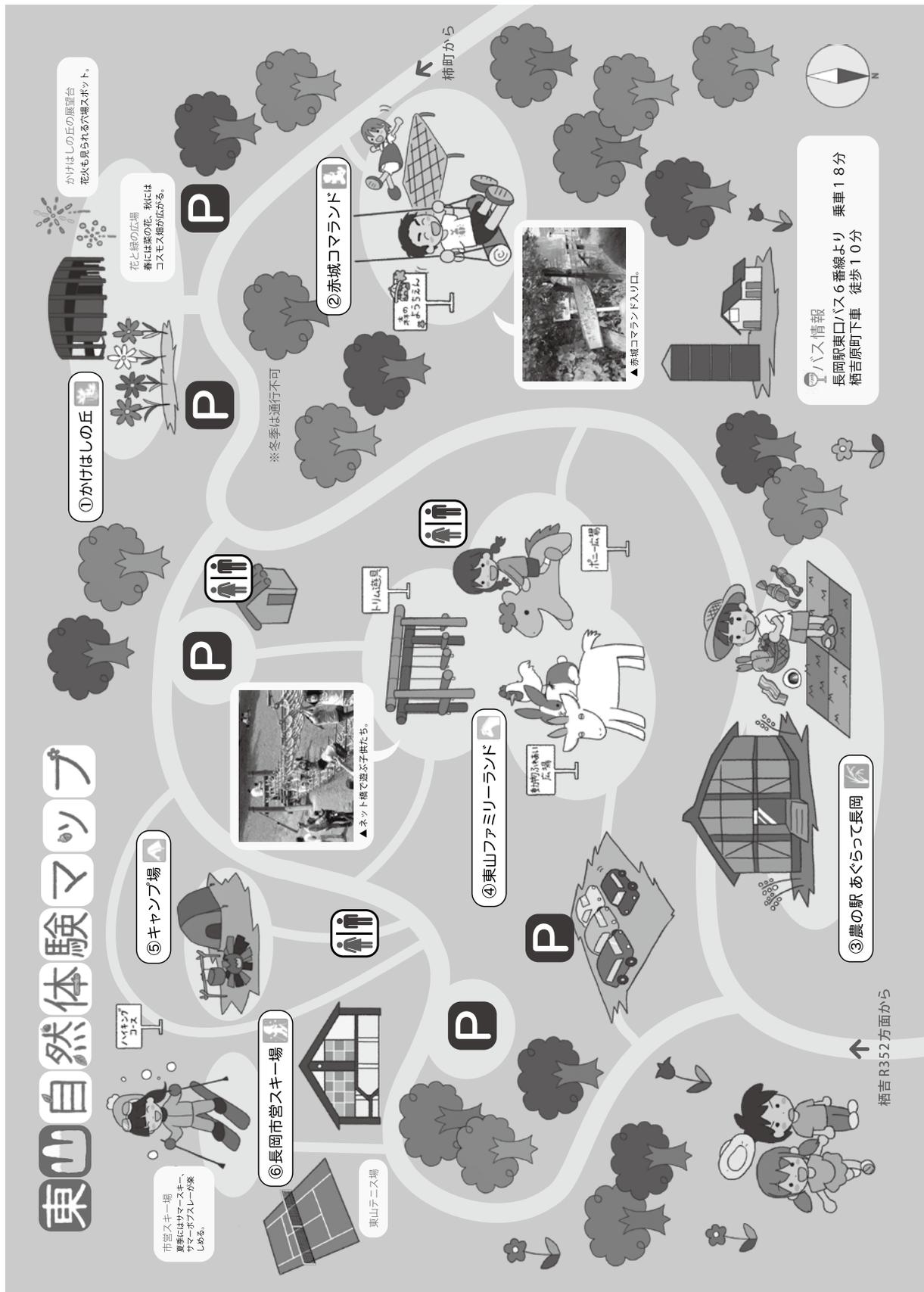
氏 名		所 属 等	
住所・連絡先	〒		
電話番号	F A X		

※ご登録いただいた個人情報は、本学規定に従って厳正に管理します。

図表5-12-2 3種類の栖吉・悠久山・東山のMAP



図表5-12-5 東山自然体験マップ



13 市民向け公開講座・セミナーの開催（3課題対応）－社会貢献②－

（1）方針（申請時）

- ・従来の市民向け公開講座（情報、語学、文化等）を刷新して開講する。市民ニーズと本学教員のマッチングをはかり、地域づくり、ボランティア関係講座も含めて充実させる。

（2）目標（申請時）

- ・平成25年度→市民ニーズと本学教員のテーマのマッチングを図り、開講方針を策定し、開講する（5テーマ、5教員程度）。
- ・平成29年度→テーマは20テーマに倍増し、毎年定番講座（5テーマ程度）と年度毎の特別講座（5テーマ）を組み合わせて、開講する。
- ・会場は、市民が集まる「まちなかキャンパス長岡」を主とし、担当教員数は20名程度。

（3）平成25年度実績と評価

- ・本学独自の市民公開講座は、「初級簿記実践講座」（講師・中村大輔）の1講座開講にとどまった。目標の5講座は時期的に後期のみであったこともあり開講できなかった。次年度は年間通して開講可能なので、5講座をめざす。
- ・まちなかキャンパス長岡の講座等は、計画通り、開講することができた。次年度も継続する。

（4）平成26年度方針・目標

【方針】

- ・市民公開講座の開講・・・従来の市民公開講座をリニューアルして、本学教員の地域への知的還元を行う。情報、会計、日本文化、環境、金融教育等の講座を開講する（5講座）。次年度計画も作成する。

【目標】

- ・情報、会計、日本文化、環境、金融教育等の講座を中心に、地域づくり、ボランティア関係講座等の講座も含め5講座程度の開講を目指す。各講座10名程度の受講者を目標とする。

（5）平成26年度計画

次の日程で、市民公開講座を計画、開講する。

- ・4月～6月 平成26年度市民公開講座の企画・決定
- ・7月～2月 平成26年度市民公開講座の実施

（※市民公開講座の開講に合わせ、随時受講生募集の広報活動を行う。）

- ・8月～12月 平成27年度市民公開講座の企画・決定
- ・1月～3月 平成27年度市民公開講座の案内等の作成

（6）展開

a まちなかキャンパスでの講座

平成26年度の〈まちなかキャンパス〉（長岡市中心市街地に長岡市が新設した市民講座等の開講施設）における講座では、長岡大学教員が次の講演・講義を行った。

- ・まちなかカフェ・・・次の4講演を行った。
中村大輔准教授「頭と手を使って、目指せ貿易王！」、
山川智子准教授「勉強の仕方なんて忘れたあなたに～社会人からの学び方～」、
内藤俊樹学長「ブルートレインの最後～鉄道ノスタルジア～」、
松本和明教授「レコードで語り合おう、ジャズの名盤」
- ・まちなか大学・・・次の2講座を担当した。
☆ひとつづくり学科『世界からみた日本はこんなだった！（5回連続講座）』のテーマ内で、
第2回「日本にとっての朝鮮半島、朝鮮半島にとっての日本」を権五景准教授が担当。
☆まちづくり学科『脱使い捨て！－“資源循環”を考えよう－（5回連続講座）』のテーマ
内で第1回「資源循環に取り組むためのヒント」を西俣先子専任講師が担当。
- ・まちなか大学院・・・まちづくり研究科『長岡野菜研究コース～地元で考える長岡野菜～（10
回連続講座）』のテーマ内で第7～9回「【個別研究】長岡野菜普及の取り組みを提案」と
第10回「成果発表」を小松俊樹教授が担当。

b 長岡大学独自の市民公開講座

長岡大学独自の市民公開講座は、次の通り開講した。

- ・「初級簿記実践講座」（日商簿記3級対応）
講師：中村大輔准教授
開講日程：平成26年9月25日～11月13日（各火・木曜日計15回、19:00～21:00）
会場：長岡大学、受講料：15,000円、受講者：19名
- ・「No.1の国、アメリカが教えてくれるもの」
講師：権五景准教授
開講日程：平成26年10月9日、16日、23日、30日（木曜日計4回18:30～20:00）
会場：長岡大学（第1回）、まちなかキャンパス長岡302会議室（第2～4回）
受講料：4,000円、受講者：6名
- ・「映画で見る中国現代史」
講師：兒嶋俊郎教授
開講日程：平成26年11月6日、13日、20日（木曜日計3回18:30～20:00）
会場：まちなかキャンパス長岡302会議室
受講料：3,000円、受講者：6名
- ・「地域交通と中越地方100年のあゆみ-越後交通を中心に-」
講師：松本和明教授
開講日程：平成26年11月11日、18日、25日、12月2日（火曜日計4回19:00～20:30）
会場：長岡大学、受講料：4,000円、受講者：26名
- ・「メンタルヘルスマネジメント」（メンタルヘルスマネジメント検定Ⅲ種対応）
講師：山川智子准教授
開講日程：平成27年2月4日、12日、26日、3月4日、11日
（水・木曜日計5回19:00～20:30）
会場：長岡大学、受講料：5,000円、受講者：30名

(7) まとめ—成果と課題—

まず第1に、まちなかキャンパスの市民講座に7名の本学教員が講師として参加し、高い評価を受けたこと。市民の学習ニーズに応えるとともに、長岡市中心市街地の活性化にも寄与していると評価できる。

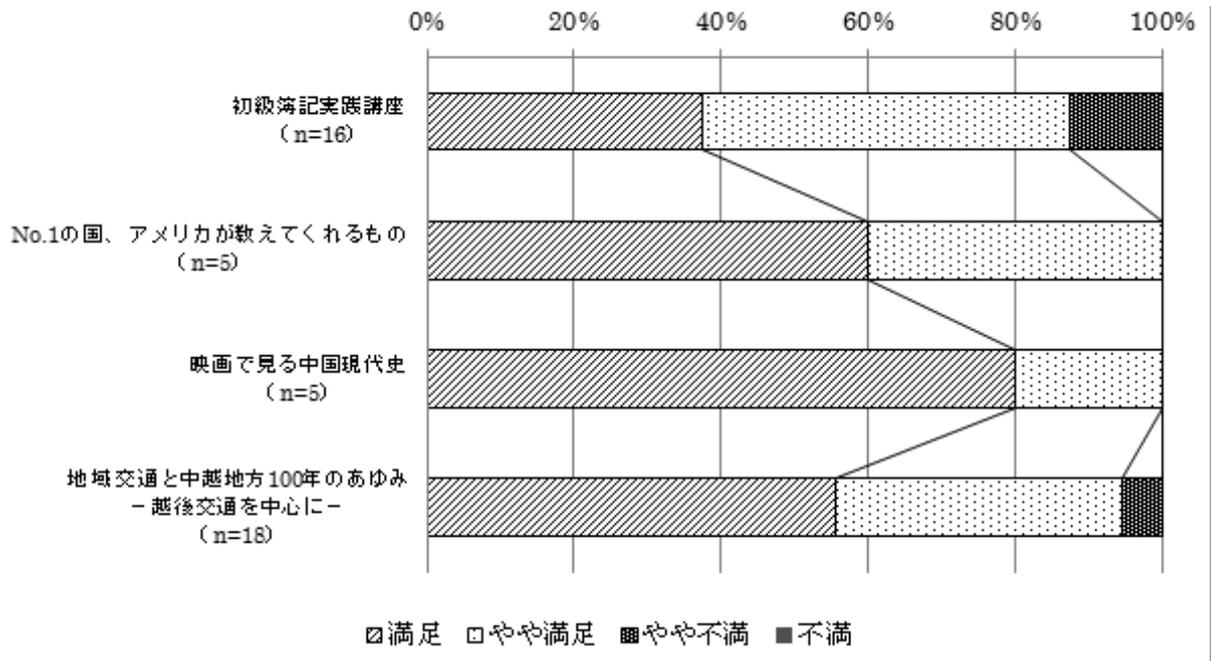
第2に、長岡大学独自の市民公開講座は、当初の目標通り5講座を開講することができた。総受講者数も87名にのぼり、本学独自の市民公開講座として高く評価できる。

第3に、受講者の講座に対する評価を見ると（図表5-13-1）、大部分が「満足」と「やや満足」であったため、講座内容の質も高く評価されたと言える。次年度以降も、この高評価を維持できるよう工夫をこらす必要がある。

第4に、受講者数目標は各講座10名程度としていたが、3講座は目標を大きく上回り、2講座は目標を達成できなかったこと。受講者が多かった講座は市民ニーズとテーマのマッチング度が高かったためと見られ、次年度以降、この点に注意を払った講座テーマの設定が望まれる。

第5に、また、講座の広報の仕方にも工夫をこらす必要があること。受講者が少なかった講座は、講座の決定から開講まであまり期間がなく十分な広報期間を確保できなかったことが要因であったと考えている。この点を十分考慮して、早めの計画立案・決定、そして、早めの広報の工夫（市の広報誌、独自の年間講座リーフレット作成・配布等）をこらす必要がある。

図表5-13-1 各市民公開講座に対する受講者の評価



14 企業人向けセミナーの開催（産業活性化対応）－社会貢献③－

（1）方針（申請時）

- ・従来の企業人向けイノベーション人材養成講座を刷新して、地域中小企業・行政等の専門・基幹人材の育成を目的にした「新・イノベーション人材養成講座」として企業人講座を開講する。

（2）目標（申請時）

- ・平成25年度→全体計画策定の上、4講座を開講する。本学教員2名、外部講師2名。
- ・また、同講座の1つ「ものづくりマネジメント講座」を「長岡市ものづくりインストラクター養成スクール」の連携講座として開講する。
- ・平成29年度→テーマは12テーマに3倍増し、毎年の定番講座（4テーマ程度）と年度毎の特別講座（4テーマ程度）を組み合わせ、開講する。担当教員数は、本学教員6名程度、外部講師6名程度。

（3）平成25年度実績と評価

- ・前期（9月～11月）に「管理会計講座」、後期（12月～2月）に「ものづくりマネジメント（生産向上）講座」と「商品企画講座」の計3講座を開講。前期に予定していた「経営革新計画講座」は応募者が3名に満たず、開講できなかった。また、受講者は管理会計が3名、ものづくりが5名、商品企画が6名で、いずれも募集定員（20名）を大きく下回った。
- ・いずれの講座も採算がとれていないので（講師謝金カバーできず）、次年度は受講者拡大の工夫を行う必要がある。

（4）平成26年度方針・目標

【方針】

- ・企業人セミナーの開講・・・社会人向けの履修証明制度としてイノベーション人材養成講座を制度化し、前半（9月～11月）に2講座（商品企画、管理会計）、後半（12月～2月）に2講座（ものづくりマネジメント、人材活用）、開講する。次年度計画も作成する。

【目標】

- ・長岡地域および近隣周辺地域の企業へのきめ細かな広報と連携を以って、開講する4コースとも最低10名の受講者を確保し、次年度以降の「地域に欠かせない基幹人材育成講座」としての位置づけを確立する。

（5）平成26年度計画

- ・9月～11月・・・「商品企画」と「人材活用」の2講座を開講する。
開講時間－18：30～21：00、全8回。講師：商品企画－小松俊樹（長岡大学教授）
講師：人材活用－岸 保行（新潟大学准教授）
- ・12月～2月・・・「ものづくりマネジメント」と「管理会計」の2講座を開講する。
開講時間－18：30～21：00、全8回。講師：ものづくりマネジメント－外部講師が主
講師：管理会計－中村大輔（長岡大学准教授）

(6) 展開

I期、II期ともに、ほぼ、計画通り、開講した。

a I期講座

- ・商品企画講座・・・次のとおり実施した。

期間・時間：10月7日(火)～11月25日(火)全8回、18:30～21:00

会場：長岡大学教室

講師：長岡教授 小松俊樹 受講者：4名

- ・人材活用講座・・・次のとおり実施した。

期間・時間：10月8日(水)～11月26日(水)全8回、18:30～21:00

会場：長岡大学教室

講師：新潟大学准教授 岸 保行氏 コーディネーター：長岡大学教授 原田誠司

受講者：3名（会社の都合で1名途中放棄）

b II期講座

- ・ものづくりマネジメント講座・・・次の通り実施した。

期間・時間：12月1日(月)～2月16日(月)全8回、18:30～21:00(ただし、初回は公開講座 15:00～17:00)

会場：初回以外は長岡大学教室

講師：長岡技術科学大学准教授・鈴木信貴、長岡大学教授・小松俊樹、長岡市ものづくりインストラクタースクール主任講師・池田達夫、東京大学MMRCものづくりインストラクター・国谷晃雄、同インストラクター・堀井 求、新潟大学経済学部准教授・岸 保行、長岡大学准教授・中村大輔 コーディネーター：長岡大学教授 原田誠司

受講者：4名

*公開講座：テーマ「ものづくりとイノベーションマネジメント」、講師・鈴木信貴准教授
日時：12月1日 15:00～17:00、会場：ホテルニューオータニ長岡。参加者は約50名。

- ・管理会計講座・・・次の通り実施した。

期間・時間：12月2日(火)～2月3日(火)全8回、18:30～21:00

会場：長岡大学教室

講師：長岡大学准教授 中村大輔

受講者：5名

(7) まとめ ―成果と課題―

まず第1に、受講者の出席率は非常に高く、修了レポートも提出され、修了証を受講者全員に授与することができた。出席率は、商品企画講座 100%、人材活用講座 81%、ものづくりマネジメント講座 94%、管理会計講座 100%。

第2に、しかしながら、いずれの講座も募集人員(20人)を大きく下回った。「受講者3名以上で開講」としているが、採算面では赤字なので、受講者を増やす努力が必要である。平成27年度は開講講座の検討、募集媒体の選定や事業所へのアプローチ方法などを再検討し、少なくとも10名程度の受講者を確保したい。



平成 25～29 年度
「地(知)の拠点整備事業」(大学COC事業)文部科学省採択
長岡地域<創造人材>養成プログラム



平成 26 年度 I 期 (10 月～11 月) 長岡大学イノベーション人材養成講座
商品企画講座・募集要項

長岡大学地域連携研究センター

★講座趣旨：アベノミクスで日本経済は上向いてきたと言われますが、グローバル経済化・人口減少傾向など企業環境は、厳しくなっています。企業の新商品・サービスの開発、その販売方法の開発＝イノベーションが問われています。商品企画はどんな企業でも極めて重要な機能です。本講座では、ヒット商品・人気サービスが出にくい千三つ(1000品目の新商品で3つ当たれば良い方)と言われる時代に、どのようにして顧客の支持を得られる商品を企画するか、その技法を提示します。また、アウトプットとして具体的な商品企画の立案とブラッシュアップを行います。

★受講対象者：会社経営者、商品企画担当者、営業・販売担当者

★募集人員：20名(先着順) ※ただし、受講者が3名に満たない場合は、不開講とします。

★講師：小松 俊樹(長岡大学教授/経営コンサルタント)

★時間：18:30～21:00 ★会場：長岡大学教室

★受講料：30,000円(初回にご持参ください)

*裏面の<長岡市米百俵財団研修助成制度のご案内>をご覧ください

★シラバス

	開 講 日	テ ー マ	講 師
第1回	10月7日(火)	マーケティング戦略と商品企画	長岡大学教授 小松 俊樹
第2回	10月14日(火)	情報収集とデータ分析	小松 俊樹
第3回	10月21日(火)	マーケティングリサーチ	小松 俊樹
第4回	10月28日(火)	商品・サービス、提供方法の定義	小松 俊樹
第5回	11月4日(火)	商品企画のための発想法	小松 俊樹
第6回	11月11日(火)	ヒット商品のリバース・エンジニアリング	小松 俊樹
第7回	11月18日(火)	ポジショニングの技法とキーワードの抽出	小松 俊樹
第8回	11月25日(火)	商品企画書の発表・講評	小松 俊樹

◆申込方法◆

電話・FAX・e-mail・ホームページでお申込下さい。
FAXでのお申込の場合は、このチラシの下欄に記入し、
右記のFAX番号に送信してください。

<申込先>

FAX：0258-39-9566

TEL：0258-39-1600(代)

http://www.nagaokauniv.ac.jp/chiken/

e-mail chiken@nagaokauniv.ac.jp

長岡大学地域連携研究センター

担当：山田、近藤、南雲

〒940-0828 長岡市御山町80-8

締め切り 平成26年9月30日(火)

氏 名				所属・会社等	
住所・連絡先	〒				
電話番号			FAX		
E-mail					

※ご登録いただいた個人情報は、本学規定に従って厳正に管理します。



平成 25～29 年度
「地(知)の拠点整備事業」(大学COC事業)文部科学省採択
長岡地域<創造人材>養成プログラム



平成 26 年度 I 期 (10 月～11 月) 長岡大学イノベーション人材養成講座 人材活用講座・募集要項

長岡大学地域連携研究センター

★講座趣旨：アベノミクスで日本経済は上向いてきたと言われますが、グローバル経済化・人口減少傾向など企業環境は、厳しくなっています。企業がイノベーションを行い、競争力を維持・発展させるためには、経営資源の最大の要素である<社内人材>をどう活用するか、が大きな課題です。いわゆる人的資源管理が極めて重要になります。本講座では、人的資源管理の専門家である新潟大学の岸保行先生に講師をお引き受けいただき、そのポイント・ノウハウを講義していただきます。岸先生は、藤本隆宏教授が代表を務める東京大学大学院ものづくり経営研究センターで、現場を調査研究した方であり、現場感覚での人材活用を教授いただけるものと考えます。ぜひ、多くの企業人の方に参加していただきたいと思ひます。

★受講対象者：会社経営者、人事担当者、各事業責任者

★募集人員：20名(先着順) ※ただし、受講者が3名に満たない場合は、不開講とします。

★講師：岸 保行(新潟大学経済学部准教授)

★時間：18:30～21:00 ★会場：長岡大学教室

★受講料：30,000円(初回にご持参ください)

*裏面の<長岡市米百俵財団研修助成制度のご案内>をご覧ください

★コーディネーター：原田誠司(長岡大学教授)

★シラバス

	開 講 日	テ ー マ	講 師
第1回	10月8日(水)	“現場”における人的資源管理の重要性①	新潟大学准教授 岸 保行
第2回	10月15日(水)	“現場”における人的資源管理の重要性②	岸 保行
第3回	10月22日(水)	イノベーションを起こす人材活用 —日本型イノベーションとは?—	岸 保行
第4回	10月29日(水)	モノの流れをつくれる人を育てる —よい設計のよい流れづくり—	岸 保行
第5回	11月5日(水)	学習する組織をつくる —能力構築競争に負けない現場づくり—	岸 保行
第6回	11月12日(水)	“部分最適”から“全体最適”へのマネジメント	岸 保行
第7回	11月19日(水)	演習：自社の人材育成・活用の特徴をつかむ	岸 保行
第8回	11月26日(水)	発表：自社の人材育成・活用の発展的展開	岸 保行

◆申込方法◆

電話・FAX・e-mail・ホームページでお申込下さい。
FAXでのお申込の場合は、このチラシの下欄に記入し、
右記のFAX番号に送信してください。

<申込先>

FAX : 0258-39-9566

TEL : 0258-39-1600 (代)

<http://www.nagaokauniv.ac.jp/chiken/>

e-mail chiken@nagaokauniv.ac.jp

長岡大学地域連携研究センター

担当：山田、近藤、南雲

〒940-0828 長岡市御山町 80-8

締め切り 平成26年9月30日(火)

氏 名			所属・会社等	
住所・連絡先	〒			
電話番号			FAX	
E-mail				

※ご登録いただいた個人情報は、本学規定に従って厳正に管理します。

図表5-14-3 ものづくりマネジメント講座・募集要項



学校法人 中越学園

長岡大学

平成25～29年度
「地(知)の拠点整備事業」(大学COC事業) 文部科学省採択
長岡地域<創造人材>養成プログラム



文部科学省

地(知)の拠点

平成26年度Ⅱ期(12月～2月)長岡大学イノベーション人材養成講座
ものづくりマネジメント(生産性向上)講座・募集要項

長岡大学地域連携研究センター

★講座趣旨:平成25年度から長岡市が「長岡・ものづくりリストラクター養成スクール」を開講しています。このスクールは、東京大学の藤本隆宏教授が研究開発した生産マネジメント理論に基づく現場改善＝生産性向上の指導者養成の学校です。本学はこのスクールの充実・拡大がグローバル競争下での長岡地域の企業・産業競争力向上に不可欠と考え、このスクールへの接続講座として、「第2期ものづくりマネジメント講座」を開講しています。講師は、東京大学ものづくり経営研究センターMMRC (Manufacturing Management Research Center、センター長＝藤本教授) 認定のくものづくりインストラクター>及び関係教授の方々と、長岡大学の教授陣で構成します。当講座を修了して、長岡スクールで学び、ものづくりインストラクターになろう!

- ★募集人数:20名(先着順) ※受講者3名未満の場合は、公開講座のみ開催します。
- ★講師陣:鈴木信貴(長岡技術科学大学准教授/元東京大学MMRCセンター特任助教)、池田達夫(東京大学MMRCものづくりインストラクター/長岡スクール主任講師)、国谷晃雄(東京大学MMRCものづくりインストラクター/元キャノン)、堀井求(東京大学MMRCものづくりインストラクター/元キャノン)、岸保行(新潟大学経済学部准教授)、小松俊樹(長岡大学教授/経営コンサルタント)、中村大輔(長岡大学准教授)
- ★受講対象者:現場改善担当者・技術者・管理者、後継経営者、経営者、コーディネーター、ものづくりインストラクター・ファシリテーター志望者。

- ★受講料:30,000円(第1回公開講座は無料)
- ★時間:18:30～21:00(ただし、第1回公開講座は、15:00～17:00)
- ★会場:長岡大学(ただし、第1回公開講座はホテルニューオータニ長岡)
- ★シラバス ★講座コーディネーター:長岡大学教授 原田誠司/コーディネーター 南雲 渉

	開講日	テーマ	講師
第1回	12月1日(月) 15:00～17:00	公開講座:ものづくりとイノベーションマネジメント 於:ホテルニューオータニ長岡	長岡技術科学大学准教授 鈴木信貴
第2回	12月8日(月)	バリューチェーンと生産現場	小松俊樹
第3回	12月15日(月)	企業競争力と生産現場ー藤本理論とはー	池田達夫
第4回	1月19日(月)	生産管理と方針管理ー現場改善の考え方ー	国谷晃雄
第5回	1月26日(月)	納期・工程・在庫管理・品質管理	堀井 求
第6回	2月2日(月)	生産現場の改善と管理会計	中村大輔
第7回	2月9日(月)	現場改善と人材活用の考え方	岸 保行
第8回	2月16日(月)	課題発表とコメント	小松/池田/原田

◆申込方法◆
電話・FAX・e-mail・ホームページでお申込下さい。
FAXでのお申込の場合は、このチラシの下欄に記入し、
右記のFAX番号に送信してください。

<申込先>
FAX : 0258-39-9566
TEL : 0258-39-1600 (代)
<http://www.nagaokauniv.ac.jp/>
 e-mail chiken@nagaokauniv.ac.jp
 長岡大学地域連携研究センター担当: 山田、南雲
 〒940-0828 長岡市御山町80-8

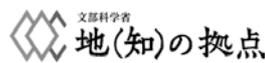
締め切り 平成26年11月27日(木)

氏名		会社等	
住所・連絡先	〒		
電話番号		FAX	
E-mail			

※ご登録いただいた個人情報は、本学規定に従って厳正に管理します。



「地(知)の拠点整備事業」(大学COC事業)
長岡地域<創造人材>養成プログラム



平成 26 年度Ⅱ期 (12 月～2 月) 長岡大学イノベーション人材養成講座
ものづくりマネジメント (生産性向上) 公開講座

「ものづくりとイノベーションマネジメント」

平成 26 年度イノベーション人材養成講座の第Ⅱ期講座として、<ものづくりマネジメント講座>を開講します。第 1 回講座は、長岡技術科学大学准教授の鈴木信貴氏を講師にお迎えして公開講座を開催いたします。経営者、現場改善担当者、技術者、管理者の皆様にとって必ずご参考になると考えます。皆さまのご参加をお待ちしております。

■日 時 平成 26 年 12 月 1 日 (月) 15:00～17:00
(受付 14:30～)

■会 場 ホテルニューオータニ長岡 「桜の間」

■定 員 100 名 (先着順) ■申込締切 11 月 27 日 (木)

■受講料無料



講師 鈴木 信貴 氏の略歴

鈴木 信貴 (すずき のぶたか) 長岡技術科学大学経営情報系 准教授

京都大学大学院経済学研究科博士課程修了。博士 (経済学)。
東京大学大学院経済学研究科ものづくり経営研究センター特任助教 (2009 年 4 月～2011 年 3 月)、
京都大学大学院医学研究科『医学領域』産学連携推進機構特定助教 (2011 年 4 月～2014 年 3 月)
を経て、2014 年 4 月から現職。長岡技術科学大学では、製品開発論、技術経営特論など担当。
主な研究テーマは、経営戦略、技術経営、イノベーションマネジメント、ものづくり経営など。
共著『産業財のインド市場戦略』(東洋経済新報社、2011 年)のほか、論文多数。

◆主 催：長岡大学地域連携研究センター

◆後 援：長岡市、長岡商工会議所、公益財団法人にいがた産業創造機構
NPO 法人長岡産業活性化協会 NAZE

◆申込方法◆

電話・FAX・e-mail・ホームページでお申込下さい。
FAXでのお申込の場合は、このチラシの下欄に記入し、
右記のFAX番号に送信してください。

<申込先>

FAX : 0258-39-9566

TEL : 0258-39-1600 (代)

<http://www.nagaokauniv.ac.jp/>

e-mail chiken@nagaokauniv.ac.jp

地域連携研究センター 担当：山田、南雲
〒940-0828 長岡市御山町 80-8

締め切り 平成 26 年 11 月 27 日 (木)

氏 名			所属・会社等	
住所・連絡先	〒			
電話番号		FAX		
e-mail				

※ご登録いただいた個人情報は、本学規定に従って厳正に管理します。

15 起業人材養成セミナーの開催（産業活性化対応）－社会貢献④－

（1）方針（申請時）

- ・従来間欠的に開講されたビジネスプラン講座をこえて、市・会議所と連携し、常設の「新・起業家塾」（女性、シニア、ソーシャルビジネス含む）を開講する。
- ・また、これを通して、起業家を輩出する＜長岡起業家塾＞制度を形成する。

（2）目標（申請時）

- ・常設のビジネスプラン講座、起業シンポ開催、起業メンターによる日常的起業支援も行き、創業・起業家を輩出する。
- ・平成25年度→全体計画策定の上、初級コース（8週間）を開講。次年度から、初級・上級コース（各8週間）を開講する。本学担当教員は4名、外部講師4名。
- ・平成29年度→毎年、5名程度の創業・起業（女性、シニア含む）をめざす。それを可能にする、長岡市、新潟県、長岡商工会議所、企業、大学・高専、ベンチャーキャピタル等が連携した、起業家を輩出する＜長岡起業家塾＞制度を確立する。
- ・また、小中学・高校生の起業家教育にも取り組む。

（3）平成25年度実績と評価

- ・1月～3月にかけて社会人対象の創業セミナー(全8回)を開講した。参加者は22名で、各回の平均出席率も9割を下回らず好評を得た。また、セミナーと並行するかたちで創業相談(創業支援メンター制度)を実施。3月末までに18件の利用があった。それらの結果、その後に法人設立など、具体的な事業の立ち上げにつながる事例が2件あった。
- ・＜長岡起業家塾＞については、2月に第1回運営委員会を開催。事業の趣旨および計画等について説明、次年度に向けて具体的な構想を協議することを申し合わせた。

（4）平成26年度方針・目標

【方針】

- ・地域起業人材セミナーの開講・・・創業セミナー（女性、一般、上級コース）（各5回講座）の開催、創業支援メンター制度の年間展開、起業家塾運営会議、および創業・起業講演会・シンポジウムの開催を行い、起業風土づくりと起業家の輩出（2件）をめざす。

【目標】

- ・女性対象および一般社会人(シニアを含む)対象の2講座を初級コースとして開講。その後、上級コースを開講する。いずれも全5回、夜間2.0h/回。担当講師は本学教員2名、外部より5名程度。
- ・創業セミナーと併催の形で創業支援メンター制度を運用し、本学内で通年型の創業・起業支援を実現する一方、引き続き長岡市、新潟県、長岡商工会議所、企業、大学・高専、ベンチャーキャピタル等の連携による＜長岡起業家塾＞制度を確立し、長岡地域での起業家輩出を目指す。

（5）平成26年度計画

- ・女性創業セミナー・・・第一弾として女性対象のセミナーを7月に計5回(2.0h/回、10名定員)開講する。
- ・一般社会人創業セミナー／上級コース創業セミナー・・・10月にシニア世代を含む一般社会人対象に開講する(計5回、2.0h/回)。それらの受講者の中から上級コースに誘導を図り、1月～2月にかけて開講する(計5回、2.0h/回)。定員は各コースとも10名。担当講師は本学教員2名、外部より5名程度。
- ・創業支援メンター制度・・・併せて各コースとも、開講後には創業支援メンター制度の運用をスタートし、通年型支援のもと、昨年度(2件)以上の創業・起業創出を目指す。
- ・地域起業家塾への作業・・・＜長岡起業家塾＞制度の確立に向けて、昨年度に引き続き運営委員会およびラウンドテーブル等を開催。創業・起業に関する協議、討議を経て、長岡地域での更なる起業風土づくり、創業・起業の促進を図る。

(6) 展開

a 女性のための起業セミナー

女性のための起業セミナーを次の通り、開講した(図表5-15-1参照)。

- ・期間・時間：7月1日(火)～7月29日(火)全5回、毎回18:30～20:30
- ・会場：長岡大学教室、 受講料：無料(資料代として5,000円受領)
- ・講師陣：小松 俊樹(長岡大学教授／中小企業診断士)
今井 進太郎(グローバルマーケティング㈱代表取締役／中小企業診断士)
山田 康博(山田会計事務所／税理士)
細貝 恵子(asitis～ありのままに菜食料理教室主宰)
高橋 真由美(㈱サマンサハート代表取締役)
- ・受講者：7名

b 創業セミナー(一般・シニア向け)

一般社会人・シニア向けの創業セミナーを次のとおり、開講した(図表5-15-2参照)。

- ・期間・時間：12月10日(火)～2月10日(火)全8回、毎回18:30～20:30
*12月20日(土)は10:00～12:00、13:00～15:00の2回開講
- ・会場：長岡大学教室、 受講料：無料
- ・講師陣：小松俊樹、今井進太郎、山田康博、日本政策金融公庫長岡支店長
- ・受講者：9名

c 創業セミナー研究会

*上記の女性セミナー受講者を中心に、マーケティングのポイントを学ぶ研究会を開催し、受講者同士の交流も深めた。6名参加。10月24日(金)18:00～19:00、於・まちなかキャンパス、講師：グローバルマーケティング㈱代表取締役・今井進太郎氏。

d 創業支援メンター制度

*創業・起業前後の経営等相談ができる＜創業支援メンター制度＞(メンター＝様々な経営等の問題解決に助言・支援する専門家)を4月から1年間継続した(図表5-15-3参照)。メンターは、上記の小松、今井、山田の3氏。

・制度活用状況・・・上記創業セミナー受講生の5人が計6回のメンター相談を行った。創業準備。税金問題、IT活用方法、創業計画・書の作り方などが主なテーマであった。

e 長岡大学「創業・新ものづくり講演会」

創業・起業分野の地域連携活動として、長岡市の〈豪技!長岡ものづくりフェア〉(11月8～9日、長岡ものづくりフェア実行委員会主催)に協賛して、次の講演会を開催した(図表5-15-4参照)。

- ・名称：長岡大学創業・新ものづくり講演会
- ・講演テーマ：「新しい市場のつくりかた」 講師：専修大学准教授 三宅 秀道 氏
- ・日時：平成26年11月9日(日)13:30～15:00 *13:00受付開始
- ・会場：アオーレ長岡市民交流ホールA *受講料は無料
- ・参加者：約50名
- ・主催：長岡大学地域連携研究センター、共催：長岡ものづくりフェア実行委員会

f 若者創業講演・討論会

長岡市との若者の創業分野の連携活動として、次のような講演・討論会(長岡市の〈人材育成オリーブ塾〉事業)を開催した(図表5-15-5参照)。

- ・名称：起業家から若者に贈る進路選びのメッセージ
- ・講演・対話 講師：株式会社ユビキタスエンターテインメント代表取締役社長 清水 亮氏
- ・討論会 テーマ「起業家と話そう、これからの長岡、未来の私たち」

パネリスト	株式会社ユビキタスエンターテインメント代表取締役社長	清水 亮氏
	長岡パワーエレクトロニクス株式会社代表取締役	大沼喜也氏
	長岡大学副学長・教授	原田誠司
- コーディネーター 株式会社公共イノベーション代表取締役 川島宏一氏
- ・日時：平成27年2月7日(土)14:00～16:30
- ・会場：まちなかキャンパス長岡4F・交流ひろば *入場無料
- ・参加者：約60名
- ・主催：長岡市、長岡大学

(7) まとめ —成果と課題—

まず第1に、計画した女性のための起業セミナーと創業セミナー(一般・シニア向け)は、前者が7名、後者が9名で、募集人員には達しなかったが、まずまずの受講者の参加をうることができた。次年度は、募集広報の仕方を工夫して、より多くの創業・起業家、起業準備人材の参加を追求したい。

第2に、創業・起業家が着実に増加するという好ましい傾向が見えてきたことに注目したい。平成25年度の創業セミナー参加者のなかから、2名の起業家が輩出した(1社と1人個人経営)が、平成26年度も、女性起業セミナーの受講者から2名の女性起業家(2人とも個人経営)が自立した。さらに、上記のメンター制度を活用して、5名が起業の方向を明確にしている。

第3に、地域での連携を具体化し、若者からシニアまでの創業・起業の仕組みづくりに進む必要があること。地方創生の観点を明確に意識して、長岡市、長岡商工会議所、大学・高専等との創業支援ネットワークづくりを進めることが重要である。

女性のための起業セミナー

『私らしく生きる!』 - そんなあなたを長岡大学が応援します。

長岡大学では「長岡地域<創造人材>養成プログラム」事業の1つとして、起業人材養成セミナーを開講しています。併せて創業・起業支援メンターによる日常的創業・起業支援も行き、確実な創業・起業家輩出の一翼を担いたいと考えています。平成 26年度は、第一弾として下記の通り女性対象のコース(5回シリーズ)を開講いたします。今後、シニア世代を中心とした一般対象コースや上級コースも予定しています。

★募集対象：起業を予定している女性、および起業後3年以内の女性

★募集人員：10名(先着順)

★受講料：無料(ただし、資料代として5,000円)

★時間：18:30~20:30

★会場：長岡大学

★講師陣：小松 俊樹(長岡大学教授/中小企業診断士)

今井 進太郎(グローバルマーケティング株式会社代表取締役/中小企業診断士)

山田 康博(山田会計事務所/税理士)

細貝 恵子(asitis~ありのままに菜食料理教室主宰)

高橋 真由美(株式会社サマサハート代表取締役)

<順不同>

★シラバス

	開講日	テーマ	講師
第1回	7月 1日(火)	オリエンテーション/自己紹介/創業の心構え/事業のアイデア発想	小松俊樹
第2回	7月 8日(火)	魅力ある事業計画の作り方	小松俊樹
第3回	7月 15日(火)	先輩起業家体験談「私はこうしてスタートした」①	細貝恵子
		創業財務 ポイントはこれだけ	山田康博
第4回	7月 22日(火)	創業に効くネット活用法	今井進太郎
第5回	7月 29日(火)	先輩起業家体験談「私はこうしてスタートした」②	高橋真由美
		成果発表	小松俊樹ほか

《特典》

*事業アイデア発想シート進呈

*事業発想コンセプトシート進呈

*事業計画書フォーマット進呈

*起業支援のベテラン講師による個別相談

*セミナー修了証交付(出席率80%以上、事業計画書提出)

◆お申込方法◆ 電話 または e-mailでお申込ください。
FAXでのお申込の場合は、下欄に記入し、このシートのまま送信してください。【締め切り：平成26年6月27日(金)】



氏名	
住所	〒
連絡先	電話：
	e-mail：
職業	

お申込み・お問合せ / 長岡大学 地域連携研究センター(長岡市御山町80-8) 担当 南雲
☎ 0258-39-1600(代) 内線318、FAX 0258-33-8792
e-mail nagumo@nagaokauniv.ac.jp

図表5-15-2 創業セミナー（一般・シニア）案内



学校法人 中越学園

長岡大学

平成25～29年度
「地（知）の拠点整備事業」（大学COC事業）文部科学省採択
長岡地域＜創造人材＞養成プログラム



文部科学省

地（知）の拠点

平成26年度長岡大学地（知）の拠点整備事業＝長岡地域＜創造人材＞養成プログラム

創業セミナーのご案内

〔一般・シニア向けコース〕

長岡大学地域連携研究センター

★趣旨－＜長岡地域起業家塾＞をめざして－

長岡大学の「長岡地域＜創造人材＞養成プログラム」が、平成25年度文部科学省「地（知）の拠点整備事業」＝大学COC事業に採択されました。このプログラムは課題解決や価値創造を担う専門人材＝創造人材の育成により地域再生・活性化の核として長岡大学を発展させることをめざすものです。

その事業の1つとして、長岡大学では起業人材養成セミナーを開講しています。併せて創業・起業支援メンターによる日常的創業・起業支援も行い、確実な創業・起業家輩出の一翼を担いたいと考えています。

今年度は第二弾として下記の通り開講します。創業支援メンター制度については、裏面をご覧ください。

★講師陣：小松俊樹（長岡大学教授／中小企業診断士）、今井進太郎（グローバルマーケティング代表／中小企業診断士）
山田康博（山田会計事務所／税理士）など

★募集人員：20名（先着順） ★受講料：無料 ★会場：長岡大学

★時間：18：30～20：30（ただし、12/20（土）のみ10：00～と13：00～の連続2回開講）

★シラバス

	開講日	テーマ	講師
第1回	12月16日（火）	創業・起業 成功のポイント・創業計画シートの説明／自己紹介	小松俊樹
第2回	12月20日（土）	実践！売れる仕組みの作り方1（午前の部）	小松俊樹
第3回	12月20日（土）	実践！売れる仕組みの作り方2（午後の部）	小松俊樹
第4回	1月13日（火）	速攻！創業財務	山田康博
第5回	1月19日（月）	創業に良く効くIT活用1	今井進太郎
第6回	1月27日（火）	創業に良く効くIT活用2	今井進太郎
第7回	2月3日（火）	資金調達のポイント／創業体験談	日本政策金融公庫
第8回	2月10日（火）	成果発表／開業プロモーション計画	小松俊樹

主催：長岡大学地域連携研究センター

後援：長岡市、長岡商工会議所、NPO法人長岡産業活性化協会NAZE
公益財団法人いいがた産業創造機構

◆申込方法◆

電話・FAX・e-mail・ホームページでお申込下さい。
FAXでのお申込の場合は、このチラシの下欄に記入し、
右記のFAX番号に送信してください。

TEL：0258-39-1600（代）内線318
FAX：0258-39-9566
e-mail：nagumo@nagaokauniv.ac.jp
http://www.nagaokauniv.ac.jp/
長岡大学地域連携研究センター
担当：南雲
〒940-0828 長岡市御山町80-8

締め切り 平成26年12月12日（金）

氏名		会社等	
住所・連絡先	〒		
電話番号		FAX	
E-mail			

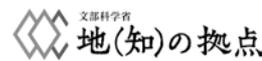
※ご登録いただいた個人情報は、本学規定に従って厳正に管理します。

図表 5-15-3 創業支援メンター制度ご案内



学校法人 中越学園

平成 25～29 年度
「地（知）の拠点整備事業」（大学COC事業）文部科学省採択
長岡地域＜創造人材＞養成プログラム



文部科学省

地（知）の拠点

平成26年度長岡大学地（知）の拠点整備事業＝長岡地域＜創造人材＞養成プログラム

創業支援メンター活用のご案内

長岡大学地域連携研究センター

★趣旨－＜長岡地域起業家塾＞をめざして－

長岡大学の「長岡地域＜創造人材＞養成プログラム」が、平成 25 年度文部科学省「地（知）の拠点整備事業」＝大学COC事業に採択されました。このプログラムは課題解決や価値創造を担う専門人材＝創造人材の育成により地域再生・活性化の核として長岡大学を発展させることをめざすものです。

このプログラムの事業として、創業セミナーの開催とともに、**創業・起業前・後の経営等相談ができる＜創業支援メンター＞制度**を、4月から開始しております。大いに活用してください。

*メンターとは、様々な経営等の問題解決に助言・支援する専門家のこと。

★制度・仕組み

1. 流れ	①電話またはメールで申し込む ②メンターと日程調整 ③相談者に連絡 ④相談実施
2. 相談料	初回は無料。その後は応相談。
3. 相談申込	下記「ご連絡先」あて。
4. 申込時間	毎週月～金曜日の午前10時から午後4時(電話の場合)。 ※12/27(土)～1/4(日)は冬期休業
5. 申込事項	①相談事項 ②希望相談日時 ③相談者の連絡先(住所、電話番号など) ※申し込まれた方に「相談シート」をメールでお送りします。

- ・メンター：小松 俊樹（長岡大学教授／中小企業診断士）
今井進太郎（グローバルマーケティング代表／中小企業診断士）
山田 康博（山田会計事務所／税理士）

★ご連絡先 〒940-0828 長岡市御山町80-8
長岡大学地域連携研究センター 担当：南雲
TEL 0258-39-1600 (代) 内線318
E-mail nagumo@nagaokauniv.ac.jp





「地(知)の拠点整備事業」(大学COC事業)
長岡地域<創造人材>養成プログラム



豪技!長岡ものづくりフェア(平成26年11月9日)

長岡大学 創業・新ものづくり講演会

「新しい市場のつくりかた」

講師: 専修大学経営学部准教授 三宅 秀道 氏

長岡ものづくりフェア実行委員会主催の<豪技!長岡ものづくりフェア>が、平成26年11月8日(土)・9日(日)に開催されます。長岡大学も長岡市製造業の競争力強化のために大変有意義なフェアであると考え、「創業・新ものづくり講演会」を開催します。なお、この講演会は、長岡大学「地(知)の拠点整備事業」(大学COC事業)=長岡地域<創造人材>養成プログラム事業の1つであります。

講師の三宅秀道さんは、ベストセラーになった『新しい市場のつくりかた』(東洋経済新報社、2012年)で、企業が生き残るためには、<問題を発明し(発見ではない)、新しい文化の開発が必要>と豊富な事例で説いています。本講演でもそのエキスを話していただきます。

日時 平成26年11月9日(日) 13:30~15:00(受付 13:00~)

会場 アオーレ長岡市民交流ホールA ◆受講料は無料です。

定員 100名(先着順) ※11月4日(火)までにお申込みください



講師: 三宅 秀道 氏(専修大学経営学部准教授)の略歴

1973年生まれ。神戸育ち。1996年早稲田大学商学部卒業。都市文化研究所、東京都品川区産業振興課などを経て、2007年早稲田大学大学院商学研究科博士後期課程単位取得退学。東京大学大学院経済学研究科ものづくり経営研究センター特任研究員、東海大学政治経済学部専任講師を経て、2014年より現職。専門は、製品開発論、中小・ベンチャー企業論。これまでに大小1000社近くの事業組織を取材・研究。現在、企業・自治体・NPOとも共同で製品開発の調査、コンサルティングにも従事している。

主催: 長岡大学地域連携研究センター
共催: 長岡ものづくりフェア実行委員会

◆申込方法◆

電話・FAX・e-mail・ホームページでお申込下さい。
FAXでのお申込の場合は、このチラシの下欄に記入し、
下記のFAX番号に送信してください。

FAX: 0258-39-9566

締め切り 平成26年11月4日(火)

<申込先>

長岡大学地域連携研究センター
担当: 山田、南雲

〒940-0828 長岡市御山町80-8

TEL: 0258-39-1600(代)

URL: <http://www.nagaokauniv.ac.jp/>
e-mail: chiken@nagaokauniv.ac.jp

氏名		所属・会社等	
住所・連絡先	〒		
電話番号		FAX	
e-mail			

※ご登録いただいた個人情報は、本学規定に従って厳正に管理します。

◆「豪技!長岡ものづくりフェア」は11月8日(土)・9日(日)アオーレ長岡で開催します。科学体験、最新ロボット実演など楽しい催物を用意しています。

起業家から若者に贈る

人材育成オリーブ塾

文庫科学舎
地(知)の拠点

進路選びのメッセージ

長岡出身の大学生が渡米してマイクロソフト社で働き、起業することになったきっかけは、自分の興味を知っていたから。世界で活躍するIT起業家と一緒に、将来を予測して行動する基礎的な考え方から実践方法が聞ける講義に参加して、自分を見つめ、自分の可能性を考えてみませんか。



清水 亮氏

●日頃の疑問を聞いて
講師と一緒に考えよう！

●やりたいことにチャレンジ
していると道は見えてくる

●好きなことが仕事につながる

●やりたいことを成し遂げた人の
実践ルールとは？

●自分の選択が未来の長岡を
創造していくということ

日時

2015 2月7日(土)

14:00~16:30

場所

まちなかキャンパス長岡
4F 交流ひろば
新潟県長岡市大手通り2-6

申込

- 入場無料
- 1月27日(火)までに、FAXまたはメールで
- 対象者 … 高校生/大学生/起業志望者
- 定員 … 40人(抽選) お申し込みいただいた方には2月4日までに当選結果をお知らせします。

講演・対話

14:00~14:45

清水 亮氏

(株)ユビキタスエンターテインメント
代表取締役社長兼CEO)

1976年長岡市生まれ。大学在学中にマイクロソフト社で次世代ゲーム機向けOS開発に関わる。
1999年に(株)ドワンゴにて携帯電話事業を立ち上げ、2003年に起業。
2005年、情報処理推進機構により、天才プログラマー/スーパークリエイターとして認定。

討論会

15:00~16:30

テーマ「起業家と話そう、これからの長岡、未来の私たち」

パネリスト ● 清水 亮氏

● 大沼 喜也氏 (長岡パワーエレクトロニクス(株) CEO)

2013年3月、長岡技術科学大学大学院博士課程修了、博士(工学)。同年4月、長岡パワーエレクトロニクス株式会社設立、CEO就任。電気エネルギーを効率よく変換する技術を駆使して省エネ・再生エネルギー(太陽光、電気自動車等)を促進する技大発ベンチャー。

● 原田 誠司氏 (長岡大学副学長・教授)

民間シンクタンクを経て、1992年長岡短期大学教授。2005年より長岡大学教授。この間、ベンチャー企業論や起業家塾などを担当。長岡地域の産業・イノベーション政策を主に調査研究。川崎市産業振興財団副理事長も務める。

コーディネーター ● 川島 宏一氏 (株)公共イノベーション 代表取締役)

国土交通省、世界銀行を経て(株)公共イノベーションを起業。政府IT総合戦略本部電子行政オープンデータ実務者会議構成員/佐賀県特別顧問

主催：長岡市、長岡大学

問合せ：長岡市市長政策室政策企画課 電話0258(39)2204

長岡大学 地域連携研究センター 電話0258(39)1600

… (切り取らず、そのまま f a x ください)

★ 2/7起業家から若者に贈る進路選びのメッセージ 申込書 ★

FAX : 0258(39)2272 (政策企画課)
E-Mail : info@city.nagaoka.lg.jp

お名前	(ふりがな)	年齢	
住所	〒	電話番号	

VI 推進体制の整備

1 6 推進体制の整備－全体①－

(1) 平成 25 年度実績と評価

- ・設備等推進体制づくりは計画通り、薦めることができた。
- ・FD活動・・・平成 25 年度は以下の通り合計 5 回の FD 活動（うち、2 回は集中 FD 研究会）を行った。

<平成25年>

4 月 1 日 教授会報告「長岡大学 FD 基本ポリシー」

8 月 21 日 集中 FD・SD 研究会

1. 学生の就職力向上への日常的指導
2. 中途退学者を減らすための仕組みの点検と改善について

9 月 18 日 COC 事業推進のための FD・SD 会議

10 月 30 日 COC 事業推進のための FD・SD 会議

「長岡市の地域課題について」（講演および質疑応答）

講師：長岡市市長政策室政策企画課課長補佐 上村建史 氏

<平成26年>

3 月 12 日 集中 FD・SD 研究会

1. 『効果的なホームページの作り方』（講演および質疑応答）

講師：グローバルマーケティング代表取締役 今井進太郎 氏

2. 学生 FD サミット 2014 春 参加報告（報告および質疑応答）

3. 平成 26 年度 COC 方針、予算、調書について

(2) 平成 26 年度方針・目標

【方針】

- ・地（知）の拠点整備事業推進本部等推進体制の充実・・・当事業の学内推進組織を「長岡大学地（知）の拠点整備事業推進本部」（本部長＝学長）とし、地域連携研究センターにはその事業を支える諸部会を設けて、全学的かつ効率的体制を確立する（月 1 回開催）。事務体制は前年度の陣容を継続するとともに、教職員の FD / SD 活動を通じた事業推進能力の向上を図る。

【目標】

- ・平成 26 年度の推進体制づくりを経費計画通り、推進する。
- ・FD 活動・・・平成 26 年度は FD 活動の全体目標を「教育力向上・学力の底上げ」とする。この全体目標を通じて COC 事業推進のための教育力向上を図る。
- ・SD 活動・・・平成 26 年度 SD 活動の目標「職員の考える力を養成する」とする。変化する教育現場を支える事務職員の考える力を養成し、より柔軟に変化に対応できるようにする。

(5) 平成 26 年度計画

- ・FD 活動・・・平成 26 年度は、6 月、8 月、10 月、2 月、3 月に FD 研究会を開催する。

うち、8月と3月は集中FDとする。具体的なテーマは未定。

- ・SD活動・・・平成26年度は、5月「大学改革トップセミナー」に参加し、その後7月、9月、11月、2月にSD勉強会を開催する。又、その他にSDに関する研修会へ参加する（その際、SDに関し実績のある他大学への研修も含める）。

(6) 展開

a 事業推進体制の改変

平成26年度の長岡大学の地（知）の拠点整備事業の推進体制は、本報告書「Ⅱ 事業推進体制と平成26年度経過報告」の「2 推進体制」（本報告書5頁）に記載した通り、推進本部を中心にした体制に改変した。

b FD研究会

平成26年度は、次の通り、5回のFD研究会を開催した。

・第1回（平成26年6月25日）

☆テーマ：長岡大学経済経営学部経済経営学科設置届出書について

☆報告：鯉江康正教授

☆概要：経済経営学科設置届書のポイントについて学習した。

・第2回（8月27日）

☆テーマ：「理想の大学教育をデザインするワークショップ」・・・本学の学生に実施したモデル授業の解説および「高次のAL教育手法」（PBLやLTD学習法を含む）の教育効果を実際にワークショップ型授業を用いて説明。

☆講師：川西諭氏（上智大学経済学部教授）

☆概要：ワークショップ型授業でより高い効果を得るための取組のポイントは次の通り。

- ①多様なメンバー構成になるようにする。→自分に見えないアイデアを見つけられる。多様な考え方があることを知る。
- ②進行役をみんなで選ぶ。→メンバー全体で承認。独りよがりを防ぐ。
- ③アイス・ブレイキング（自己紹介、コインゲーム）→初対面の参加者同士の抵抗感をなくし、コミュニケーションを促進する。
- ④スライド資料の進め方を工夫する。→言葉だけだと刺激に乏しいので、スライド資料等による視覚も重視する。
- ⑤話している人の顔をよく見て、笑顔で頷く。→話をきちんと聞いていることを意思表示することで相手も話しやすくなる。

・第3回（11月5日）

☆テーマ：産学連携によるインターンシップ等教育改善について－新潟大学農学部の取組みを中心にして－

☆講師：箕口秀夫氏（新潟大学農学部教授／キャリアジム運営副センター長）

古俣清勝氏（新潟大学農学部キャリアジム運営センターコーディネーター）

☆概要：農学部の1年次から実習形式で現場を体験させる（25科目）→2年次には外部実務者の講話プログラムで基礎能力養成→3年次でPBL型インターンシップを経験し課題解

決力を養成→4年次では将来の進路検討、という段階的プログラムを組む。能力評価はPROG活用。

・第4回(11月26日)

☆テーマ：公的研究費に関するコンプライアンスについて

☆講師：長岡大学総務課長／コンプライアンス推進責任者三浦康弘氏

☆概要：全教員、及び公的研究費の取扱いに関わる事務職員を対象に文部科学省作成のコンプライアンス教育用コンテンツ（研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドラインについて（研究者向け））を用いて、コンプライアンス教育を実施した。

・第5回(平成27年3月11日)

☆テーマ：PROGテストおよびテスト結果の解説

☆講師：株式会社リアセック 谷川雅之 氏

☆概要：リテラシーとコンピーテンシー（社会人基礎力）＝基礎力を測定するテスト結果（1・2月に1～3年生対象に実施）を解説してもらった。

c 視察・研修（FD）

- ・金沢工業大学視察・・・平成26年7月31日、教員（中村大輔）、事務（品川十英、長谷川雅明）3名で訪問。概要は、後述のSDの項参照
- ・岡山大学学生FDイベント「i*See2014」への参加・・・ 月 日、教員（中村大輔）、学生（中原沙貴美、内山絵美）3名参加。内容：初日には参加大学の授業アンケートについて、良いアンケートであると思うものを参加者が投票で決める「授業アンケート決定戦」が行われた。2日目には各大学の授業アンケートをどのように改善するかをグループで話し合われた。これらのイベントにおいて、本学のアンケートはシラバスに関する質問項目が無いことが指摘された。
- ・京都コンソーシアム主催FDフォーラムへの参加・・・平成27年2月28～3月1日、於・で開催のフォーラムに、教員（中村大輔、橋長真紀子、西俣先子）3名が参加。
- ・松本大学視察・・・平成27年3月17日、教員（中村大輔）、事務（品川十英、井比 亨、脇田妙子、恩田麻未）の5名で、視察。内容は後述のSDの項を参照されたい。

d SD全体会

SD全体会（メンバー：全職員対象）を次の通り、3回、実施した。

- ・第1回・・・テーマ：大学の方針・理念について、時期等：平成26年7月30日

10：00～11：30 於・本学第4会議室

概要：長岡大学の方針・理念を内藤学長が話され、現状がどうなっているか検証し、職員のあるべき姿をSDを通して研修していくことが決まった。

- ・目指す方向（ベクトル）を全員が合わせる。
- ・大学活性化委員会（名称：スタッフ会議）を立ち上げる。

- ・第2回・・・テーマ：学生指導、大学運営について（グループワーク）、時期等：11月28日

13：30～15：00 於・本学第4会議室

概要：長岡大学の今後の課題についてグループワークを通して、課題・解決策を洗い出した。

- ・主テーマを「学生指導について」にした。
- ・スタッフ会議で本日のグループワークの意見をまとめる。
- ・まとめた意見で、実行可能ものから、全職員で実行していく。
- ・大学全体で取り上げるべきテーマは、大学運営会議に提案していく。

- ・第3回・・・テーマ：留学生の就職について、時期等：平成27年2月27日
15：00～17：00 於・本学第4会議室

概要：「留学生の日本国内での就職事情」について、南行政書士事務所所長 行政書士
南 直人様を講師に研修会を行った。

- ・本学も中国、モンゴル、ベトナム（平成27年度より）と留学生を受け入れているが、
日本国内に就職希望する学生が増えることを前提に、留学生の日本国内での就職事
情の認識を一致させるためこの研修会を開催した。
- ・学生指導の一環として行った。

e SD研究会

*上記のFD研究会の第2回と第3回は、SD研究会との共催であった。詳細は上記参照。

f 視察・研修（SD）

- ・第10回大学トップセミナー参加・・・平成26年5月23日、於・法政大学で開催。品川事
務局長が参加。

概要：以下の講演があった。

- (1)「法政大学におけるグローバル人材の育成の現状と将来構想」
法政大学総長 田中 優子氏
 - (2)「学生募集と人材育成」
岡山理科大学入試広報部長 森 裕一氏
 - (3)「採用側から見た人材の課題」
日本たばこ産業株式会社人事部長 嶋吉 耕史氏
 - (4)「1年間全寮制で育まれるもの」
昭和大学富士吉田教育学部学生部長 田中 一正氏
 - (5)「14年版 基礎学力の現状～全国365高校ヒアリングの集計・分析～」
株式会社ナガセ 東進ハイスクール大学事業部長 麻柄 真治氏
- ①大学の現状、学生の現状を知るに大変役立った。

- ・金沢工業大学視察・・・平成26年7月31日、教員（中村大輔）、事務（品川十英、長谷川雅
明）3名で訪問。13：00～17：00

概要：金沢工業大学産学連携機構事務局 産学連携推進部 連携推進室室長 福田 崇之
氏、法人部長 田向 純氏、法人部人事課長 越野 慎子氏よりFD・SD等の説明を
受け意見交換を行った。

- ①金沢工業大学は、平成7年から大学改革を始めた。学園の創設期（第1ステージ）、全国的な地位を確立した充実期（第2ステージ）を終え、大学の躍進を目指す第3ステージに向け職員の研修を充実させる。との説明を受けた。
- ②お互いの大学の情報交換を行い、長岡大学としてやらなければならない課題を見つけることができた。

・**京都産業大学視察**・・・平成26年10月18日、品川事務局長、石綿主任（学生）2名で訪問。
15:00～17:00

概要：京都産業大学学長室課長 森 洋氏、学長室教育支援研究開発センター課長補佐 山内 尚子氏から京都産業大学の取り組みにつき説明を受け、その後意見交換を行った。

- ①前向きにチャレンジしている姿勢が鮮明に見えた。

・**京都SDフォーラム参加**・・・平成26年10月19日、10:00～17:15 於・「キャンパスプラザ京都」

概要：(1)基調講演：「実践知の獲得と自立的な成長：批判的思考の役割」

京都大学大学院教育学研究科 教育認知心理学講座教授 楠見 孝氏

- ①批判的思考は、振り返りによって支えられ、大学を巡る状況変化を明確化し、問題解決を導く、暗黙値による直感的思考と相補的に働く。

(2)分科会参加：石綿 分科会 B「自立した大学職員になるために」

品川 分科会 D「役割と責任を明確にする人材の育成について」

(3)情報交換会参加：品川、石綿

(全体) 若手職員が積極的に発言をし、自大学の現状を的確に話し、人の話しを吸収していこうと言う姿勢に感銘を受けた。

・**松本大学視察**・・・平成27年3月17日、教員（中村大輔）、事務（品川十英、井比 亨、脇田妙子、恩田麻未）の5名で、13:00～17:00、視察。概要：住吉学長、小倉事務局長よりご説明いただいた。ポイントは次の通り。

★大学方針を示し教職員で共有、地域貢献が軌道にのるまで5年以上かかる（データ・資料を共有）、職員SD（毎朝朝礼3分間スピーチ。出張報告はパワーポイント等で発表、職員間で共有）、広報の仕方（マスコミとの関係はフランク、頻りに記者が大学を出入り）、COC事業等の取り組み方（教職員協働、約20名）など。

・その他・・・平成26年8月20日、若手職員によるスタッフ会議立ち上げ。大学における諸問題に対し研修会を行い、具体的に解決していく手法を学び実践することとした。

g 平成26年度地（知）の拠点整備事業シンポジウム

平成26年度の全国COCシンポジウムが次の通り開催された。原田誠司、村山光博、米山宗久の3名が参加した。

・名称：「地（知）の拠点整備事業シンポジウム～COC全国ネットワーク化事業～ “地（知）

の拠点整備から地域創生へ”」

- ・日時：日時：平成 27 年 2 月 27 日(金) 13:00～18:30、28 日(土) 9:30～12:00
- ・会場：高知県立県民文化ホール・グリーンホール
- ・主催：高知大学
- ・プログラム：開会の挨拶－高知大学長・脇口 宏、来賓挨拶－高知県知事・尾崎正直、COC+の説明－文科省高等教育局大学振興課長・塩見みづ枝、基調講演－日本創生会議座長・増田寛也、＜パネルディスカッション＞－テーマ「政府が進める地方創生に対して、具体的に大学がどのように貢献できるか」、宮崎大学、横浜市立大学、東海大学、高知大学の4大学COC概要説明、黒潮町長、高知県中小企業家同友会事務局長が加わって討論。
- ・ポスターセッション：25 大学（22 事業）のパネル展示と各ブースにおける情報交換。各ブースは、ポスターを1枚貼れるだけのボードと 40cm×40cm 程度のテーブルスペース。持参した資料はCOC通信以外すべて配布済み。
- ・2 日目：東京国際大学、千葉大学、東北公益文科大学、高知大学の事例報告。
- ・全体的感想・・・本学の大学の取り組みが劣っているわけではないが、先を行っているとも言えない状況。地域との連携を深め、地域全体の底上げに伴う地域の満足度を高めていく必要がある。冒頭の知事挨拶、高知大学の地域協働学部新設（平成 27 年 4 月）、閉会挨拶などから、このシンポは、高知大学の計画的な戦略（県と組んだ戦略）に基づくイベント。人口減少下の対応の強い危機感あり。個別では、千葉大学の地域志向科目の設定が注目される。

（7）まとめ－成果と課題－

まず、当COC事業の推進体制を地域連携研究センター運営委員会から推進本部体制に改変したが、センター固有の業務とCOC業務の区別と関連を明確にできた。次年度もこの推進本部－運営事務局体制を継続することが望ましい。

第2に、FDに関しては、FD委員会設置、5回のFD研究会開催、他大学等の視察など、年間通して、FDに関する当面する課題への対応と先進事例の学習に取組み、一定の成果は得られた。

第3に、しかしながら、FDの方針化・位置づけは作成できず、次年度への課題を残した。次年度は、中退者問題、引き続き先進大学等への視察・学習（千葉大学の地域志向科目の設定など）、ALの推進方策、PROG等能力評価方策の明確化などに加えて、FD方針の明確化を図る必要がある。

第4に、SDについては、SD全体会や若手職員のスタッフ会議等がスタートし、SD推進の基礎条件はできつつある。その継続・活性化が今後の課題である。

第5に、SDの方針化・位置づけの明確化が念頭にありながら、具体化できなかった。次年度は先進事例の学習等を強化するなかで、この方針化・位置づけの明確化を進める必要がある。

1 7 推進協議会・地域課題調整部会の開催－全体②－

（1）平成 25 年度実績と評価

- ・10月23日に、平成25年度地（知）の拠点整備事業推進協議会を開催した。

- ・また、地域課題調整部会（長岡市政策企画課、工業振興課、長岡商工会議所および長岡大学 2名の計5名）は、10月以降、月1回、開催し、日程等の調整を行った。

（2）平成26年度方針・目標

【方針】

- ・地（知）の拠点整備事業推進協議会及び地域課題調整部会の開催・・・推進協議会は年1回開催（5月）する。地域調整部会で本学・連携機関間の日常的な事業内容・スケジュール等の調整を行う（月1回）。

【目標】

- ・推進協議会は前期に1回、地域課題調整部会は毎月1回、それぞれ開催し、事業の円滑な推進を図る。

（3）平成26年度計画

- ・協議会は、6月中旬に開催する。
- ・地域課題調整部会は、毎月月末の月曜日に開催する。

（4）展開

- ・推進協議会・・・平成26年度の推進協議会については、本報告書「Ⅱ 事業推進体制と平成26年度経過報告」の「2 推進体制」（本報告書6頁）に記載した通りである。平成26年度の推進協議会は、COC事業に関する諸書類手続き終了後の平成26年6月18日に開催した。
また、COC事業の進み具合をお知らせする「長岡大学COC通信」（A4版1枚）を作成し、6月から、毎月、協議会委員・組織の方々に送付してきた。
- ・地域課題調整部会・・・平成26年度の地域課題調整部会については、本報告書「Ⅱ 事業推進体制と平成26年度経過報告」の「2 推進体制」（本報告書7頁）に記載した通りである。平成26年度の調整部会は、平成26年4月から平成27年3月まで、毎月月末の月曜日に開催してきた（ただし、8月は開催しなかったため年間11回開催）。学内の推進本部会議での議論をベースに、主として事業予定等について、検討した。

（5）まとめー成果と課題ー

推進協議会、地域課題調整部会ともに、計画通り、開催することができた。その点では、順調であったと言えるが、地域連携という観点からすると、長岡市以外の協議会構成組織との連携が拡大・充実したとは言えない状況にあるといわざるを得ない。次年度は、この点の地域連携の拡大・充実をめざす必要がある。

18 本事業の広報の充実ー全体③ー

（1）平成25年度実績と評価

- ・広報については、経費計画にそって、実施することができた。
- ・しかし、広報体制が未整備のため、十分な広報効果を上げられたとは言えない。次年度はきちんとした広報体制の形成が必要である。

(2) 平成 26 年度方針・目標

【方針】

- ・本事業の広報の充実・・・本事業の学生・地域社会等への広報を、諸印刷物（ホームページ、パネル、リーフレット、ポスター、報告書、研究年報等）、メディアなど多様な方法で充実させ、本事業を広く、認識していただく。

【目標】

- ・経費計画にそって、効果的な広報を行う（学生、保護者、地域関係者、企業、市民等のいかに本事業を知っていただくか）。

(3) 平成 26 年度計画

- ・経費計画を着実に推進する。

(4) 展開

平成 26 年度の広報事業は、次の通りであった。

- ・**本学ホームページの更新**・・・平成 26 年度市民公開講座案内 4 ページ、COC トップページ画像の切り替えとリンク作成、平成 26 年度経過報告、企業講師授業一覧、地域志向教育研究成果発表会の報告、悠久山・東山フォーラムの報告等を掲載し、本学のCOC事業や地域活性化への取り組みなどを広報するべく更新した。
- ・**本事業広報リーフレット等の作成**・・・事業概要リーフレットの増刷（補充）、「長岡大学COC通信」の発行（2014年6月からほぼ毎月。図表6-18-1、132頁～139頁参照）、文科省のリーフレット等（図表6-18-2、140頁参照）を作成し、連携自治体、市民、地域住民に広報した。
- ・**本事業案内パネルの作成**・・・資格取得支援センター案内パネル、COC事業案内パネル、地（知）の拠点整備事業シンポジウムポスターセッション参加パネル等を作成し、地域交流ホール、まちなかキャンパスなどで展示し、本学のCOC事業への取組を広報した。
- ・**広報ブックレット等の作成**・・・教育ブックレットとして、「長岡大学資格取得のすすめ」「高齢者の買物支援―地域のつながり再構築―」を発行、学生による地域活性化プログラム各プロジェクトによる活動報告を10取組、地域志向教育研究ブックレット5取組を発行した。また、採択時に作成した「長岡地域<創造人材>養成プログラム」の残部が少なくなったため、増刷した。
- ・**新潟県日刊新聞事業内容広告**・・・新潟日報の平成26年6月15日（日）版に、COC事業を含む本学事業全般、取り組み等について、1面全面意見広告を掲載した。
- ・**地域連携研究センター研究年報の刊行**・・・『長岡大学地域連携研究センター年報 地域連携研究』第1号を平成26年11月17日に刊行した（A4版、116頁、1000部）。このセンタ

一年報『地域連携研究』は、本事業の年度報告書と対になる年報である。つまり、年度報告書はCOC事業の目標、事業経過、成果、総括をまとめた報告書（PDCAの結果報告）であるのに対し、当年報は地域課題解決の調査研究、地域志向教育研究、地域貢献内容等の成果となる知識・情報を取りまとめた調査研究年報である。第1号は、COC事業の推進組織である地域連携研究センターのCOC事業の調査研究成果、シンポジウム報告、地域志向教育研究成果などを掲載している。第1号は、COC事業の論文等が全体の62%（71頁/115頁）を占める。年報目次は図表6-18-3（141頁）を参照されたい。

- ・ **本事業報告書の作成**・・・『長岡大学COC事業＝長岡地域＜創造人材＞養成プログラム 平成26年度報告書』を平成27年3月末に刊行した（A4版、120頁、1000部）。
- ・ **地域活性化プログラム事業の広報**・・・地域活性化プログラムの高橋ゼミの＜Eポート試乗会＞は、平成26年10月22日のNHKクローズアップ現代で紹介された（図表6-18-4、142頁参照）。また、同プログラムの権ゼミの＜十分杯プロジェクト＞は、平成27年3月4日のインターンシップ新潟フォーラムで発表し好評であった（図表6-18-5、143頁参照）。翌日の新潟日報に掲載され、さらに、JR東日本の＜越乃Shu*Kura＞イベントでも＜十分杯＞の説明を依頼されている。教育のプロジェクトが地域社会で評価され、活用されることは、喜ばしい限りである。

（5）まとめー成果と課題ー

まず第1に、COC2年目を経て、本COC事業に関する広報の方法がほぼ固まってきたと言えること。諸事業や諸情報の送付等でのCOCリーフレットでの発信（a）、COC事業予定の本学ホームページへの掲載と長岡大学COC通信の発行（b）、事業案内パネルの展示（c）、各事業内容ブックレットの発行（d）、センター年報と本事業報告書の刊行（e）、新聞等マスコミ広告（f）に分けてみると、次のように言える。

（a）で、学生、保護者、連携企業・機関、市民・住民などすべての大学関係者にCOC事業の概要を知っていただく。（b）で、月々、随時の事業を学生、保護者、連携企業・機関の大学関係者に知っていただく。（c）は、学内やまちなかキャンパスなどへの学内外の訪問者に主な事業内容を知っていただく。（d）は各事業の、（e）は事業全体の、それぞれ詳細を知っていただく。最後の（f）は、一般市民に事業を知っていただく。媒体や時期により、こういう広報の組立てができた、と言える。

第2に、このなかで、（b）のホームページと（c）のパネル展示は、今後一層の充実が必要である。ホームページは情報の受発信の要であり、迅速なアップが必要だ。また、パネルの展示については、本事業の認知度を高める上で重要な手段であり、時宜を得たパネル作成に心がける必要がある。

第3に、（f）に対する考え方を明確にする必要がある。マスコミ、特に新聞掲載については、記事として掲載されるように事業をブラッシュアップすることを第1に心がける。その上で、社会人向け講座などに限定して、広告を検討する必要がある。

第4に、＜Eポート試乗会＞と＜十分杯プロジェクト＞が地域社会で評価され、地域の活性化に役立っていることは、COC事業の面目躍如を示す。次年度以降も、こうした地域活性化に資する事業展開をめざしたい。

長岡大学COC通信 6月号

平成26年度より「長岡大学COC通信」として「長岡大学通信」と一緒に発行しています。



長岡大学の「長岡地域・創造人材養成プログラム」が、平成25～29年度文部科学省「地(知)の拠点整備事業=大学COC事業」に採択されました。長岡市とともに産業活性化、社会課題解決および地域・コミュニティ活性化に取り組んでいます。

長岡大学 資格取得支援センターCOS がスタート!

シーオーエス

平成26年4月より資格取得支援センターCOSを開設いたしました。
 資格取得支援センターは資格取得に関する様々な相談に対応する学習支援センターです。
 資格直前対策講座を企画して、みなさんが万全の体制で資格試験に挑戦できるようにサポートします。「どうやって勉強したらいいの?」「どんな資格を取ろう?」など、日頃の学習の悩み相談も受け付けています。



資格取得支援センターCOS 1号館3階 原則として平日8:30～17:00

きめ細やかな学習サポートメニュー

1 資格学習相談

資格選びから資格取得の学習方法まで、みなさんの進路に応じた学習を提案します。

2 資格直前対策講座の実施

日々の資格学習の総仕上げと頻出ポイントをチェックできる直前対策講座を実施しています。

3 勉強会コーディネート

学生による学生のための勉強会の開催をサポートします。自習室の提供や書籍の閲覧もできます。

大切にしているのは「学び合い」

勉強会で教えるのは先生だけではありません。学生が教えたり、センター職員が参加することもあります。担当教員にアドバイスをもらいながら、事前に不明点を解消して、勉強会を進めています。いっしょに学びましょう!



学生のための勉強会は、
 ・会計研究会(サークル)
 ・販売士検定合格研究会(サークル)
 ・ITパスポート勉強会
 などがあります。
 皆さんが気軽に参加したり、新たに作ることもできます!

主な資格試験の日程と資格直前対策講座 (赤色は6月・7月の検定)

資格名	試験日	資格直前対策講座
日商簿記検定 1級	6月8日(日)、11月16日(日)	1級対策8月上旬～8月下旬
日商簿記検定 2・3級	6月8日(日)、11月16日(日)、2月22日(日)	2級対策11月6日～11月15日
販売士検定 1級	2月18日(木)	1月上旬～2月上旬
販売士検定 2級	10月1日(木)	9月13日～9月20日
販売士検定 3級	7月12日(土)、2月18日(木)	
経済学検定 (ミクロ・マクロ)	7月6日(日)、12月7日(日)	10月中旬～12月上旬
経営学検定 初・中級	6月29日(日)、11月30日(日)	中級対策11月6日～11月28日
eco検定	7月27日(日)、12月14日(日)	10月下旬～12月上旬
福祉住環境コーディネーター 1級	11月23日(日)	
福祉住環境コーディネーター 2・3級	7月6日(日)、11月23日(日)	2級対策11月11日～11月22日
医療事務管理士	7月26日(土)、9月27日(土)、11月22日(土)、1月24日(土)、3月28日(土)	
Word文書処理技能認定試験1・2・3級	7月19日(土)、11月29日(土)、2月17日(火)	2級6月24日～7月8日、1級1月22日～2月12日
Excel表計算処理技能認定試験1・2・3級	7月19日(土)、11月29日(土)、2月17日(火)	2級11月6日～11月20日、1級1月24日～2月7日
PowerPointプレゼン技能認定試験 初・上級	7月30日(木)	上級対策7月14日～7月28日
ITパスポート	ほぼ毎月実施。	10月上旬～10月下旬
TOEIC試験 (学内実施版)	7月5日(土)、12月13日(土)	
秘書検定 1級・準1級・2級・3級	6月22日(日)、11月9日(日)、2月8日(日)	

全国植樹祭のボランティアに参加しました!

6月1日(日)に開催された全国植樹祭。招待客への案内誘導や飲み物を接待するボランティアとして、学生21名が参加しました。炎天下の中、参加された招待客の皆様が和やかに、そして事故なく過ごしていただけるよう配慮しながら活動しました。実行委員会事務局の方からも、活動に対して高い評価をいただきました。

ハイブ長岡

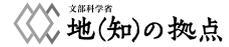


川口ぎずな館



長岡大学COC通信 7月号

平成26年度より「長岡大学COC通信」として「長岡大学通信」と一緒に発行しています。



長岡大学の「長岡地域創造人材養成プログラム」が、平成25～29年度文部科学省「地(知)の拠点整備事業=大学COC事業」に採択されました。長岡市とともに産業活性化、社会課題解決および地域・コミュニティ活性化に取り組んでいます。

女性のための起業セミナーがスタートしました!

- ★「女性のための起業セミナー」がスタートしました。7月1日～7月29日までの5回講座(毎回18:30～20:30、於・長岡大学教室)。7名の起業志向の女性が参加しています。
- ★講師陣は、小松俊樹(長岡大学教授/中小企業診断士)を中心に、今井進太郎(グローバルマーケティング社長/中小企業診断士)、山田康博(山田会計事務所/税理士)、細貝恵子(asitis~ありのままに菜食料理教室主宰)、高橋真由美(サマンサハート社長)の気鋭の5人です。創業プランづくりを懇切丁寧に指導・支援します。

私らしく生きる!
そんなあなたを
長岡大学が
応援します。



小松俊樹 講師

創業支援メンター制度がスタートしました!

- ★平成26年度の「創業支援メンター制度」が、7月1日(火)からスタートしました。この制度は、創業・起業の前・後、いつでも、企業経営等に関する相談ができる制度です。
- ★毎週月曜～金曜の5日間、10:00～16:00に申し込みをいただき、相談に応じる専門家を紹介します。初回は無料です。ご活用ください!
- ★皆様のご相談に応じる専門家は、信頼の厚い、小松俊樹、今井進太郎、山田康博の3名です。

申込先・お問合せ

長岡大学 地域連携研究センター TEL0258-39-1600



今井進太郎 講師

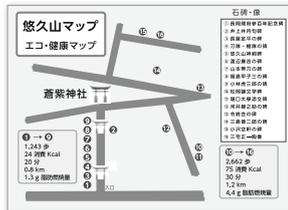


山田康博 講師

悠久山・東山地区バスツアーを7/30～31に実施します!

- ★悠久山・東山地区の活性化をめざして、7月30日・31日の両日、本学学生、教職員、栖吉地区の住民の方々が一緒にバスツアーを行います。両日とも9:30～11:30に実施。長岡大学学生駐車場に集まってください。参加者募集、大歓迎。参加費は無料です。

- ★このツアーは、悠久山・東山地区のマップづくりのための基礎調査です。この成果を踏まえて、ワークショップを開催し(9月～10月悠久祭)、マップを完成させ、地域住民の皆さんに配布する予定です。



平成26年3月、悠久山・東山フォーラム



創造人材に関するアンケート調査を7～8月に実施します!

- ★平成26年度の創造人材調査研究の一環として、「新潟・長岡地域における創造人材に関する基礎調査」(約3,000の企業・個人対象)を7～8月に実施します。調査票が届きましたら、ぜひご回答ください。ご回答の締切りは、平成26年8月15日(金)です。

- ★<創造人材>とは「創造的に仕事ができる人」です。このアンケートでは、企業には好業績を上げるためには、どのような能力を持った創造人材が必要とされているか、今後どのような方法で創造人材を養成するかなどについてお聞きします。

- ★この調査結果は、平成26年11月21日(金)開催予定の「長岡大学地域連携研究センター・シンポジウム」で報告します。



平成25年11月、地域連携研究センターシンポジウム

長岡大学COC通信 8月号

平成26年度より「長岡大学COC通信」として「長岡大学通信」と一緒に発行しています。



長岡大学の「長岡地域＜創造人材＞養成プログラム」が、平成25～29年度文部科学省「地(知)の拠点整備事業＝大学COC事業」に採択されました。長岡市とともに産業活性化、社会課題解決および地域・コミュニティ活性化に取り組んでいます。

<地域再発見！バスツアー> 悠久山・東山地区マップづくり

7月30日・31日の2日間、学生と地域の有志が
悠久山(栖吉)～東山地区をバスで探索しました。

1日目 東山地区



スキー場、ファミリーランド、コマランド、コスモス畑など、大学周辺に自然豊かな場所や施設があることを初めて知った学生が多く、歓声を上げていました。市内を一望できる長岡花火見物の穴場も見つけました。

2日目 栖吉地区



昔は身近に商店がありましたが、現在は減少しています。小さな遊園地があった成願寺温泉が中越地震で廃業したこと、悠久山公園が有志の寄付で造られたことなどを知りました。「栖吉」は住み良い所という意味だそうです。

★ 9月、10月にワークショップを計画しています。
地域の皆さんと一緒にマップを作ります。

<夏期集中授業> 学生起業家塾を開講します！

★ 今年も、学生起業家塾(長岡大学、長岡技術科学大学、長岡造形大学の単位互換科目。2単位)を、8月18日(月)～21日(木)の4日間、長岡大学にて開講します。

★ この起業家塾は、学生が数名でチーム(会社)を組んで、ビジネスプランづくりを通して、起業家精神や社会人基礎力を身につけます。最終日にビジネスプラン発表会を行います。このプランを基礎に、全国レベルのビジネスプラン・コンテストに応募します。



ビジネスプランを絞り込みます。



ビジネスプラン発表会

◆ 起業家塾講師

教授 小松俊樹

◆ 特別講演

松原亨 氏(株式会社バルメン社長)

◆ ビジネスプラン審査委員

松原亨 氏(株式会社バルメン社長)

田辺郁男 氏(長岡技術科学大学教授)

松丸武 氏(産業デザイナー)

内藤敏樹(長岡大学長)

長岡大学市民公開講座 初級簿記実践講座のご案内

個人商店の簿記の日常の取引に関する仕訳から決算書(財務諸表)の作成までを学びます。この講座を受けて、11月16日(日)の日商簿記検定3級にチャレンジしてみませんか。



開講日時 | 平成26年9月25日(木)～11月13日(木)
火・木曜日、全15回 時間 19:00～21:00

講師 | 准教授 中村 大輔

会場 | 長岡大学 締め切り | 9月18日(木)

募集人員 | 20名(先着順) ※受講者が3名に満たない場合は不開講

受講料 | 15,000円(初回にご持参ください。)

今後の講座予定

10月「No.1の国、アメリカが教えてくれるもの」 准教授 権 五景

11月「映画で見る中国現代史」 教授 兒嶋 俊郎

※他にも講座を予定しております。詳細についてはお問い合わせください。

長岡大学イノベーション人材養成講座 10月から始まる2講座のご案内

地域中小企業・行政等の専門・基幹人材の育成

商品企画講座

顧客の支持を得られる商品をどう企画するか

開講日時 | 平成26年10月7日(火)～11月25日(火)
毎週火曜日、全8回 時間 18:30～21:00

講師 | 教授 小松 俊樹

会場 | 長岡大学教室 締め切り | 9月30日(火)

募集人員 | 20名(先着順) ※受講者が3名に満たない場合は不開講

受講料 | 30,000円(初回にご持参ください。)

人材活用講座

企業を支える人材をどう育て、どう活用するか

開講日時 | 平成26年10月8日(水)～11月26日(水)
毎週水曜日、全8回 時間 18:30～21:00

講師 | 新潟大学経済学部准教授 岸 保行

会場 | 長岡大学教室 締め切り | 9月30日(火)

募集人員 | 20名(先着順) ※受講者が3名に満たない場合は不開講

受講料 | 30,000円(初回にご持参ください。)

※本学のイノベーション人材養成講座は、長岡市米百俵財団研修助成制度の対象講座です。

お問合せ・申込先

長岡大学 地域連携研究センター TEL 0258-39-1600(代) FAX 0258-39-9566

長岡大学COC通信 9月号

平成26年度より「長岡大学COC通信」として「長岡大学通信」と一緒に発行しています。



長岡大学の「長岡地域創造人材養成プログラム」が、平成25～29年度文部科学省「地(知)の拠点整備事業=大学COC事業」に採択されました。長岡市とともに産業活性化、社会課題解決および地域・コミュニティ活性化に取り組んでいます。

地域再発見！来たれ！10月25日(土) ワークショップ 悠久山・東山マップづくり

悠久山・東山マップづくりのワークショップを開催します。地域の皆さん、奮ってご参加下さい！

7月30日・31日の悠久山・東山地区バスツアーで、地域の宝物をたくさん見つけました。これを基にマップづくりを始めています。地域の皆さんにも参加していただき、地図に加えたい所、自慢したい所、注意してほしい所などのご意見をお聞かせ下さい。皆さんが「使ってみようマップ」をめざします。

25日、当日は悠久祭(大学祭)です。マップづくりの後には、イベントや模擬店も楽しみましょう。

【日時】10月25日(土) 10:00～12:00

【会場】長岡大学 学生食堂 ※参加していただける方は、下記申込先までご連絡下さい。



7/31 栖吉地区バスツアー



3/15 悠久山・東山フォーラム

平成25年度 本学教員による ＜地域志向教育研究＞成果発表会

平成25年度の＜地域志向教育研究＞は半年間の短い取組期間であったため、年度内に成果発表会を開催することができませんでした。平成26年度もこの5件の研究については継続しておりますが、年度半ばになりましたので、平成25年度の成果発表会を次の要領で開催します。

開講日時| 平成26年9月24日(水)

13:00～15:00 第4会議室



5/31 ながおかバル街

順番	発表テーマ	発表者
1	中越地域の企業系譜と産業系譜作り	権 五景
2	長岡市区域公共施設ベンチのGISを活用したデータの分析	内藤敏樹
3	「ながおかバル街」による中心市街地・店舗活性化の研究	中村大輔
4	新潟県の中小・地域金融機関による持続可能な社会の形成に向けた金融行動の現状を調べるための予備調査	西俣先子
5	地域企業の経営発展と成長および企業者活動についての研究	松本和明

平成26年度 長岡大学＜市民向け公開講座＞のご案内

※受講者が3名に満たない場合は、不開講とします。

9/25(木)～初級簿記実践講座



9/25～11/13 火・木曜
全15回 19:00～21:00
准教授 中村 大輔

個人商店の簿記の日常の取引に関する仕訳から決算書(財務諸表)の作成までを学びます。この講座を受けて、11月16日(日)の日商簿記検定3級にチャレンジしてみませんか。

会場 長岡大学

受講料 15,000円(15回) 申込期間 受付終了

11/6(木)～映画で見る中国現代史



11/6、13、20 木曜
全3回 19:00～21:00
教授 児嶋 俊郎

①「さらば、わが愛 霸王別姫」
②「ラヴソング」(「新宿インシデント」も参照)
③「狙った恋の落とし方。」の3本を見て、中国現代史の変遷をたどってみましょう。

会場 まちなかキャンパス長岡 302会議室

受講料 3,000円(3回) 申込期間 10月上～11/4

10/9(木)～No1の国、アメリカが教えてくれるもの



10/9、16、23、30 木曜
全4回 18:30～20:00
くおん おーびょん
准教授 権 五景



イギリスの支配下にあったアメリカは19世紀半ばから凄まじい勢いで工業力を伸ばしてきました。そして、第2次世界大戦の終戦直前にはその後の世界経済秩序の枠を作り、未だに絶大な影響力を有しています。

本講座は、①まず、どのようにして世界一の工業大国となったか、②新経済秩序(ブレンツェン体制)は世界をどのように変えたか、③IT時代に工場も持たないアメリカ製造企業が世界経済をリードする理由は何か、について触れたいと思います。④最後に、上記の3点を踏まえ、長岡の未来について討論を行います。

定員 30名(先着順)

会場 10/9 長岡大学

10/16,23,30 | まちなかキャンパス長岡302会議室

受講料 4,000円(4回) 申込期間 9月上～10/6

11/11(火)～公共交通と長岡地域100年のあゆみ(仮)



11/11、18、25、12/2 火曜
全4回 19:00～20:30
教授 松本 和明

①長岡鉄道の設立と展開。
②栃尾鉄道の設立と展開。③中越自動車の設立と展開。④越後交通の誕生とこれまで。

会場 長岡大学

受講料 4,000円(4回) 申込期間 10月上～11/6

2/4(水)～メンタルヘルスマネジメント



2/4、12、26、3/4、11水・木曜
全5回 19:00～20:30
准教授 山川 智子

働く人たちの心の不調の未然防止と活力ある職場づくりをめざして、メンタルヘルスマネジメントに関する知識を習得しましょう。3/15(日)のメンタルヘルスマネジメント検定Ⅲ種セルフケア対策講座も兼ねます。

会場 長岡大学

受講料 5,000円(5回) 申込期間 1月上～1/28

これからの予定

10/7(火)～イノベーション人材養成「商品企画講座」長岡大学

10/8(水)～イノベーション人材養成「人材活用講座」長岡大学

11/9(日) 長岡大学 創業・新ものづくり講演会

11/21(金) 地域連携研究センターシンポジウム

12/6(土) 学生による地域活性化プログラム成果発表会

アオーレ長岡

ニューオータニ長岡

ニューオータニ長岡

お問合せ・申込先

長岡大学 地域連携研究センター TEL 0258-39-1600(代) FAX 0258-39-9566

長岡大学COC通信10月号

文部科学省
地(知)の拠点

長岡大学の「長岡地域＜創造人材＞養成プログラム」が、平成25～29年度文部科学省「地(知)の拠点整備事業＝大学COC事業」に採択されました。長岡市とともに産業活性化、社会課題解決および地域・コミュニティ活性化に取り組んでいます。

平成26年度より「長岡大学COC通信」として「長岡大学通信」と一緒に発行しています。

長岡大学 創業・新ものづくり講演会 新しい市場のつくりかた



長岡ものづくりフェア実行委員会主催
＜豪技!長岡ものづくりフェア＞が
11月8日(土)・9日(日)に
アオーレ長岡で開催されます。

フェアの中で長岡大学は、「創業・
新ものづくり講演会」を開催します。
「新しい市場のつくりかた」著者の
三宅秀道氏をお迎えします。

講師 | 三宅 秀道 氏 専修大学経営学部 准教授
開講日時 | 平成26年11月9日(日)
時間13:30～15:00(受付13:00～) 受講料 無 料
会場 | アオーレ長岡 市民交流ホールA
定員 | 100名(先着順) 締め切り | 11月4日(火)



「豪技!長岡ものづくりフェア」では科学体験、
最新ロボット実演など楽しい催物があります。
ぜひ、ご家族でお越しください。

2014年長岡大学地域連携研究センターシンポジウム 企業競争力を支える＜創造人材＞の育成へ！ －創造人材調査を中心に－

8月に実施した「新潟・長岡地域における創造人材に関する基礎調査」の結果をベースに、＜創造人材＞の現状と今後の育成方向について、討論したいと思います。



第1部 | 基調報告
新潟・長岡地域における
創造人材の現状と育成の方向
第2部 | パネルディスカッション
企業競争力を支える(創造人材)の育成へ!
開講日時 | 平成26年11月21日(金)
時間14:30～17:00(受付14:00～) 参加費 無 料
会場 | ホテルニューオータニ長岡「桜の間」
定員 | 100名(先着順) 締め切り | 11月18日(火)

平成26年度Ⅱ期 長岡大学イノベーション人材育成講座 ものづくりマネジメント(生産性向上) 公開講座

ものづくりとイノベーションマネジメント



平成26年度イノベーション人材養成講座の第Ⅱ期講座として、
＜ものづくりマネジメント講座＞を
開講します。第1回目は公開講座
として、長岡技術科学大学准教授
の鈴木信貴氏をお迎えします。
皆さまのご参加をお待ちしてお
ります。

講師 | 鈴木 信貴 氏 長岡技術科学大学
経営情報系 准教授
開講日時 | 平成26年12月1日(月)
時間15:00～17:00(受付14:30～) 受講料 無 料
会場 | ホテルニューオータニ長岡「桜の間」
定員 | 100名(先着順) 締め切り | 11月27日(木)

長岡大学イノベーション人材養成講座 第Ⅱ期のご案内

地域中小企業・行政等の
専門・基幹人材の育成をめざす

ものづくりマネジメント(生産性向上)講座 グローバル競争下での長岡地域の企業・産業競争力向上

開講日時 | 12月1日(月)～2月16日(月)全8回 18:30～21:00
講師 | 東京大学MMRCものづくりインストラクター、長岡大学教授他
会場 | 長岡大学 締め切り | 11月27日(木)
募集人員 | 20名(先着順) ※受講者が3名に満たない場合は不開講
受講料 | 30,000円(第1回目の公開講座は無料)

※ただし第1回目(12/1)は公開講座として開講します。

会社経営者・経営幹部・財務担当者の方へ

管理会計講座

生産性の向上・管理会計の導入・具体化のノウハウを教授

開講日時 | 12月2日(火)～2月3日(火)全8回 18:30～21:00
講師 | 長岡大学准教授 中村 大輔
会場 | 長岡大学 締め切り | 11月27日(木)
募集人員 | 20名(先着順) ※受講者が3名に満たない場合は不開講
受講料 | 30,000円(初回にご持参ください。)

これからの
予定

12月6日(土) 平成26年度長岡大学 学生による地域活性化プログラム成果発表会
13:00～17:00 ホテルニューオータニ長岡 NCホール ※詳細は来月号でご案内します。

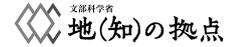


お問合せ・申込先

長岡大学 地域連携研究センター TEL 0258-39-1600(代) FAX 0258-39-9566

長岡大学COC通信11月号

平成26年度より「長岡大学COC通信」として「長岡大学通信」と一緒に発行しています。



長岡大学の「長岡地域＜創造人材＞養成プログラム」が、平成25～29年度文部科学省「地(知)の拠点整備事業＝大学COC事業」に採択されました。長岡市とともに産業活性化、社会課題解決および地域・コミュニティ活性化に取り組んでいます。

平成26年度Ⅱ期 長岡大学イノベーション人材養成講座 ものづくりマネジメント(生産性向上) 公開講座

ものづくりとイノベーションマネジメント



平成26年度イノベーション人材養成講座の第Ⅱ期講座として、<ものづくりマネジメント講座>を開講します。第1回目は公開講座として、長岡技術科学大学准教授の鈴木信貴氏をお迎えします。皆さまのご参加をお待ちしております。

講師 | 鈴木 信貴 氏 長岡技術科学大学 経営情報系 准教授

開講日時 | 平成26年12月1日(月)
時間15:00～17:00(受付14:30～) **受講料 無料**

会場 | ホテルニューオータニ長岡 「桜の間」
定員 | 100名(先着順) 締め切り | 11月27日(木)

長岡大学イノベーション人材養成講座

ものづくりマネジメント(生産性向上) 講座 グローバル競争下での長岡地域の企業・産業競争力向上

現場改善担当者・技術者・管理者、後継経営者、経営者、ものづくりインストラクター・ファシリテーター志望者の方へ

開講日時 | 12月1日(月)～2月16日(月)全8回 18:30～21:00
講師 | 東京大学MMRCものづくりインストラクター、長岡大学教授他
会場 | 長岡大学 締め切り | 11月27日(木)
募集人員 | 20名(先着順) ※受講者が3名に満たない場合は不開講
受講料 | 30,000円(第1回目の公開講座は無料)

- 第1回 12/1(月) 公開講座:ものづくりとイノベーションマネジメント
- 第2回 12/8(月) バリューチェーンと生産現場
- 第3回 12/15(月) 企業競争力と生産現場－藤本理論とは－
- 第4回 1/19(月) 生産管理と方針管理－現場改善の考え方－
- 第5回 1/26(月) 納期・工程・在庫管理・品質管理
- 第6回 2/2(月) 生産現場の改善と管理会計
- 第7回 2/9(月) 現場改善と人材活用の考え方
- 第8回 2/16(月) 課題発表とコメント

創業セミナー〔一般・シニアコース〕のご案内 12/16(火)～ <長岡地域起業家塾>

長岡大学の「長岡地域＜創造人材＞養成プログラム」が、平成25年度文部科学省「地(知)の拠点整備事業」＝大学COC事業に採択されました。このプログラムは課題解決や価値創造を担う専門人材＝創造人材の育成により地域再生・活性化の核として長岡大学を発展させることをめざすものです。その事業の1つとして、創業セミナーを開講いたします。学生からシニアまで、起業に興味のある方、起業をお考えの方にぜひご参加いただきたいと思います。(全8回)



講師陣 小松 俊樹 (長岡大学教授/中小企業診断士)
今井 進太郎 (グローバルマーケティング機代表/中小企業診断士)
山田 康博 (山田会計事務所/税理士) 他

時間 18:30～20:30 ※12/20(土)のみ、10:00～と13:00～の連続2回開講。

1	12/16(火)	創業・起業成功のポイント/創業計画シートの説明/自己紹介
2	12/20(土)	実践!売れる仕組みの作り方1(午前の部)
3	12/20(土)	実践!売れる仕組みの作り方2(午後の部)
4	1/13(火)	速攻!創業財務

受講料 **無料**
定員 20名(先着) 会場 長岡大学
申込 締め切り:12月12日(金)
長岡大学 地域連携研究センター 南雲

5	1/19(月)	創業に良く効くIT活用1
6	1/27(火)	創業に良く効くIT活用2
7	2/3(火)	資金調達のポイント/創業体験談
8	2/10(火)	成果発表/開業プロモーション計画

創業支援メンター活用のご案内

創業セミナーの開催とともに、創業・起業前、後の経営等相談ができる<創業支援メンター制度>を4月から開始しております。大いにご活用ください。

*メンターとは、様々な経営等の問題解決に助言・支援する専門家のこと。



相談料 初回は無料。その後は応相談。
申込時間 毎週 月～金曜日 10:00～16:00
申込事項 ①相談事項 ②希望相談日時 ③相談者の連絡先

活用の流れ

- ①電話またはメールで申し込む
- ②メンターと日程調整
- ③相談者に連絡
- ④相談実施

申込・問合せ 長岡大学 地域連携研究センター 南雲

お問合せ・申込先 長岡大学 地域連携研究センター TEL 0258-39-1600(代) FAX 0258-39-9566

長岡大学COC通信 1月号

平成26年度より「長岡大学COC通信」として「長岡大学通信」と一緒に発行しています。



長岡大学の「長岡地域・創造人材」養成プログラムが、平成25～29年度文部科学省「地(知)の拠点整備事業=大学COC事業」に採択されました。長岡市とともに産業活性化、社会課題解決および地域・コミュニティ活性化に取り組んでいます。

起業家から若者に贈る 進路選びのメッセージ

人材育成
オリブ塾

長岡出身の清水亮さんは、大学時代に渡米してマイクロソフト社で働き、帰国後に東京で会社を設立しました。世界で活躍するIT起業家から、自分の将来を予測して行動できる秘訣を教わります。



日時 | 2015年 2月7日(土) 14:00～16:30

会場 | まちなかキャンパス長岡 4F 交流ひろば

対象 | 高校生/大学生/起業志望者

定員 | 40名(抽選) 入場無料 主催 | 長岡市、長岡大学

講演・対話 **清水 亮 氏** (株)ユビキタスエンターテインメント代表取締役社長

1976年長岡市生まれ。大学在学中にマイクロソフト社で次世代ゲーム機向けOS開発に関わる。2003年に起業。2005年、天才プログラマー/スーパークリエイターとして認定。

討論会 **起業家と話そう、これからの長岡、未来の私たち**

パネリスト **清水 亮 氏**

大沼喜也 氏 長岡パワーエレクトロニクス(株)CEO <技大発ベンチャー>

原田誠司 氏 長岡大学副学長・教授

コーディネーター **川島宏一 氏** (株)公共イノベーション代表取締役

申込 1月27日(火)まで 長岡市政策企画課 TEL:0258(39)2204

進化するインターンシップ 新潟フォーラム

学生の発表を
聞きに行こう!

インターンシップを通して、学生の主体的な学びの力をつけることを目標として取り組んだ、学生の自己成長と成果を発表します。長岡大学からは十分杯チームが発表します。

日時 | 2015年 3月4日(水) 13:00～17:00

会場 | 新潟日報メディアシップ 2階 日報ホール

定員 | 200名 入場無料

発表

- ・新潟大学農学部 育てよう！子供たちの食育・花育の輪
- ・新潟青陵大学 地域商店街と考えるインターンシップ
- ・新潟工科大学 企業の課題に挑戦！～学内・学外実習～
- ・上越教育大学 「学校ボランティア」等の取組からの学び
- ・新潟県立大学 外国人観光客を呼び込む新たな観光戦略
- ・長岡造形大学 灯そうよ心一つに竹明り・みしま竹あかり街道
- ・長岡大学 十分杯で長岡を知らせよう！(権ゼミ)
- ・新潟国際情報大学 世界をもっと：地域連携による国際理解教育
- ・敬和学園大学 復興支援インターン@南三陸とその後の取組

申込 2月19日(木)までに下記までご連絡ください。

長岡大学市民公開講座 メンタルヘルス・マネジメント

働く人たちの心の不調の予防と活力ある職場づくりをめざして、メンタルヘルス・マネジメント(心の健康管理)に関する知識を習得しましょう。

自分のメンタルヘルスを健全に保つポイントもお伝えします。この講座は「メンタルヘルスマネジメント検定Ⅲ種セルフケア」検定試験の対策にもなります。(全5回)



日程 | 2/4(水)、2/12(木)、2/26(木)、3/4(水)、3/11(水)

時間 | 各回 19:00～20:30

講師 | 准教授 **山川 智子**

会場 | 長岡大学 1号館3階 資格取得支援センター

定員 | 20名(先着順)

受講料 | 5,000円(初回にご持参ください。)

申込 1月28日(水)までに下記までご連絡ください。

平成26年度 **本学教員による** ＜地域志向教育研究＞成果発表会

本学教員による地域課題解決を目指す地域志向型教育研究の平成26年度成果発表会を次の要領で開催します。お気軽にご参加ください。お問合せは下記まで。

日時 | 2月25日(水) 13:30～17:15 231講義室

発表テーマ	発表者
1 中越地域の企業系譜と産業系譜作り	権 五景
2 新潟における戦争の記憶	児嶋俊郎
3 長岡市区域公共施設ピンチのGISを活用したデータの分析	内藤敏樹
4 「ながおかバル街」による中心市街地・店舗活性化の研究	中村大輔
5 新潟県の中小・地域金融機関による持続可能な社会の形成に向けた金融行動の現状を探るための予備調査	西俣先子
6 産官学連携の消費者市民教育の実施による大学生の社会参画意識の変容の検証	橋長真紀子
7 地域企業の経営発展と成長および企業者活動についての研究	松本和明
8 「買い物支援」を中心とした住民ネットワーク構築の必要性	米山宗久

お問合せ・申込先 長岡大学 地域連携研究センター TEL 0258-39-1600(代) FAX 0258-39-9566

長岡大学COC通信 3 2015年 月号

文部科学省
地(知)の拠点

長岡大学の「長岡地域＜創造人材＞養成プログラム」が、平成25～29年度文部科学省「地(知)の拠点整備事業＝大学COC事業」に採択されました。長岡市とともに産業活性化、社会課題解決および地域・コミュニティ活性化に取り組んでいます。

今月は長岡大学COC事業の取組概要をお伝えします。

現代の「米百俵の精神」の実現をめざして 連携自治体：長岡市 長岡地域＜創造人材＞養成プログラム

※＜創造人材＞とは、地域課題解決・価値創造を担う専門的能力を身につけた学生・社会人
＜創造人材＞養成で地域に貢献する大学—地域で役に立ち、頼りになる大学—



事業の概要・目的

地域の課題 連携自治体＜長岡市＞

- 産業活性化** (平成25年度申請時点)
グローバル経済下の競争に勝つ(産業空洞化回避)のための企業競争力の強化と新産業創出の方策を考える。
- 市民協働による社会課題解決**
高齢化に伴う健康、医療、福祉、環境等多様な課題解決を市民協働でどう進めるかを考える。
- 地域・コミュニティの活性化**
少子高齢化に伴う人口減少下で、どう地域・コミュニティの活性化を行うか、を考える。

課題解決のための大学の取組

教育

諸専門能力(上級情報・専門資格取得)、地域志向科目の拡大・進化による社会人基礎力、起業人材の養成。

研究

産業競争力、創造人材、人口減少、ボランティアの4つの調査研究と課題解決に貢献。地域志向調査研究も推進。

社会貢献

地域活性化の推進(中山間地等、市民講座や企業人養成講座、起業人材の養成(女性等)による社会貢献。

人材育成の取組

ローカル型
L型大学へ!

人材育成像

- 専門資格と社会人基礎力を有する仕事積極推進型
地域企業活動等の若者担い手
- ボランティア・スキルを身につけたボランティア人
地域の市民協働の担い手
- 起業ノウハウを身につけた学生起業人材
地域の新産業の担い手
- 企業競争力を支えるイノベーション人材
専門ノウハウを有する企業人
- 女性・シニア等起業家 地域の新産業の担い手

目指す人材育成のためのカリキュラム改革

■ 専門等資格取得のしくみ構築

資格取得支援センターによる、資格対応型専門教育プログラム(専門演習・受験対策講座・相談・指導)を強化。

■ 地域志向科目の拡大と進化

地域志向科目の拡大、地域課題解決プログラムの充実。

■ 起業家塾の充実

夏季集中の起業家塾授業を年間継続開催に拡大。



これまでの成果

■ 資格取得相談者・取得者

平成26年度資格取得支援センターへの相談者数は延べ1200人。取得者数延べ61人、合格率43.6%。

■ 地域志向科目の拡大

16から35科目に拡大した(平成26年度)。

■ 地域活性化プログラムの拡大・充実

地域の課題解決をテーマとする、学生による地域活性化プログラム(3・4年生必修ゼミ)は、10プロジェクトに拡大。

学生による地域活性化プログラム
平成26年度 成果発表会



■ 人材育成の取組事例

学生による地域活性化プログラムより事例紹介

事例1 (3・4年生必修ゼミ/4単位)

十分杯で長岡を知らせよう

江戸時代の長岡藩で俵助を奨励するものとして奨励された「十分杯」(サイフォンの原理応用の杯)の歴史、意義、現代での生かし方等を調査研究し、長岡市の文化財として位置づけ直し、観光文化資源としてアピールするべきとの提案を行った。長岡市・地域から関心をよび、高く評価された。学生の課題解決・社会人基礎力は大きい向上した。



事例2 (3・4年生必修ゼミ/4単位)

企業の情報発信とホームページの役割

長岡大学も参加するNPO法人長岡地域産業活性化協会NAZEの中小製造業企業のホームページをコンテンツとシステム両面から診断評価し、改善提案を行う。平成25年度2社、26年度3社行った。いずれも、NAZE総会で発表し、好評を得ている。学生の社会人基礎力も向上した。



課題に対する大学の取組	25年度	26年度(予定)	29年度最終年度(目標値)
地域志向科目の履修科目数(学生数)	19 (680)	35 (1,000)	35 (1,000)
地域活性化プログラム(授業)参加学生割合	40%	50%	80%

卒業後の学生のイメージ

- 1 情報・専門的資格(能力)をもち、かつ事業を主体的・創造的に推進する意欲をもち、職場のリーダーとして活躍できる人材
- 2 地震等災害や地域活性化の諸活動に積極的に参加し、かつ、そうしたボランティア活動を中心になって担い、人口減少社会への貢献を行える人材

カリキュラムマップ

	1年	2年	3年	4年
地域志向科目				
社会人基礎力養成科目				
専門科目(資格取得)				

地域産業界・社会から求められている能力＝専門性・社会人基礎力とボランティア・スキルを4年間で養成し、地域企業・社会のリーダーとして活躍できる能力を養成する授業を行う。

地域志向カリキュラムの特徴

地域志向科目35科目

平成26年度から地域志向科目を35科目に拡大し、地域を学び、地域課題解決に取り組む領域を大幅に拡大した。

社会人基礎力養成科目

● ボランティア・スキルの養成

1年生から、ボランティア論・体験授業(4単位)と地域の諸ボランティア活動を行う。

● インターンシップ

2年生から、インターンシップ(集中型、課題解決型)(2単位)を行い、地域企業での就業体験、課題解決活動を行う。

● 学生による地域活性化プログラム

主として3・4年生ゼミ(必修)を対象にして、＜学生による地域活性化プログラム＞を実施。同プログラム推進協議会(連携自治体長岡市等)で地域の取組課題(産業、環境、福祉、コミュニティ、文化、国際等)を各ゼミごとに設定し、連携アドバイザーとゼミ担当教員の指導のもとに、文献調査・フィールドワーク等を行い、課題解決提案を行うPBL型プロジェクトである。平成26年度は10プロジェクトが参加した。

米百俵の精神を受け継ぐ人材の育成強化を



新潟県長岡市
市長政策室政策企画課課長 中村 英樹氏

長岡大学と長岡市は、平成19年に包括連携協定を締結し、ものづくりの生産性向上や起業創業、地元産業界が求める人材育成など、より具体的に地域課題の解決に取り組んでいます。本プログラムを通じて、学生が地域の中に入り、祭りなどの伝統を支え、さらには地域住民と一緒に活性化策を考える場面を見ると、積極的かつ創造的人材が育っていると実感しています。これからも、長岡が誇る米百俵の精神を受け継ぐ人材の育成強化に取り組まれることを期待しております。

「起業家塾」から県知事賞受賞



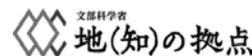
長岡大学
環境経済学科4年次 石井 恵夢

「起業家塾」は夏季集中授業(2単位)です。8月の4日間、数名で仮想会社を立ち上げ、ビジネスプランを競います。私もこの科目を履修し、5人のチームでマクロビオテックと米粉を融合したレストランを企画しました。このプランは新潟県のキャンパスベンチャー・コンテストで、見事、最優秀賞＝知事賞を受賞しました(平成24年度)。COC事業でも継続しています。社会人基礎力が大いに向上し自信がつくお奨め授業です。



図表6-18-2 文科省のリーフレット

平成25年度「地(知)の拠点整備事業」選定取組



長岡大学

連携自治体：長岡市

事業名：長岡地域<創造人材>養成プログラム



事業の概要・目的

(地域の課題)

連携自治体<長岡市>の課題(平成25年度申請時点)

【第1】産業活性化

グローバル経済下の競争に勝つ(産業空洞化回避)ための企業競争力の強化と新産業創出の方策を考える。

【第2】市民協働による社会課題解決

高齢化に伴う健康、医療、福祉、環境等多様な課題解決を市民協働でどう進めるかを考える。

【第3】地域・コミュニティの活性化

少子高齢化に伴う人口減少下で、どう地域・コミュニティの活性化を行うか、を考える。

(課題解決のための大学の取組)

【教育】

諸専門能力(上級情報・専門資格取得)、地域志向科目の拡大・進化による企業・社会課題解決能力(社会人基礎力、起業人材等)の養成。

【研究】

産業競争力、創造人材、人口減少、ボランティアの4つの調査研究と課題解決に貢献。地域志向調査研究も推進。

【社会貢献】

地域活性化の推進(中山間地等)、市民講座や企業人養成講座、起業人材の養成(女性等)による社会貢献。

人材育成の取組

(人材育成像)

●専門資格と社会人基礎力を有する仕事積極推進人

= 地域企業活動等の若者担い手

●ボランティア・スキルを身につけたボランティア人

= 地域の市民協働の担い手

●起業ノウハウを身につけた学生起業人材

= 地域の新産業の担い手

●企業競争力を支えるイノベーション人材

= 専門ノウハウを有する企業人

●女性・シニア等起業家= 地域の新産業の担い手

(目指す人材育成のためのカリキュラム改革)

■専門等資格取得の仕組み構築

資格取得支援センターによる、学生支援(演習-受験対策講座-相談-指導)の強化による資格取得者の大幅な増大。

■地域志向科目の拡大と進化

地域志向科目の拡大、地域課題解決プログラムの充実。

課題に対する大学の取組	25年度	26年度(予定)	29年度(最終年度)(目標値)
地域志向科目の履修科目数(学生数)	19 (680)	35 (1,000)	35 (1,000)
地域活性化プログラム(授業)参加学生割合	40%	50%	80%

■起業家塾の充実

夏季集中の起業家塾授業を年間継続開催に拡大。

(これまでの成果)

■資格取得相談者・取得者

平成26年度資格取得支援センターへの相談者数は延べ1200人。取得者数延べ61人、合格率43.6%。

■地域志向科目の拡大

16から35科目に拡大した(平成26年度)。

■地域活性化プログラムの拡大・充実

地域の課題解決をテーマとする

地域活性化プログラム(3・4年生必修ゼミは、10ゼミに拡大。

地域活性化プログラム

成果発表会

平成26年度

地域活性化プログラム

成果発表会

(卒業後の学生のイメージ)

① 情報・専門的資格(能力)をもち、かつ事業を主体的・創造的に推進する意欲をもち、職場のリーダーとして活躍できる人材

② 地震等災害や地域活性化の諸活動に積極的に参加し、かつ、そうしたボランティア活動を中心になって担い、人口減少社会への貢献を行える人材

カリキュラムマップ

	1年	2年	3年	4年
地域志向科目				
社会人基礎力養成科目				
専門科目(資格取得)				

地域産業界・社会から求められている能力=専門性・社会人基礎力とボランティア・スキルを4年間で養成し、地域企業・社会のリーダーとして活躍できる能力を養成する授業を行う。

(地域志向カリキュラムの特徴)

■地域志向科目35科目

平成26年度から地域志向科目を35科目に拡大し、地域を学び、地域課題解決に取り組む領域を大幅に拡大した。

■社会人基礎力養成科目

【ボランティア・スキルの養成】

1年生から、ボランティア論・体験授業(4単位)と地域の諸ボランティア活動を行う。

【インターンシップ】

2年生から、インターンシップ(集中型、課題解決型)(2単位)を行い、地域企業での就業体験、課題解決活動を行う。

【地域活性化プログラム】

主として3・4年ゼミ(必修)を対象にして、<学生による地域活性化プログラム>を実施。同プログラム推進協議会(連携自治体長岡市等)で地域の取組課題(産業、環境、福祉、コミュニティ、文化、国際等)を各ゼミごとに設定し、連携アドバイザーとゼミ担当教員の指導のもとに、文献調査・フィールドワーク等を行い、課題解決提案を行うPBL型プロジェクトである。平成26年度は10ゼミ、10プロジェクトが参加した。

米百億の精神を受け継ぐ人材の育成強化を



自治体名：新潟県長岡市
役職：市長政策室政策企画課課長

氏名 中村 英樹

長岡大学と長岡市は、平成19年に包括連携協定を締結し、ものづくりの生産性向上や起業創業、地元産業界が求める人材育成など、より具体的に地域課題の解決に取り組んでいます。本プログラムを通じて、学生が地域の中に入り、祭りなどの伝統を支え、さらには地域住民と一緒に進んで活性化策を考える場面を見ると、積極的かつ創造的人材が育っていると感じています。これからも、長岡が誇る米百億の精神を受け継ぐ人材の育成強化に取り組まれることを期待しております。



「起業家塾」から県知事賞受賞

長岡大学
経済経営学部環境経済学科 4年次

氏名 石井 恵夢



県知事賞を受賞しました。

「起業家塾」は夏季集中授業(2単位)です。8月の4日間、数名で仮想会社を立ち上げ、ビジネスプランを競います。私もこの科目を履修し、5人のチームでマクロビオテックと米粉を融合したレストランを企画しました。このプランは、新潟県のキャンパスベンチャーコンテストで、見事、最優秀賞=知事賞を受賞しました(平成24年度)。OOO事業でも継続しています。社会人基礎力が大いに向上し自信がつけたい授業です。

地域連携研究 年報

地域連携研究創刊号

はじめに 一長岡大学『地域連携研究』の発刊にあたって一 長岡大学長/長岡大学地域連携研究センター所長 内藤 敏 樹	1
特集 2013長岡大学地域連携研究センター・設立記念シンポジウム グローバル競争に勝つ産業競争力の形成へ！一新潟・長岡地域製造業を中心に一 一主催者の開会ご挨拶一 長岡大学長/長岡大学地域連携研究センター所長 内藤 敏 樹	4
第1部 基調報告は論稿21～52頁に掲載	
第2部 パネルディスカッション 「グローバル競争に勝つ産業競争力の形成へ！一新潟・長岡地域製造業を中心に」 小西統雄、島津克吉、小川智史、山田清貴 野中 敏、目黒正義、小松俊樹、原田誠司	5
論稿	
<平成25年度長岡大学COO事業・調査研究成果> 新潟・長岡地域における産業競争力の現状と強化の方向 原 田 誠 司	21
<平成25年度長岡大学COO事業・調査研究成果> 田村文吉の企業者活動と地域・社会貢献活動 松 本 和 明	53
ミャンマー連邦共和国における産業人材育成 一産学官共同による経済協力の実現に向けて一 内 藤 敏 樹	63
北陸新幹線（長野～金沢間）開業に伴う北信越地域への影響分析 鯉 江 康 正	71
国際政治における到達点と課題 一王政間競争・冷戦からグローバリゼーションまで一 広 田 秀 樹	89
児童が被害者となるネットワーク利用犯罪の増加と対策 村 山 光 博	97
一人暮らし高齢者の買い物支援の必要性 一生活自立状況の視点から一 米 山 宗 久	105
長岡大学地域連携研究センターご案内	113
センター日誌	114
長岡大学地域連携研究センター規程	115

Eボート試乗会で地域交流



長岡大学では、学生グループによる地域課題の調査研究、解決方策の提案により、学生の社会人基礎力向上と地域貢献をめざす「学生による地域活性化プログラム」に取り組んでいる。高橋治道ゼミナールの取り組み「地域の魅力発信による絆結びー神谷の魅力をつなげ・ひろげるー」の活動として、平成26年10月18(土)日、新潟県長岡市神谷地区の須川でEボート試乗会を行った。神谷の自然と親しむ楽しさを子供たちに伝えることを目的に、平成25年度から計画し、準備してきたものである。

当日は好天に恵まれ、学生10名、教職員2名、インストラクター1名、そして神谷地区の住民(7歳から85歳まで)約20名が参加した。一緒にEボートに乗り、須川の昔の様子を聞いたり、話をしたり、交流の中から川を活用するアイデアが出されるなど、地域の活性化に繋がる1日となった。

(教育学術新聞 新年号に掲載)

<Eボートとは>

誰でも(everybody)、簡単に(easy)、楽しめる(enjoy)10人乗りの大きなゴム製カヌー。空気を抜けば自動車のトランクに入ってしまう、水辺の交流ツール。

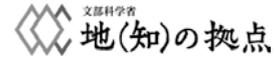


この日はNHKが取材に入り、平成25年10月22日(水)午後7時30分からの「クローズアップ現代」(全国放送)で放映された。

図表 6-18-5 インターンシップ新潟フォーラム参加



「地(知)の拠点整備事業」(大学COC事業)
長岡地域<創造人材>養成プログラム



『進化するインターンシップ新潟フォーラム』 に権ゼミナールの学生が参加しました

3月4日(水)に新潟日報メディアシップ(新潟市中央区)で「進化するインターンシップ 新潟フォーラム」が開催され、県内10大学・短大の学生がインターンシップ(就業体験)やボランティア活動の成果を発表しました。

本学からは、学生による地域活性化プログラムに取り組んでいる権ゼミナールの学生3名が、「十分杯で長岡を盛り上げよう」をテーマに発表を行いました。10月に行った「十分杯会議」で学生たちが提案したものの中から、JR 東日本の観光列車「越乃 Shu*Kura」とのコラボレーションが実現したこと等が紹介されました。また、実際に十分杯(学生が作成した紙コップ十分杯)と染色した水を用いて、十分杯の中で水がどのように流れるのか実演しました。会場には十分杯を知らない・見たことのない人も多く、好評でした。

この模様は3月5日(木)の新潟日報朝刊に掲載され、中澤司さんのコメントが紹介されました。

「発表の様子」



「十分杯会議の様子(10月)」



「十分杯広報活動の様子」



越乃 Shu*Kura で行われる十分杯を使ったイベント「十分杯で地酒」の実施日
*3/21(土) *4/11(土) *5/5(火祝) *6/27(土)

文部科学省「地（知）の拠点整備事業」＝大学COC事業（平成25～29年度）
長岡大学COC事業＝長岡地域＜創造人材＞養成プログラム

平成26年度報告書

【発行日】平成27年3月25日

【発行】長岡大学地（知）の拠点整備事業推進本部
長岡大学地域連携研究センター

〒940-0828 新潟県長岡市御山町80-8

TEL 0258-39-1600（代）

FAX 0258-39-9566

<http://www.nagaokauniv.ac.jp>

